洗足こども短期大学
幼児教育保育科

2025 年度

シラバス

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2025年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
教育原理	1
子どもの理解と援助	3
保育内容（健康）	5
保育内容（人間関係）	7
保育内容（環境）	9
保育内容（言葉）	11
保育内容・造形的表現	13
保育内容・総論	15
基礎実習指導	17
ピアノⅠ	19
ピアノⅠ 再履修	22
幼児音楽Ⅰ	25
造形表現（表現）	28
子どもの健康と運動遊び	31
子どもの保健	34
子ども家庭福祉	36
保育者のための文章表現	38
特別支援と保育Ⅰ	41
保育原理	43
教育心理学	45
幼児理解とカウンセリングマインド	47
教育課程論	49
保育者論	51
保育・教職実践演習(幼稚園)	53
教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）	55
教育実習Ⅱ（事前事後の指導を含む）	57
ピアノⅡ	59
幼児音楽ⅠⅠ	62
子ども家庭支援の心理学	65
子どもの健康と安全	67
幼児教育の方法と技術	69
特別支援と保育Ⅱ	72

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2025年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
社会福祉	74
合唱	76
演技実習	79
社会的養護Ⅰ	81
子どもの食と栄養	83
乳児保育Ⅰ	85
乳児保育ⅠⅠ	87
子ども家庭支援論	89
保育所実習Ⅰ	91
保育所実習ⅠⅠ	93
保育実習指導Ⅰ（保育所）	95
保育実習指導ⅠⅠ（保育所）	97
児童福祉施設実習Ⅰ	99
保育実習指導Ⅰ（施設）	101
社会的養護Ⅱ	103
子育て支援	105
情報機器の操作	107
英語(外国語コミュニケーション)	109
健康・スポーツ	111
保健体育	113
法学（日本国憲法）	115
ビジネス講座(秘書検定対策)	117
ウィンド・バンド1	120
ウィンド・バンド2	123
ミュージカル	126
特別研究（ゼミ）秋山	128
特別研究（ゼミ）瀧尾	131
特別研究（ゼミ）石濱・下尾	134
特別研究（ゼミ）亀井	137
特別研究（ゼミ）田口・Salia	140
特別研究（ゼミ）谷上	143
特別研究（ゼミ）井上・加藤	146

洗足こども短期大学 幼児教育保育科

2025年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
特別研究（ゼミ） 稲葉	149
特別研究（ゼミ） 菊本	152
特別研究（ゼミ） クリス	155
特別研究（ゼミ） 飯田	158
特別研究（ゼミ） 尾根	161
特別研究（ゼミ） 山田	164
特別研究（ゼミ） 坪井・岡本	167
パイプオルガン1	170
パイプオルガン2	173

科目名	教育原理	授業コード	YK4115**	科目コード	YK4115
担当教員	柳井 郁子				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
保育士資格					
必修					
1. 主題・到達目標					
【主題】 教育とは何か、学校とは、そして学ぶとはどういうことかを考える。また、教育学は何を課題としてきたかについても学ぶ。					
【到達目標】 ・教育の意義、目的及び基本的概念について理解する。DP② ・教育の思想及び歴史について理解する。DP② ・保育者として現代の教育をめぐる諸課題について自ら考え、自分の意見をもち議論できるようになる。DP①					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
基本的に講義形式だが、理解を深めるためのグループワークや教育実践例の検討等については議論の機会を設ける予定である。学校や保育の現場における授業実践や保育実践、及び家庭や地域社会における教育の方法・内容・制度についても取り上げ、さまざまな教育の場における現代的課題について考える。保育者になるためには教育や子どもに対する多様な見方・考え方を理解し、自らも保育観・子ども観について常に考え続けることが必要である。そのため、グループ学習やディスカッションを多く取り入れる。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
広範な学習内容になる。教育関係の図書資料をできるだけ多く読み、毎日の報道からも材料を得て、意欲的に学習を発展させること。また、授業で紹介する参考図書については、できるだけ多く読むこと。次回の授業の予習として、教科書の該当箇所を読んでくること。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
定期試験50%、レポート30%、授業への参加状況20% 定期試験は定期試験期間に筆記試験を実施し、授業内容全般についての理解度を評価する。 レポートは、テーマについての理解や考察の深さ等の内容の充実度を評価する。 授業への参加状況は、授業内での発言やグループワークにおける積極性及び内容を評価する					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 『保育者・小学校教諭を目指す学生のための ワークで学ぶ 教育原理』柳井郁子・長島万里子編著 ミネルヴァ書房（2025年） 2,640円（税込）					
【参考文献】 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料> https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。 随時学生からの発言を求めらるので、積極的な参加を期待する。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業内容及び授業の受け方について）／保育者になるための教育と学び
2	教育とは何か
3	学校とは何か
4	保育者・教師の専門性
5	学ぶことの意味
6	西洋の教育思想
7	日本の教育思想
8	教育の歴史①近代公教育制度の成立
9	教育の歴史②戦後の学校教育
10	教育の制度
11	教育実践の可能性
12	子どもの権利と教育
13	社会教育と生涯学習
14	世界の教育
15	新しい教育の課題と保育者・教師

科目名	子どもの理解と援助	授業コード	YE4148**	科目コード	YE4148
担当教員	山本 有紀・岡本 かおり				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活や遊び、活動における心身の発達と学びの過程、およびその援助について学ぶ。 子どもを理解するための保育者の基本的な態度や姿勢、視点を理解し、子どもを理解する具体的な方法について学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義と実際について理解する。DP②、④ 発達援助のための保育者の視点や態度の基本を理解した上で、保育援助での留意点を自分の言葉で説明できる。DP①、②、④ 観察や記録、振り返りを中心とした子どもの理解についての具体的方法を知る。DP② 保育者としての自覚をもち、将来の保育実践において子どもの理解と援助での重要な点を意識することができる。DP①、④ 発達援助のための家庭とのつながりや保育者同士の対話の重要性を理解する。DP②、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> 保育における子どもの理解の意義について理解し、共感的理解をはじめとする子どもとの関わりでの保育者の視点や態度の基本を学ぶ。 子どもの生活や遊び、体験や学びの過程についての理解を深め、個と集団の育ち、子ども相互の関わり、葛藤やつまずき、子どもを取り巻く環境の重要性について多面的に学ぶ。 子どもの理解のための観察や記録、振り返りについての具体的方法を学ぶとともに、グループディスカッションやリアクションシートの提出を通して、自分の言葉で保育者に求められる留意点を説明できるようにする。 個々の子どもの心身の発達に応じた援助や、家庭との連携、保育者間の対話による子ども理解の深まり、就学に向けた発達の連続性を意識した援助について学ぶ。 授業資料、参考資料、動画リンク等の教材を適宜共有し、予習や復習、調べ学習、グループディスカッション等に活用する。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>予習と復習の詳細な方法は、担当教員の指示に従うこと。テキストの該当章や、担当教員が提示した資料を読み、予習をすること。また、授業後は、学んだことをどのように保育実践に活かしていけるのかを自分なりに考え、まとめること。テキストや提示資料を読み返すとともに、紹介した参考文献から考えを広げていくような復習をおこなうこと。予習復習、リアクションシートの提出やグループ発表のための文献検索、資料収集と作成に120分を想定する。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業内容の理解度の確認のためのレポート課題60%、リアクションシートなど授業毎の課題の提出状況およびグループディスカッションなどへの取り組み姿勢40%</p> <p>詳細については、授業時に担当教員より指示をする。 指定した授業回に、授業内容の理解の確認のためのレポート課題を課す。 リアクションシートなど授業毎の課題は、講義の視点と絡めて考察をしているかどうかを評価する。 保育者の子どもへのまなざしや子どもを理解する視点について、自分の言葉で説明できることを目指す。 グループディスカッションでは、発表を含め、取り組みの姿勢を評価する。 成績は、上記項目を総合的に評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「新・子ども理解と援助 ーその理論と方法ー」 入江 慶太 編著 教育情報出版（2021年）2,000円（税込） 詳細は、担当教員より指示をする。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「エピソードで学ぶ 保育のための心理学 子ども理解のまなざし」 塚田みちる・岡本依子・菅野幸恵 著 新曜社（2019年）2,310円（税込） 「発達心理学で読み解く保育エピソード ー保育者を目指す学生の学びを通して」 若尾良徳・岡部康成 編著 北樹出版（2010年）2,090円（税込） 「幼児理解に基づいた評価 平成31年3月」 文部科学省 チャイルド本社（2019年）275円（税込） 					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>子どもの発達や学びの過程に関して、前期の開講科目、教育心理学で学んだ基礎知識を応用するため、よく復習しておくこと。演習科目として、子どもを理解するための基本的な視点や態度を学び、子どもの理解に基づく保育実践や発達援助に関して自ら具体的に考える姿勢をもつことを望む。</p>					

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション、子どもの実態に応じた発達や学びの把握① 保育における子ども理解の意義、保育者の姿勢
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握② 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開、子どもへの共感的理解と関わり
3	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊びについての発達の観点、子どもの体験と学びの過程
4	子どもを理解する視点② 発達と学習の視点からの環境の理解、人的環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもを理解する視点③ 子ども相互の関わりと関係づくり、葛藤やつまずき
6	子どもを理解する視点④ 保育における個と集団、集団における経験と育ち
7	子どもを理解する視点⑤ 保育の環境の理解と構成、環境の変化と移行
8	子どもを理解する具体的方法① 保育における観察と記録、保育の場で子どもを“見る”とは
9	子どもを理解する具体的方法② 保育における観察と記録、保育記録の具体例
10	子どもを理解する具体的方法③ 記録に基づく省察・評価、子どもの理解を深めるための職員間の対話と具体的方法
11	子どもを理解する具体的方法④ 家庭との情報共有
12	子どもの理解に基づく発達援助① 発達の課題に応じた援助と関わり
13	子どもの理解に基づく発達援助② 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
14	子どもの理解に基づく発達援助③ 発達の連続性と就学への支援
15	保育実践における子どもの理解と援助の視点や態度、具体的方法についてのまとめ、学習到達度の確認および解説

科目名	保育内容（健康）	授業コード	YE4214**	科目コード	YE4214
担当教員	石濱 加奈子・長島 万里子・岡本 かおり				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される領域「健康」の視点や考え方を理解し、保育の方法や保育者の役割を考えて実践できる力を身に付ける。					
【到達目標】 ・領域「健康」のねらい・内容を理解して説明できる。DP② ・領域「健康」のねらい・内容を踏まえた保育の方法について考え、構想できる。DP②、③ ・保育場面の事例を通して保育者の役割を考え、説明できる。DP①、② ・保育教材を理解し、領域「健康」のねらい・内容に即した指導計画を作成できる。DP②、③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「健康」の解説を中心に、保育における領域「健康」の保育学的な視点を理解する。 2. 子どもの健康を取り巻く現状を理解し、子どもの健康な育ちを支える保育者の役割について理解する。 3. 運動遊び、基本的な生活習慣、食育、安全等について具体的な教材や指導計画を題材にしたプレゼンテーションやグループディスカッションを通して、領域「健康」の視点での保育の展開を知り、領域「健康」の見方・考え方への理解を深める。 4. 領域「健康」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
・指示された予習課題・復習課題に取り組むこと。予習と復習で、合計120分程度の所要時間が想定される。 ・授業ごとの課題については必ず把握し、取り組むこと。					
4. 成績評価の方法及び基準					
レポート課題50% 毎回の提出課題50%					
レポートは、2回実施する。授業で学んだ知識の理解度を評価する。 毎回の授業ごとの提出課題は、授業内容の理解度と保育実践に応用しようとする力を総合的に評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
テキストは指定しない。必要に応じて、資料を配布する。					
【参考文献】 「保育内容 健康 [第2版]」編集代表 春日晃章・編集 松田繁樹・中野貴博 みらい (2018年) 2,310円 (税込) 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料> https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社 (2017年) 550円 (税込) 「子どものからだと心白書2024」子どものからだと心・連絡会議 子どものからだと心・連絡会議 (2024年) 2,200円 (税込) 「イラストBOOK たのしい保育 発達を支える「遊び」づくり」宮田まり子・野澤祥子 ぎょうせい (2021年) 1,540円 (税込)					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
授業や課題に積極的な姿勢で取り組むこと。 配布資料等の整理をすること。 他科目との関連を捉えながら授業に参加すること。					

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業内容の説明） 「健康」とは
2	領域「健康」とは 幼児の発育・発達
3	幼児の発育・発達 包括的性教育
4	発育・発達の測定と評価
5	健康な生活リズムの理解
6	基本的生活習慣の理解
7	生活習慣改善の実践
8	子どもの健康を育む保育教材の作成
9	子どもの健康を育む保育教材の発表
10	幼児期の運動遊び
11	保育における運動指導と留意点
12	領域「健康」の視点による遊びの計画
13	領域「健康」の視点による遊びの実践
14	安全管理と安全教育
15	まとめ 学んだ内容を今後活かすために

科目名	保育内容（人間関係）	授業コード	YE4224**	科目コード	YE4224
担当教員	伊藤 路香				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 「保育内容（人間関係）」では、子どもが「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。DP② ・子どもが人とのかかわりにおいて、どのように発達していくのかを理解し、発達に応じた指導のあり方をイメージし説明できる。DP② ・保育内容「人間関係」と他の保育内容の領域と関係性について理解する。DP② ・「人間関係」の視点から保育者の役割を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する。DP②、④、⑤ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型こども園教育・保育要領」に示された5領域の中の「人間関係」の視点、乳児保育における3つの視点から、子どもの育ちを捉え、豊かな人間関係を育むための保育の視点や方法を理解する。</p> <p>・領域「人間関係」の育ちと他の領域との関連性について学ぶと共に、子どもの生活や遊びの実際から、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」である「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」の育ちへ繋がる保育者の援助のあり方を考え、具体的な保育の計画の立て方について学ぶ。</p> <p>・保育者としての豊かな「人間関係力」を養うことの重要性を踏まえ、適宜人とのかかわりに関するワークを経験しながら、自分自身のあり方について意識化していく。</p> <p>※PC等を活用し、具体的な教材（授業レジュメ、参考資料、動画リンク等）を共有し、必要に応じて課題提出、予習や復習、調べ学習等に活用する。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状および保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>・日頃から「人間関係」の視点を持ち、現代の特徴、今日的課題について考えると共に、実習における体験と授業での学びを結び付けて考えること。</p> <p>・予習は使用する電子テキストの該当箇所を予め読む。復習は授業で学んだ内容をテキストや配信される資料等で振り返り、学びの定着を図り、疑問点があれば、次の授業で質問するなどして解決すること。予習、復習に要する時間は、各授業回ごとに合計120分程度が想定される。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>【レポート50%、提出物の提出状況や内容25%、授業への参加状況25%】 レポート課題は1～3回に分割して課す。レポート課題に取り組む時期は、教員の指示に従うこと。また、授業内容の理解や授業を受けての感想等をweb上で示すフォームやコメントシート等を使って提出する。レポート課題や提出物は、期限を守って提出すると共に内容の充実度を評価する。授業への参加状況は、授業内で行われるグループワーク等への参加態度や積極性、発言内容を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト：電子書籍】 『演習 保育内容 人間関係』 田代和美・榎本眞実編著 建帛社（2021年）1,860円（税込）※電子テキスト</p> <p>【テキスト：紙書籍】 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込）</p> <p>【省庁HPからのダウンロード資料】 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省 https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoutoudoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省 https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf</p> <p>【参考文献】 『保育の場で子どもの心をどのように育むのかー「接面」での心の動きをエピソードに綴る』鯨岡峻 著（株）ミネルヴァ書房（2015年）2,420円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>授業や課題には積極的な姿勢で取り組むこと。 授業内で配布される資料、配信される資料等は整理しておくこと。 他教科や実習との関連を捉えながら授業に参加すること。 授業で必須の課題が示された場合は、授業の出欠席に関わらず、提出すること。</p>					

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 保育内容「人間関係」とは何か 保育内容の全体構造（5領域の中の位置づけ）
2	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における領域「人間関係」の位置づけ
3	人間関係の育ちと保育＜ねらいと内容＞ 3,4,5歳児
4	人間関係の育ちを捉える視点／遊び生活する姿から人間関係の育ちを捉える 3,4,5歳児
5	人間関係の育ちを支える保育者の援助 3,4,5歳児
6	実習を「人間関係」の視点から振り返る
7	人間関係の育ちと保育＜ねらいと内容＞ 0歳児
8	人間関係の育ちと保育＜ねらいと内容＞ 1,2歳児
9	人間関係の育ちを支える保育者の援助 0,1,2歳児
10	子どもの人間関係の発達（自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え）と環境
11	子どもの育ちを支える指導計画の作成：「人間関係」の視点を中心とした遊びの計画
12	子どもの育ちを支える大人の連携① 保護者や地域の人々と保育者のかかわり
13	子どもの育ちを支える大人の連携② 保育者同士のかかわり
14	乳幼児を取り巻く人間関係（現代の特徴と今日的課題）
15	14回までの講義全体を通じた知識や概念の理解、実践への応用

科目名	保育内容（環境）	授業コード	YE4234**	科目コード	YE4234
担当教員	齊藤 加奈・高橋 節子				
授業形態	演習	担当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 保育内容（環境）では、子どもが「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことについて学ぶ。					
【到達目標】 ・幼児教育・保育の基本として、「育みたい資質・能力」、「養護と教育の一体性」、「保育内容がもつ意味」、「環境を通しての教育」、「遊びを通しての総合的な指導」について理解する。 DP② ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型こども園・保育教育要領」における領域（環境）のねらいと内容について説明できる。 DP② ・乳幼児期の保育における環境の役割について説明できる。 DP②、④ ・保育実践の中で領域（環境）に関する育ちを見極め、説明できる。 DP②、④ ・領域（環境）に関する保育実践を構想できる。 DP③、④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
・1年の前期科目として、前半の授業回で、幼児教育・保育の基本的な見方・考え方を学ぶ。 ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域（環境）の視点から子どもの育ちを捉え、発達を助長するための見方・考え方・援助を学ぶ。 ・子どもが関わる環境として具体的な教材や指導計画を題材にし、領域（環境）の視点での保育の展開ならびに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」との結びつきを知り、領域（環境）の見方・考え方への理解を深める。 ・身近な環境について調べ、発表し、議論するワーク（アクティブ・ラーニング）などを実施する。 ・PC等は、教材（プリント、資料、動画リンクなど）の共有で利用すると共に、ワークや課題での調べ学習、予習・復習、課題提出などで活用する。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
【予習】 教科書の該当ページを予め読んでおく（所要時間60分程度）。					
【復習】 授業で学んだことを教科書やプリントで振り返る（所要時間60分程度）。					
・普段から周囲の自然をよく理解し、その変化や季節に関して敏感に感じ取れるように意識する。 ・身の回りにある物や道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味や関心がどのような点にあるのかについて考えるようにする。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・レポート（評価の50%） ・授業への参加姿勢と課題の提出状況及び内容（評価の50%） レポート課題は、1～3回に分割して課す。レポート課題の内容や提出方法・時期については、教員の指示に従うこと。また、授業内容の理解度確認のため、小テストの実施や感想等の提出を行う。 レポート課題や提出物については、必ず期日を守って提出しその内容の充実度を評価する。授業への参加姿勢は、授業態度及びグループワーク等への積極的な参加や発言内容等を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境」 無藤隆（監修）、福元真由美（編） 萌文書林（2018年）2,200円（税込） 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省＜電子資料＞ https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省＜電子資料＞ https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省＜電子資料＞ https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
【参考文献】 「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・L.カーソン著 新潮社（1996年）1,540円（税込） 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・各自、PC等と共に、ノート、ファイルなどを用意して授業内容をまとめ、主体的に授業に取り組むこと。 ・課題は必ず期日を守って提出すること。 ・他科目との関連を常に意識して授業に取り組むこと。					

授業計画	
	【前期】
1	幼児教育・保育の基本 「育みたい資質・能力」「養護と教育の一体性」「領域と保育内容」
2	幼児教育・保育の基本 「環境を通しての教育」「遊びを通しての総合的な指導」
3	保育内容の5領域における領域「環境」のねらい・内容、他の領域との関係
4	乳児、1~2歳児の育ちと環境
5	領域「環境」に関する保育の内容（1） 自然に親しみ、季節の変化に気づく
6	領域「環境」に関する保育の内容（2） 植物や生き物に触れる
7	領域「環境」に関する保育の内容（3） ものや道具に関わって遊ぶ
8	領域「環境」に関する保育の内容（4） ものの性質や仕組みに気づく 身近なものを大切に、公共心を育む
9	領域「環境」に関する保育の内容（5） 文字や標識に関心をもつ
10	領域「環境」に関する保育の内容（6） 数量や図形に関心をもつ
11	領域「環境」に関する保育の内容（7） 身近な情報、遊びの中の情報に関心をもつ
12	領域「環境」に関する保育の内容（8） 地域に親しむ、日本の文化や異なる文化に触れる
13	幼児期の思考力の芽生え（1） 「関わる・出会う・気づく」 「発見する・考える」
14	幼児期の思考力の芽生え（2） 「思考する」「協同的に学ぶ」
15	領域「環境」の見方・考え方の復習 領域「環境」のねらい・内容の指導

科目名	保育内容（言葉）	授業コード	YE4271**	科目コード	YE4271
担当教員	尾根 秀樹・小林 由香				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 子どもの「自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」と、保育者としての言葉について学ぶ。					
【到達目標】 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもの言葉の育ちを支える保育者の援助の方法を知る。DP①、② ・主体的かつ対話的な学びを通して、言葉の発達過程に留意しながら保育実践の中の領域「言葉」に関する育ちを見極められるようになる。DP② ・児童文化財（絵本、紙芝居、パネルシアター等）や指導計画を題材にし、領域「言葉」の視点での保育の実践力を高める。DP③ ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「言葉による伝え合い」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」との結びつきや小学校「国語」との関連を知り、領域「言葉」の見方・考え方への理解を深める。DP③ ・領域「言葉」との他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。DP②、③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」を理解し、豊かな言葉を育むための保育の方法を学ぶ。 ・乳幼児の言葉の発達過程や言葉の果たす役割を理解する。 ・絵本などの児童文化財の意義と概要を理解し、児童文化財を活用した保育実践を行う。 ・PC等を導入し、電子テキストを活用した授業展開を行い、調べ学習や、発表・コメントの共有・フィードバックに活用する。また、PC等で「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」を適宜参照する。 ＜実務経験のある教員による授業＞ 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状または保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
・予習では電子教科書の該当ページを予め読んでおき、復習では授業で学んだことを教科書やプリントでふり返ること。また、指示された予習課題・復習課題に取り組むこと。（予習と復習で、合計120分程度の所要時間が想定される。） ・児童文化財（絵本・紙芝居など）に日常的に慣れ親しむこと。 ・日常的に子どもの言葉に耳を傾け、言葉の特徴や子どもの気持ちについて授業内容と結びつけながら理解を図ること。 ・授業ごとの課題についての勉強を自主的に行うこと。					
4. 成績評価の方法及び基準					
【定期試験に代わるレポート 50%、提出物の提出状況や内容 25%、授業への参加状況 25%】 レポート課題は1～3回に分割して課す。レポート課題に取り組む時期は、各担当の教員の指示に従うこと。 また、授業内容の理解や授業を受けての感想等をweb上で示すフォームやコメントシート等を使って提出する。 レポート課題や提出物は、期限を守って提出すると共に内容の充実度を評価する。授業への参加状況は、参加姿勢、そして、授業内で行われるグループワーク等への参加態度や積極性、発言内容を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために 保育内容 言葉」 河合優子 監修 並木真理子・桐川敦子編著 アイ・ケイコーポレーション（2024年）3,080円（税込）※電子テキスト 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料> https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf 【参考文献】 「対話」から生まれる乳幼児の学びの物語—子ども主体の保育の実践と環境— 大豆生田啓友編著 株式会社学研教育みらい（2019年）3,080円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・各自、PC等のデバイスを用意し、授業に取り組むこと。 ・Wordやノート、ファイルなどを活用し、授業内容をまとめること。 ・課題は必ず期日を守って提出すること。 ・他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容の説明、ことばの意義と機能
2	領域「言葉」とは
3	乳児期の言葉の発達、及び、乳児保育における言葉の援助
4	低年齢期（1歳以上3歳未満児）の言葉の発達、及び、低年齢児保育における領域「言葉」の援助
5	幼児期（3歳以上児）の言葉の発達、及び、幼児期保育における領域「言葉」の援助
6	子どもを取り巻くことばへの援助と課題
7	遊びとことば
8	保育者の言葉
9	書き言葉の発達と小学校「国語」との関連
10	児童文化財と保育への展開
11	児童文化財を活用した保育実践の計画
12	児童文化財を活用した保育実践（前半メンバーの発表）
13	児童文化財を活用した保育実践（後半メンバーの発表）
14	児童文化財を活用した保育実践のまとめ
15	まとめ（全授業内容の総復習）

科目名	保育内容・造形的表現	授業コード	YE4270**	科目コード	YE4270
担当教員	山田 佐映子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】本授業は、造形表現で培った体験を楽しむ姿勢と応用展開力を「素材と道具の出会い」の視点へ広げていく。実際の保育現場での活動を検証しながら、主体的・対話的な「遊びへの展開」へつなげる。実践で役立つ教材を使用し、造形活動や絵画技法を通して、色や形、感触遊びからイメージを豊かにする。表現する楽しみを体感することで、子どもの表現活動を支える環境づくりをできる保育者としての技能を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で実際に扱う材料や用具の特性を説明できるようになる。DP② ・造形表現の多様さを味わい、その楽しみを子どもと共有できるようになる。DP③、④ ・子どもの発達や育ちを考慮した遊びとしての造形活動を提案できるようになる。DP②、③、④ ・子どもの造形的な表現を体感することで表現の必要性を学び、活動を考察できるようになる。DP③、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>保育現場での造形活動を検証しながら、成長に伴う遊び方の変化や興味の変遷を学ぶ。子どもが素材と道具と出会うとき、どのような導入をしていくのか、さらに扱うようになったとき、どのような遊びの展開が考えられるのか、を意識しながら自らが様々な素材、画材、道具に触れ創作する。その体験を通し、子どもが描きつくことを遊び、主体的・対話的に学ぶことから自己を表現していく指導法や配慮を考える。実際の準備から活動、片付けまでの流れをグループや全体で協力的に行う。保育の引き出しとして造形活動の幅を広げる。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 保育所・幼稚園における造形講師としての実務経験があり、中学・高校教諭免許状（美術）および保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 活動キーワードから保育内におけるどのような活動内容か、素材や道具、流れを調べノートにまとめる。（想定必要時間は90分程度になる）</p> <p>【復習】 活動毎のミニレポートを作成すること。また、活動工程をノートにまとめる。その際、保育者として子どもの感じる楽しさや難しさを考察し、どのような配慮や留意点が必要かを記録する。さらに季節や行事に関連させた活動展開を考案する。（想定必要時間は90分程度になる）</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法> レポート（50%）、授業目的の理解（30%）、授業に対する取り組み（20%）</p> <p><評価の基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートでは、講義内容や制作の経験を踏まえ、与えられたテーマに沿った内容になっているか、授業全般の理解度を評価する。 ・各授業において示す目標を理解した上で制作に取り組むことができているか、その関心や意欲の高さを評価する（技能の巧拙ではなく創意工夫の取り組み姿勢を重視する）。 ・活動ごとに示すミニレポートの内容の充実度を評価する。 ・活動における他者との協力体制やグループへの貢献度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「つくる・かく・あそぶ こどものアートブック」 鮫島良一・馬場千晶著 日本文教出版（2021年）2,750円（税込）</p> <p>【参考文献】 「保育園・幼稚園の造形あそび」 鮫島良一・馬場千晶著 成美堂出版（2014年） 「0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ」 村田有紀著 ひかりのくに</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>自らが表現活動を楽しむこと。実践からの考察のため、意欲的な姿勢での授業参加を期待する。様々な素材を扱うため、汚れてもよい服装で受講する。毎回、前回活動をふまえてフィードバックをする。テキストと指示された用具・材料は必ず用意すること。欠席した回についても把握して全内容を学び、指示した課題を提出する。課題が未提出の場合は、単位を取得できない。活動内容は、進行によりやむを得ず入れ替える場合がある。</p>					

授業計画	
	「素材と道具の出会い」から「遊びへの展開」 様々な造形表現を体験して学ぶ
1	ガイダンス（授業の説明） 5領域の「表現」とは こどもの造形表現について
2	素材と道具に出会い(1)オイルパステル(クレパス)を遊ぶ 特性や遊び方の紹介 楽しい出会いと展開を考察する
3	素材と道具に出会い(2)絵の具を遊ぶ 特性や遊び方の紹介 楽しい出会いと展開を考察する
4	素材と道具に出会い(3)シールとテープを遊ぶ 特性や遊び方の紹介 楽しい出会いと展開を考察する
5	素材と道具に出会い(4)ハサミの使い方 一回切りを遊ぶ ハサミの特性や遊び方の紹介 導入から慣れるまでを考察する
6	素材と道具に出会い(5)ハサミの連続切りを遊ぶ ハサミの展開と糊の特性や遊び方の紹介 構成遊びを考察する
7	身近な生活素材から造形遊びへ ロールペーパー粘土 感触遊びを考察する
8	絵画技法(1) スクラッチ 制作工程をまとめ、技法遊びの展開を考察する
9	絵画技法(2) デカルコマニー 制作工程をまとめ、技法遊びの展開を考察する
10	絵画技法(3) スタンピング 制作工程をまとめ、技法遊びの展開を考察する
11	1 1 幼児の描く活動 幼児の興味と描く活動を考察する
12	1 2 身に着けるあそび 幼児の興味と愛着について考察する
13	1 3 色のイメージを遊ぶ 色パレット遊び 幼児の色彩への興味を考察する
14	1 4 共同遊び 共同遊びについて考察する
15	1 5 乳児期からの造形遊びと授業のまとめ 「保育者」の役割とは

科目名	保育内容・総論	授業コード	YE4272**	科目コード	YE4272
担当教員	高橋 優子・亀ヶ谷 元謙・岸 正寿・田中 健介				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 保育内容についての理解を深める。5領域に分けて学んだ保育内容の繋がり、保育内容の指導について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活を通じた総合的な指導における保育者の役割を説明できる。DP①、②、④ ・子どもの発達過程に即した保育内容を構想できる。DP②、④ ・子どもの主体性を尊重する保育の指導法を構想し、実践することができる。DP①、②、④ ・5領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)の保育内容の総合性を踏まえた指導計画を立案、実践できる。DP②、④ ・保育の記録と評価の意義を理解し、幼児理解や保育についての省察を深めることができる。DP①、②、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く社会的背景や保育内容の変遷を学ぶことにより、底流にある一貫性について考え、保育の基本的な考え方を理解する。 ・各領域の関連性について学び、具体的な保育内容に結びつけながら、子どもの理解や保育内容について総合的に捉える視点を養う。 ・「日々の保育は子どもの興味と経験の積み重ねである」ことに着目し、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」について、乳幼児の遊び(活動)を発達の側面から理解し、保育の過程(指導案の立案、模擬保育、記録、評価、改善)をグループワークを通して具体的に学ぶ。 ・ICT機器を活用した保育内容の捉え方と保育内容の説明の仕方を学ぶ。 <p><実務経験のある教員による授業> 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状または保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習(予習復習について)					
<p>【予習】 授業ごとに教示された次回の授業に該当するテキストページや参考文献を読み、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。</p> <p>【復習】 授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートによる内容の理解度(評価の50%) ・授業への参加姿勢(評価の10%) ・グループワークにおける貢献度(評価の20%) ・課題やコメントシートの提出状況や内容(評価の20%) <p>レポートの内容については授業で指示する。講義内容の視点と絡めて考察しているかどうかを評価する。 授業への参加姿勢は、授業態度や授業内での発言を総合的に評価する。 グループワークでは、グループ内での貢献度やグループワークの成果物を総合的に評価する。 課題やコメントシートでは、提出状況や講義内容から考察しているか、保育者を目指す自分が主体的な視点を持って考えているかを評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社(2017年)550円(税込)</p> <p>【参考文献】 「演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く」神田伸生・高橋貴志編著 萌文書林(2019年)1,980円(税込) 「子どもの権利と対話から学ぶ保育内容総論」森真理・猪谷裕子編著 北大路書房(2022年)2,420円(税込)</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)					
配布資料や授業内容を記録したものをノートやファイルにきちんとまとめること。 課題の提出期日を厳守すること。					

授業計画	
	【後期】
1	なぜ保育内容総論を学ぶのか 幼児期における育みたい資質・能力と保育内容
2	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿と保育内容
3	保育内容の捉え方とその背景、歴史の変遷
4	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方
5	子ども理解と保育内容
6	「遊び」から捉える保育内容と指導・援助
7	「生活」から捉える保育内容と指導・援助
8	「環境」から捉える保育内容と指導・援助
9	「発達」から捉える保育内容と指導・援助
10	行事で捉えられる保育内容と指導・援助
11	指導計画の構想と実践―①構想―
12	指導計画の構想と実践―②実践―
13	特別な配慮が必要な子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
14	外国と関わりがある子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
15	保育内容の記録とその活かし方

科目名	基礎実習指導	授業コード	YE4351**	科目コード	YE4351
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・伊藤 路香・加藤 翼・篠沢 薫				
授業形態	演習及び実習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-
				保育士資格	-
1. 主題・到達目標					
【主題】 幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得を目指すために必要な基礎的事項について学ぶ。 (本学における初年次教育として実施される科目として位置付けられている)					
【到達目標】 ・実習全体の体系及び各実習の意義や目的を理解する DP①、② ・保育現場に臨む心構えや態度、マナーなど、実習生としての基礎的素養を身につける DP①、③ ・幼稚園、保育所における体験を通じ、保育現場における子どもの生活や保育実践に触れ関心を高める DP③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
学内における講義・演習の授業では、幼稚園及び保育所の基礎的な理解や各実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、子ども理解の実際をテキストや視覚教材を用いて学習する。 見学実習（附属幼稚園）では、子どもの主体性を育む保育環境の実際を見学し、環境構成の重要性を学び、環境を捉える視点を習得する。 体験実習（幼稚園及び保育所）においては、保育の実際に参加し、子どもの生活や遊びを体感するとともに、子どもの実態及び保育者の援助や配慮のあり方に触れる。 なお、本科目は本学における初年次教育の一環として位置付けている。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。					
4. 成績評価の方法及び基準					
＜評価の方法と割合＞ 授業への参加状況（25%）・手続き書類（20%）・課題及びレポート（25%）・実習状況（30%）					
＜評価の基準＞ ・講義・講演内容の振り返りのフォーム内容の充実度、及びグループディスカッションにおける貢献度を評価する。 ・実習に関する手続き書類の作成と定められた期限を遵守した提出を評価する。 ・授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を遵守して提出し、その内容の充実度を評価する。 ・実習状況は、見学実習、体験実習において、自己評価を通じて把握した実習目標の達成度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト 「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込） 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」 授業内で配布する資料					
【参考文献】 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語（改訂第2版）」長島和代編 わかば社（2021年）1,100円（税込） 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省＜電子資料＞ https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省＜電子資料＞ https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省＜電子資料＞ https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
◆ 本学の学生であるという自覚をもち、真摯で謙虚かつ主体的な態度で実習に関わる基礎的事項の学習に励むこと ◆ 見学実習及び体験実習の参加条件については、「2025年度実習の手引き」に基づく ◆ 基礎実習の単位認定の条件については、「2025年度実習の手引き」に基づく					

授業計画	
	【前期】
1	実習の目的と種類・内容
2	見学実習の概要の理解
3	直前指導<見学実習>
4	見学実習<洗足学園大学附属幼稚園>
5	事後指導<見学実習>
6	幼稚園の生活と実習生の心構え<講演>
7	保育現場における実習の実際
8	直前指導<体験実習（幼稚園）>
9	事後指導<体験実習（幼稚園）>
10	実践から学ぶ幼児教育の実際<講演>
11	直前指導<体験実習（保育所）>
12	事後指導<体験実習（保育所）>
13	多様な保育所保育の理解<講演>
14	幼稚園における実習の理解
15	オリエンテーションの理解

科目名	ピアノ I		授業コード	YE4432**	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・岡本 有子・押川 涼子・小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒 ・大澤 美紀・池田 聡子・山本 佳世子・磯矢 玲子					
授業形態	演習	配当学年	1年		期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格 選択
1. 主題・到達目標						
【主題】 子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学修する。						
【到達目標】 ・音楽の基礎知識を養い、楽譜が読めるようになる。DP② ・楽譜を正確に読み取り、演奏できるようになる。DP②、③ ・10月の教育実習Ⅰまでに、実習課題曲を演奏できるようになる。DP②、③、④						
【ディプロマポリシーとの関連】						
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している					
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している					
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている					
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている					
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる					
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している					
2. 授業概要						
保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶ。 ピアノ経験量に基づき、初心者から上級者まで5段階のグレード別クラスで行う授業である。 1クラス最大5名の少人数でグループレッスンを行う。 各グレードで指定されたテキストより実力に合う課題を演習する。						
＜実務経験のある教員による授業＞ 担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者である。音楽教室を始め、各方面でピアノ指導の実務経験のある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。						
3. 授業時間外の学習（予習復習について）						
ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。 授業毎の課題の予習、復習には毎日20分以上の練習が必要と想定される。						
4. 成績評価の方法及び基準						
?実技試験 演奏の完成度を評価する<評価の50%> ?授業への参加状況 授業の参加姿勢および課題の授業時間外学習の取り組みの達成度を評価する<評価の50%>						
5. 授業で使用するテキスト・参考文献						
「標準バイエルピアノ教則本」F. Beyer 他 全音楽譜出版社 1,100円（税込） 「ブルグミュラー25の練習曲」J. Burgmüller 全音楽譜出版社 880円（税込） 「ソナチネアルバム1」F. Kuhlau, M. Clementi, F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 他 全音楽譜出版社 1,320円（税込） 「ソナタアルバム1」F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 全音楽譜出版社 1,430円（税込） 「ソナタアルバム2」F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 全音楽譜出版社 1,430円（税込） 「モーツァルト・ソナタアルバム」W. A. Mozart 出版社については担当教員に相談すること 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」L. v. Beethoven 出版社については担当教員に相談すること						
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）						
1. 第1回の授業でクラス分けのためのピアノ演奏実力調査を行う。 2. 第2回の授業より実力調査に基づき決定したグレード別クラスで授業を行う。 3. 遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。 交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明証を提出し、授業に参加した場合のみ認める。（欠席回数に含まない） 4. 欠席は半期3回までとし、4回以上欠席すると実技試験を受けることができない（欠格条件） ただし公欠（忌引き、学校感染症）、実習、実習オリエンテーションでの欠席は除く。 5. 実技試験の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ（男性はネクタイ着用）、黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキングとする。 前期実技試験の際のスーツの上着の着用は、自由とする。 6. 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位取得不可となることもある。						

授業計画	
	<p>【前期】 各グレードで指定されたテキストより、個別の実力に合わせて課題の演習</p> <p>※は実技試験課題曲 実技試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 (繰り返しなし)</p> <p>グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「標準バイエルピアノ教則本」 ※a 60番以降 (連弾曲は除く) ※b 85番以降 (連弾曲は除く)</p> <p>グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 1・4・6・7 第一楽章 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅣ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 9・10 第一楽章 (ペダル使用なし) ※No. 13・14・15・16 第一楽章</p> <p>グレードⅤ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	クラス分け実力調査
2	ガイダンス ピアノ経験、過去の学習内容の確認、課題曲決め
3	課題曲① 楽典、譜読み
4	課題曲① 技法の演習 基礎
5	課題曲① 奏法の演習 確認
6	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認 実習課題曲①
13	課題曲③ 演奏発表形式での演習 おさらい会
14	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲①
15	前期のまとめ (演奏および講評)

授業計画	
	<p>【後期】 各グレードで指定されたテキストより、個別の実力に合わせて課題の演習</p> <p>※は実技試験課題曲 実技試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 (繰り返しなし)</p> <p>グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※a 85番以降 (連弾曲は除く) ※b すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※アラベスク・シュタイヤー舞曲・バラード・乗馬 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 8・9・10・12 第一楽章 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅣ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>グレードⅤ 「モーツァルト・ソナタアルバム」 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる</p>
1	前期の復習、課題曲決め 実習課題曲②
2	課題曲① 技法の演習 基礎 実習課題曲②
3	課題曲① 技法の演習 応用 実習課題曲②
4	課題曲① 奏法の演習 確認 実習課題曲①②
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲①②
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 演奏発表形式での演習 おさらい会
14	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
15	後期のまとめ (演奏および講評)

科目名	ピアノⅠ 再履修		授業コード	YE4432**	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・佐藤 全子					
授業形態	演習	配当学年	1年		期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格 選択
1. 主題・到達目標						
【主題】 子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学習する。						
【到達目標】 ・楽譜を正確に読み取り、演奏できるようになる。DP②、③ ・表現力豊かな演奏ができるようになる。DP③、④						
【ディプロマポリシーとの関連】						
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している					
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している					
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている					
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている					
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる					
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している					
2. 授業概要						
保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶ。 ピアノⅠ再履修者による最大5名のグループレッスンである。 各グレードで指定されたテキストより実力に合う課題を演習する。						
<実務経験のある教員による授業> 担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者である。音楽教室を始め、各方面でピアノ指導の実務経験のある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。						
3. 授業時間外の学習（予習復習について）						
ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。 授業毎の課題の予習、復習には毎日20分以上の練習が必要と想定される。						
4. 成績評価の方法及び基準						
実技試験 演奏の完成度を評価する<評価の50%> 授業への参加状況 授業の参加姿勢及び課題の授業外学習の取り組みの達成度を評価する<評価の50%>						
5. 授業で使用するテキスト・参考文献						
「標準バイエルピアノ教則本」F. Beyer 他 全音楽譜出版社 1,100円（税込） 「ブルグミュラー25の練習曲」J. Burgmüller 全音楽譜出版社 880円（税込） 「ソナチネアルバム1」F. Kuhlau, M. Clementi, F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 他 全音楽譜出版社 1,320円（税込） 「ソナタアルバム1」F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 全音楽譜出版社 1,430円（税込） 「ソナタアルバム2」F. J. Haydn, W. A. Mozart, L. v. Beethoven 全音楽譜出版社 1,430円（税込） 「モーツァルト・ソナタアルバム」W. A. Mozart 出版社については担当教員に相談すること 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」L. v. Beethoven 出版社については担当教員に相談すること						
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）						
1. 遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。 交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明証を提出し、授業に参加した場合のみ認める。（欠席回数に含まれない）						
2. 欠席は半期3回までとし、4回以上欠席すると実技試験を受けることができない（欠格条件） ただし公欠（忌引き、学校感染症）実習、実習オリエンテーションによる欠席は除く。						
3. 実技試験の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ（男性はネクタイ着用）、黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキングとする。 前期実技試験の際のスーツの上着の着用は、自由とする。						
4. 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位取得不可となることがある。						

授業計画	
	<p>【前期】 各グレードで指定されたテキストより、個別の実力に合わせて課題の演習</p> <p>※実技試験課題曲 実技試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 (繰り返しなし)</p> <p>グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「標準バイエルピアノ教則本」 ※a 60番以降 (連弾曲は除く) ※b 85番以降 (連弾曲は除く)</p> <p>グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 1・4・6・7 第一楽章 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅣ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 9・10 第一楽章 (ペダル使用なし) ※No. 13・14・15・16 第一楽章</p> <p>グレードⅤ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>・グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる ・前期中にピアノクラス内でおさらい会を実施する</p>
1	ガイダンス、課題曲決め 特別検定曲の演習
2	課題曲① 譜読み、技法の演習 基礎 特別検定曲の演習
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 演奏発表形式での演習
15	前期のまとめ (演奏および講評)

授業計画	
	<p>【後期】 各グレードで指定されたテキストより、個別の実力に合わせて課題の演習</p> <p>※実技試験課題曲 実技試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 (繰り返しなし)</p> <p>グレードⅠ a 「標準バイエルピアノ教則本」 b 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※a 85番以降 (連弾曲は除く) ※b すなおな心・無邪気・進歩・やさしい花 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠ 「ブルグミュラー25の練習曲」 ※アラベスク・シュタイヤー舞曲・バラード・乗馬 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅠⅠ 「ソナチネアルバム1」 ※No. 8・9・10・12 第一楽章 (ペダル使用なし)</p> <p>グレードⅠⅣ 「ソナタアルバム1」 「ソナタアルバム2」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>グレードⅤ 「モーツァルト・ソナタアルバム」 「ベートーヴェン・ソナタアルバム」 ※任意の1曲 第一楽章</p> <p>・グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる ・後期中にピアノクラス内でおさらい会を実施する</p>
1	前期の復習、課題曲決め
2	課題曲① 技法の演習 基礎
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 演奏発表形式での演習
15	後期のまとめ (演奏および講評)

科目名	幼児音楽Ⅰ	授業コード	YE4453**	科目コード	YE4453
担当教員	秋山 徹・飯田 千夏・神谷 明美				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 領域「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。領域「表現」のねらい及び内容を、音楽的な表現の側面から理解し、以下を身につけることを到達目標とする。</p> <p>【到達目標】 ・音符や記号、拍子、音階など音楽の基礎的知識を確認し身につける。DP② ・幼児歌曲、唱歌、手遊び歌、わらべうたなどのレパートリーを広げる。DP② ・保育の現場を想定した正しい発音、発声法を身につける。DP② ・様々な楽曲を各自のレベルに合わせ弾き歌いができる。DP② ・音楽表現力・技術力を向上する。DP②、③ ・幼児歌曲や器楽演奏の指導計画を立て、実践の場で活かすことができる。DP①、②、③</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>領域「表現」のねらい及び内容と音楽的な保育実践との関連、ならびに保育の基本的な見方・考え方にふさわしい指導と評価の方法を学ぶ。そして音楽的な保育実践を通して領域「表現」のねらい及び内容が達成されていくための指導者に必要な音楽的な知識や技能の基礎を学んでいく。多様な音楽活動にも対応出来る基礎的な音楽的表現力を身につけ、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを念頭においた、子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む指導力と保育を構想する力を身につけることを目指す。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>幼児音楽のレパートリーを広げる意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。 想定必要時間は2時間程度となる。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業に対する取り組みを評価する。 ・毎回の授業テーマに関する演習内容についての習熟度・達成度を評価する（評価の75%） ・弾き歌いによる模擬保育の演習内容についての達成度を評価する（評価の25%）</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「コード伴奏による幼児歌曲100曲集」 秋山 徹 編 カワイ出版（2015年）2,970円（税込）</p> <p>【参考文献】 「こどものうた200」小林美実 チャイルド本社（1975年）1,980円（税込） 「続こどものうた200」小林美実 チャイルド本社（1966年）1,980円（税込） 他、授業中に適宜資料を掲示、配布する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
休まず受講することが基本である。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）、譜表と音部記号の理解、領域「表現」のねらい・内容の理解と指導の考え方について
2	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル1の歌、手遊び歌・わらべうた）、音符と休符の理解
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル2の歌、手遊び歌・わらべうた）、音名と変化記号の理解
4	弾き歌い検定課題曲個人指導（1） 指導の方法と留意点を考える
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル3の歌、手遊び歌・わらべうた）、リズムと拍子の理解
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル4の歌、手遊び歌・わらべうた）、和音とコードネーム、調性の理解
7	コードネーム伴奏法演習
8	歌唱個人指導（1） 指導の実際を想定し留意点を考える
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル5の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（長音階）の理解
10	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル6の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（短音階）の理解
11	リズム楽器演習、指導計画の作成
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（秋の季節・行事の歌、検定レベル7の歌、手遊び歌・わらべうた）、音楽用語の理解
13	弾き歌い検定課題曲個人指導（2） 模擬保育
14	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	前期演習曲復習
2	弾き歌い検定課題曲個人指導(3) 模擬保育
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(秋の季節・行事の歌、検定レベル8の歌、手遊び歌・わらべうた)
4	実習直前音楽指導(1) 指導計画の作成と模擬保育
5	実習直前音楽指導(2) 模擬保育と振り返り
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(冬の季節・行事の歌、検定レベル9の歌、手遊び歌・わらべうた)
7	歌唱個人指導(2) 指導の実際を想定し留意点を考える
8	幼児器楽演習 指導計画の作成
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(冬の季節・行事の歌、検定レベル10の歌、手遊び歌・わらべうた)
10	弾き歌い検定課題曲個人指導(4) 模擬保育
11	幼児歌曲後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
12	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育
13	幼児音楽Ⅰ演習曲復習(1) 模擬保育
14	幼児音楽Ⅰ演習曲復習(2) 模擬保育
15	「幼児音楽Ⅰ」総括 領域「表現」のねらい及び内容と指導法について

科目名	造形表現（表現）	授業コード	YE4521**	科目コード	YE4521
担当教員	稲葉 裕美				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
保育士資格					
必修					
1. 主題・到達目標					
【主題】 手を使って物を作る「造形活動」は人間が生きていくための大切な力である。子どもの非認知能力を育むひとつの手段である。特に幼児期はその楽しさに初めて触れる時期であり、保育に携わる者はたくさんの楽しい造形体験のよりよい伝え手でなくてはならない。そこでこの授業では、ただ作るだけでなく、学生本人が心底楽しみ、自然にそれを子どもたちに「伝えたい」と思う気持ちが湧いてくることを第一義的な目標とする。さらにそこに、目の前の子どもをどう捉え、どう伝えるかという保育学的な見方・考え方をつなげて、保育者としての応用展開力を身につける。					
【到達目標】 ・造形の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、「表現を楽しむ」ことを体感する。DP②、③ ・領域「表現」のねらい・内容における保育学的な見方・考え方を基礎に、子どもの表現内容を受容・共感する姿勢を身につける。DP②、④ ・自身の造形のレパートリーを広げ、感性を磨き、必要に応じていつでも実践できる応用展開力を身につける。DP③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
「動き」「材料」「伝承おもちゃ」「季節のおもちゃ」「カード」などに分類したテーマでそれに対応したおもちゃの見本を色々紹介し、乳幼児向けのわかりやすい作り方で製作体験をする。ものを作ることを楽しみ、図工へのコンプレックスを無くして工作表現のレパートリーを増やしていく。 個性を発揮した作品として完成させることは第一目的ではなく、将来の実践のためのサンプル作りとして授業時間内になるべく色々な作品見本の製作体験を行う事が大事。見本をそっくり真似して作ることも可。製作しながら保育現場での様子をイメージし、子どもたちがどこに惹きつけられるのかその気持ちを考え、より良い伝え方を考察していく。 工作のバリエーション以外に身の回りの物や製作物を使ってできる簡単な演じ物を隔週にて紹介する。将来への蓄積として意欲的に鑑賞、考察していく。資料用としての動画撮影は可。 <実務経験のある教員による授業> 保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状および保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
手に覚えさせる事、つまり作り慣れることがレパートリーを増やしていく何よりの秘訣。復習として、レシピを見ずに作れるようになるまで、何度も作る事。その際、作り方を子どもたちへ上手に伝える段取りや、年齢に応じてどこまでの援助や事前の準備をすればいいかなど、現場を想定しながらの考察が大事。授業内で作品が完成に至らないときは、必ず授業時間外で完成させること。その完成体験が自信と進歩につながる。想定必要時間は1時間である。普段から造形素材に関心を持ち、資料を検索して常に新しいアイデアを取り入れる努力をすることが発想力を鍛えより良い造形指導者への道となる。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業に対する取り組み（25%）、造形活動における表現（25%）、課題の提出状況（50%）					
<評価の基準> ・授業に対する取り組みでは、製作活動に対して積極的に取り組み、自ら工夫する姿勢が見られるかを評価する。 ・造形活動における表現は、工作の伝達者として、作り方や遊び方の手際が、こどもの意欲を誘うパフォーマンスになっているか、その表現力の高さを評価する。 ・課題の提出状況は、前期・後期に提出する課題において、こどもの興味や意欲を高める色使いなどのデザイン性の高さ、作り方のポイントを適切に押さえた作品の完成度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「たのしいおもちゃ屋さん」 黒須和清著 鈴木出版（2010年）1,650円（税込） 「イラストハンドブック 「せんせい、ぞうさんかいて！」」 黒須和清著 ブイツーソリューション（2015年）1,100円（税込）					
【参考文献】 「ひとあじちがうおもちゃのレシピ」 黒須和清著 鈴木出版（2004年）1,650円（税込） 「壁面テーマパーク12ヶ月」 黒須和清著 鈴木出版（2005年）1,650円（税込） 「かんたん人形劇」 黒須和清著 鈴木出版（2005年）1,650円（税込） 「お菓子なカードのつくりかた」 黒須和清著 鈴木出版（2007年）1,650円（税込） 「教えて工作マエストロ」 1巻 黒須和清著 全国社会福祉協議会（2018年）1,540円（税込） 「教えて工作マエストロ」 2巻 黒須和清著 全国社会福祉協議会（2018年）1,540円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
第一回目に指定された工作道具は次回までに必ず各自で揃えること。 道具の貸し借りや共同使用はせず、道具を忘れた場合は必ず教員に申し出て学校の備品を借りること。 造形の授業は本だけで学べるものではなく、実際に五感を使って学び、その手で体験する事が何より大事である。					

授業計画	
	【前期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方 オリエンテーション（工作道具の指定）
2	伝承文化（おりがみ）
3	季節の工作1（花）
4	たのしい動き1（のぼる）
5	身近な材料1（紙コップ）
6	たのしい動き2（ぼんぼこ）
7	発表会に向けて1（かぶりもの）
8	たのしい動き3（バランス）
9	伝承おもちゃ1（かざぐるま）
10	たのしい動き4（びっくり箱）
11	伝承おもちゃ2（わりばし鉄砲・こま）
12	カード作り1（とびだすカード）
13	たのしい動き5（くるくる）
14	たのしい動き6（くだる） 領域「表現」の観点から前期の授業を振り返る
15	身近な材料2（牛乳パック）

授業計画	
	【後期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方の復習と再考 実習に向けて（かんたん紙工作）
2	ビニール袋洋服
3	伝承おもちゃ3（竹とんぼ、浮き玉）
4	身近な材料3（スポンジ）
5	たのしい動き7（くねくね）
6	たのしい動き8（パクパク）
7	カード作り2（おもしろカード）
8	季節の工作2（クリスマスリース）
9	季節の工作3（クリスマスツリー、サンタブーツ）
10	季節の工作4（クリスマス・お誕生会ケーキ）
11	発表会に向けて2（音のおもちゃ・楽器）
12	たのしい動き9（ころころ）
13	身近な材料4（ビニール）
14	発表会に向けて3（スタンドグラス・背景装置他）
15	伝承おもちゃ4（けん玉） 領域「表現」のねらい・内容と造形的な表現活動（領域「表現」の観点から一年間の授業を振り返る）

科目名	子どもの健康と運動遊び	授業コード	YE4620**	科目コード	YE4620
担当教員	石濱 加奈子				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 保育内容・領域「健康」のねらいと内容を理解し、子どもが健康なからだを心育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うための指導の知識と技術を身に付けることを目的とする。					
【到達目標】 ・保育内容・領域「健康」のねらい及び内容に合った運動遊びの捉え方や取り入れ方を知る。DP② ・運動遊びの指導に必要な安全の知識と技術を持ち、指導に活かすことができる。DP②、④ ・子どもの年齢に応じた運動遊びの選択、指導、環境設定、安全確保について理解する。DP②、④ ・保育者として自身が運動の楽しさを実感できる。DP⑤ ・保育者に相応しい体力を維持、向上のための方法を知る。DP④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
保育内容・領域「健康」のねらい及び内容との関連を意識しつつ、運動遊びについて、現代の子どもの課題と保育における取り入れ方を学ぶ。その上で前期は、年齢や発達を考慮した様々な運動遊びを実践し、指導や安全管理などの方法を知る。後期は、グループワークにて模擬的に運動遊びの実践と振り返りをおこない、それらを基に指導計画を作成する。また、年間を通じ保育者に必要な体力要素を身に付けるためのトレーニングを行う。 授業内ではオンラインで配信する課題を確認し、子どもの動きや指導の実際をイメージしながら、自らの動きづくりや指導法に役立てる。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
以下の3点を予習・復習とし、想定必要時間は120分程度となる。 ・運動や子どもの遊びに興味を示し、様々な方法で情報を収集すること。 ・授業で取り扱った運動内容と毎授業にて指定された箇所をテキストとオンラインで配信する動画等にて確認し、自分なりの指導方法を想定すること。 ・保育者に必要な体力と健康管理の重要性を理解し、体調を整えて授業に臨むためにも日常生活の中でからだに負荷をかける努力をする。また、授業内で課す課題については、期日までに丁寧に取り組むこと。					
4. 成績評価の方法及び基準					
実技テスト（評価の40%） 提出物（評価の50%） 授業への参加姿勢（評価の10%）					
実技テストは、前後期各1回（リズム体操および運動遊び指導）とし、詳細は授業内で指示する。評価は、各課題の習熟度とする。 提出物は、前後期各1回レポートと運動遊び指導実践時に提示する課題とし、それぞれの課題に対する理解と考察について評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「子どもの運動・遊び-健康と安全を目指して-」野井真吾監修 石濱加奈子編 アイ・ケイコーポレーション(2021年) 2,640円（税込） 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料> https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
【参考文献】 「子どものからだど心 白書2024」子どものからだど心・連絡会議編 ブックハウスHD（2024年）2,000円（税込） その他必要に応じて資料を配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
第1回目の授業時に説明するルールを遵守して受講すること。 運動着・運動靴を着用の上、集合すること。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス(受講上のルールと授業の進め方、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連を知る)
2	号令・整列・移動の方法 伝承遊び
3	模倣遊び_動物になってみよう
4	リズム体操の習得(1) はとぼっぼ体操 年齢・発達に応じたおにごっこ
5	リズム体操の習得(2) NO.1体操 小さなスペースでもできる鬼ごっこ
6	リズム体操の習得(3) サンサンたいそう、ジャンポリミッキー 移動遊具を用いた遊び
7	体力測定 握力、立ち幅跳び、長座体前屈、反復横跳び、ハンドボール投げ、背筋力
8	リズム体操の習得(4) ブンバ・ポーン、からだダンダン 縄遊び(1) ゴム縄
9	リズム体操の習得(5) エピカニクス 縄遊び(2) 縄跳びが跳べるまで
10	投げる遊び(1) ボールを用いた遊び
11	投げる遊び(2) 手作り遊具_メンコ
12	リズム体操の確認テスト
13	身近にある素材を用いた遊び
14	乳児の運動遊び
15	水遊びの安全 前期授業のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス(後期授業の目標と進め方) からだ慣らしのための運動遊び、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連の確認
2	運動遊びの計画について(1)声かけ
3	運動遊びの計画について(2)説明方法
4	運動遊びの計画について(3)環境設定
5	運動遊びの計画について(4)時間計画
6	運動遊び指導実践の進め方
7	運動遊びの指導計画と指導実践(1)1~4班の発表
8	運動遊びの指導計画と指導実践(2)5~8班の発表
9	運動遊びの指導計画と指導実践(3)9~12班の発表
10	運動遊びの指導計画と指導実践(4)13~16班の発表
11	運動遊びの指導計画と指導実践(5)17~20班の発表
12	運動遊びの指導計画と指導実践のまとめ・振り返り
13	運動遊びにおける安全管理
14	運動遊びにおける現代課題に対する工夫と実践
15	子どもの遊びと保育者の役割 授業のまとめ

科目名	子どもの保健	授業コード	YK4728**	科目コード	YK4728
担当教員	飯村 愛・鈴木 千琴				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 保育現場における保健活動の基本について、保健活動の意義、子どもの身体的な発育・発達、子どもの健康状態の把握、子どもに多い疾病の予防と対応、保護者・多職種間の連携について理解する。 保育者として、園での保健的な対応方法について考える。</p> <p>【到達目標】 ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解した上で、保育者が行う具体的な保健活動の目的と方法を、挙げるができる。 DP②、④ ・乳幼児の発育・発達と健康状態の把握についての現状と課題を挙げて、保育者に求められる対応が説明できる。DP②、④ ・乳幼児期に多い疾病について知り、園での感染症感染拡大防止に関する保育者として適切な判断や対応ができる。DP ②、④ ・子どもの保健についてや保護者および他職種間との連携・協働の下での適切な対応が説明できる。DP⑤</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>乳幼児の心身の健康について考え、子どもの健康問題、健康増進を図る保健活動の意義を解説する。園で保健活動を行うための基礎知識として、「子どもの健康に関する現状と課題」「子どもの身体発育と運動機能・生理機能の発達」「乳幼児の主な疾病と感染症予防」「保護者および他職種との連携」などについて学び、これらの知識を踏まえて、日々の保育の中で保育者の保健活動のあり方と、健康教育を展開していく為の方法について考える。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 看護師または幼稚園教諭としての実務経験があり、看護師免許または幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>・授業内容については、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで予習・復習を行い、PC等を使用した宿題に取り組む。 （想定必要時間は予習・復習30分、宿題60分程度） ・新たに起こっている健康問題や様々な立場での意見について報道などから情報収集し、正しい根拠を基に自分の考えを構築する習慣をつける。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
定期試験50%、授業への参加状況30%、授業におけるコメントペーパーの提出状況20%					
<p>・定期試験を実施し、授業の内容全般についての理解度を評価する。 ・授業への参加状況は、個人に割り当てられたテーマに関する発表内容やグループワークにおける貢献度について評価する。 ・コメントペーパーにて毎回の授業の理解度を確認し、内容を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの保健」改訂版 鈴木美枝子編著 創成社（2024年）2,640円（税込）</p> <p>【参考文献】 これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」改訂二版 鈴木美枝子編著 創成社（2024年）2,750円（税込）</p> <p>他、授業時にも紹介する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>・テキストを毎回持参する ・2/3以上の出席がない場合は単位取得は認められない ・グループワークでは主体的、積極的に動くこと</p>					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 子どもの心身の健康と保健の意義と目的、健康の概念と健康指標
2	現代社会における子どもの健康に関する状況と課題 母子保健施策
3	子どもの発育・発達と保健 胎生期から新生児期の発達 成長の連続性とそれに続く新生児期の発達
4	乳幼児期の発達と保健 身体の発達様式、身体発評価評価
5	乳幼児期の発達と保健① 子どもの各期における発育・発達の特徴 運動・生理機能の発達と保健
6	乳幼児期の発達と保健② 子どもの各期における発育・発達の特徴 感覚器・精神機能の発達と保健
7	子ども心と体の健康状態の把握 発育・発達の把握と健康診断
8	子どもの健康状態の観察と心身の不調等の早期発見 子どもによく見られる症状と把握方法について 保護者との情報共有における配慮点
9	体調の良くない子どもへの対応 保護者との情報共有における配慮点
10	子どもの病気の予防と適切な対応① 子どものかかりやすい感染症
11	子どもの病気の予防と適切な対応② 子どものかかりやすい感染症の予防と対応 予防接種
12	子どもの病気の予防と適切な対応③ その他の子どもの病気・先天異常
13	子どもの病気の予防と適切な対応④ その他の子どもの病気・医療的配慮が必要な子ども
14	保護者との連携および地域における子育て支援と多職種との連携・子ども虐待防止 地域の子どもの対象とした保健活動について、園の役割や保護者および他専門職との連携について知る 虐待防止について考える
15	まとめ 職員の健康管理 これからの「こどもの保健」と保育 (保育者としての子どもの保健の重要事項を振り返って理解し、今後の学びに生かす)

科目名	子ども家庭福祉	授業コード	YK4766**	科目コード	YK4766
担当教員	下尾 直子・西岡 弥生				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	? 保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 子どもと子育て家庭の現状を知るとともに、子ども家庭福祉の専門職として、理念や制度に関する基本的な知識を身につけ、常に課題に向き合い考える姿勢をもてるようになる。					
【到達目標】 ・子どもと子育て家庭を取り巻く社会状況について知り、その課題について述べるができる。DP①、④、⑥ ・現代社会における子ども家庭福祉の意義を学び、多様なニーズと対応について自分の言葉で説明ができる。DP④ ・子どもの権利に配慮した保育について、個々のケースについて考察することができる。DP①、④、⑥ ・子ども家庭福祉の制度の概要や児童福祉施設に関する知識を身につけ、概略を説明できる。DP④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
前期科目「社会福祉」で学んだことを基礎として、子ども家庭福祉の制度や歴史、関連する福祉施設・専門職等、子ども家庭福祉の課題や今後の展開について学び、考える。授業では、教員による講義の他、グループワークでプレゼンテーションやディスカッションなどを行う。自分たちで調べ考えることを通して、様々な生活環境にある子どもや家庭の抱えるニーズをより身近な問題としてとらえる姿勢をもってほしい。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
【予習】子ども家庭福祉は、近年の社会変動に伴い「法」や「制度」が大きく変化している。従って予習では、社会福祉の動向についての報道等に興味をもつこと、同時に関連領域について知識を広げ、常に「次の世代」の福祉の在り方について考察する姿勢が求められる。 【復習】毎回の授業後に、専門用語、制度・法律などを正確に覚えるよう復習することが求められる。 予習・復習はそれぞれ1時間程度になると想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
年3回程度提出するレポート課題の期限内提出と内容充実度（評価の60%） リアクションペーパーの提出と内容充実度（評価の20%） グループワークの参加姿勢や発表内容（評価の20%） これらを合わせて総合的に判断する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 なし（ただし、前期科目の電子版教科書みらい社の「保育と社会福祉第4版」を一部参考にすることがあるため、準備しておくこと） 【参考文献】 「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集 ミネルヴァ書房（2021年6月） 2,500円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・社会福祉の単位を修得していることが望ましい。 ・ファイルを用意し、配布資料の整理に努め、毎回持参すること。 ・iPadやパソコンを毎回持参し、グループワーク等に活用すること。 ・講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。 ・履修者の積極的な授業参加を期待する。 ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。					

授業計画	
	【後期】
1	子ども家庭福祉とはなにか ～前期科目「社会福祉」との関連を考える
2	日本における子ども家庭福祉の歴史の変遷～「家族」の機能の変遷から子ども家庭福祉を考える～
3	現代社会と子ども家庭福祉～現代社会の抱える問題が子ども家庭福祉に与える影響について考える～
4	少子化と子育て支援～少子高齢化の現状と少子化対策を考える～
5	子どもの人権擁護と子ども家庭福祉～子どもの権利条約を読み込み、子どもの権利について考える～
6	子ども家庭福祉の法体系と制度～多様化する保育ニーズに対応する制度について考える～
7	子ども家庭福祉の行財政と実施機関～児童相談所での相談や通告から措置までの流れを知り、その課題について考える～
8	子ども家庭福祉の実施機関～児童相談所や子ども家庭センターの機能と課題について考える～
9	母子保健と子どもの健全育成～生まれる前からの支援と「健全」な育ちについて考える～
10	子ども虐待とDV～子ども虐待とDVの背景にある真の要因を、社会との関連から考える～
11	子ども虐待やDVの防止～「私たちにできること」として子ども虐待やDVの防止策を考える～
12	社会的養護～社会的養護の概略を知り、子どもの権利の観点から家庭養護と施設養護、家庭的養護について考える～
13	施設養護～児童福祉施設の概略を知り、施設保育士の在り方を含む今後の課題について考える～
14	障害のある子どもへの対応～障害児者福祉制度の概要をつかみ、その問題点について考える～
15	これからの子ども家庭福祉～ますます多様化していくこの分野で働こうとする保育者の視点で考える～

科目名	保育者のための文章表現		授業コード	YE4821**	科目コード	YE4821
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・伊藤 路香・加藤 翼・篠沢 薫					
授業形態	演習	配当学年	1年		期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格 選択
1. 主題・到達目標						
<p>【主題】 保育者は「書く」ことによって、子どもの姿や思い、自分の援助や意図を振り返りながら、保育を理解する。現場においては、保護者への連絡帳、園だより、指導計画の立案、担当クラスの保育記録、研修会参加後のレポートなど、文章を書く機会も多い。すなわち、保育者にとって「文章を書く」という営みは、その仕事の中核をなすものである。この授業では、保育者に求められる実践的な「文章で表現する」力を習得することを目指す。</p> <p>【到達目標】 ・保育現場で使用する保育用語や漢字を正しく理解し、活用できる力を習得する DP② ・多様な文章に触れ、表現する基礎となる語彙を増やし、正しい文章構成を理解する DP②、DP③ ・見たこと、感じたこと、考えたことを適切な文章で表現できる力を習得するDP① ・お礼状やプロフィール、履歴書等の社会人に求められる諸書類の作成の方法を習得するDP① ・保育記録や指導計画の書式を理解し、作成方法の基礎を理解する DP③</p>						
【ディプロマポリシーとの関連】						
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している					
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している					
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている					
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている					
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる					
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している					
2. 授業概要						
<p>この授業では保育者を志す学生が保育現場に必要な文章力を身に付けることができるよう、授業回ごとにテーマを決める。テキスト及び電子資料、ワークシートを使って「読む力、要約する力、文章を書く力」の育成に取り組む時間のほか、以下の時間を設定し、総合的な言葉による保育を表現する力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字テストを定期的に行うことによって、保育者として必要な漢字の知識が定着するようにする。 保育用語のテストを定期的に行うことによって、保育者として必要な用語を活用できるようにする。 実習前の準備として、保育現場の実際を動画や写真等の視聴覚教材を活用しイメージをもち、実習日誌を作成できるようにする。 指導計画を作成し、模擬保育等によって、指導計画と実際に体験する。 絵本や紙芝居研究を定期的に行うことによって、児童文化財に触れ、指導計画の作成や実習等で活用できるようにする。 授業内では学生が作成した保育の記録や指導案をもとに、グループディスカッションを行うなどアクティブラーニングの要素を適宜活用する。 ノートPC等を使用し、実習関係書類（プロフィール、記録等）の書き方に取り組む。 <p>なお、本授業は本学の初年次教育の一環として、位置付けている。</p>						
3. 授業時間外の学習（予習復習について）						
<p>授業で教員が示す。授業テーマにより予習・復習の内容は異なるが、予習に60分、復習に60分程度が予想される。 漢字及び保育用語テストに関しては、テストの実施計画を配布するので予習しておくこと。</p>						
4. 成績評価の方法及び基準						
<p><評価の割合> 授業への参加状況（評価の30%）、授業内の小テスト（評価の30%）、課題・レポートの内容（評価の40%）</p> <p><評価基準> ・授業グループディスカッションへの参加姿勢や貢献度、授業内容に対する関心度を評価する。 ・授業時間内に保育用語テストを実施し、理解度を確認する（事前に指定された範囲を学習すること）。 ・「環境構成図」「部分実習指導案」「教材研究」等の必須課題の内容を確認し、実習における記録や計画の力を評価する。 ・指定された授業回で、児童文化財（絵本や紙芝居）を持参し、乳幼児に向けた読み聞かせの表現力を確認する。</p>						
5. 授業で使用するテキスト・参考文献						
<p>【テキスト】 「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語（改訂2版）」長島和代編 わかば社（2021年）1,100円（税込）</p> <p>【参考文献】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）</p>						
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）						
<p>保育者を志す学生として必要な文章表現を身に付けるための授業である。本学における幼稚園・保育所実習や、就職への準備とも深く関わる授業となる。履修者の積極的な参加を期待する。</p>						

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（実習生プロフィールの書き方）
2	環境構成図の書き方(1) 保育における環境と書き方
3	環境構成図の書き方(2) 幼稚園の環境を捉え記録する<動画>
4	基礎カリサーチテスト
5	環境構成図の書き方(3) 実習経験から保育環境を記録する<振り返り>
6	保育用語の基礎：子ども・保育を適切に表現する
7	フォーマルな文章のメールの送り方／レポートの書き方（引用など）
8	保育記録の書き方(1) 生活の流れと子どもの姿
9	お礼状の書き方：はがき
10	保育記録の書き方(2) 事例の書き方
11	保育記録の書き方(3) 考察の書き方
12	体験実習の記録の書き方
13	お礼状の書き方：季節のはがき
14	遊びを体験し表現する
15	実習日誌の書き方の基礎

授業計画	
	【後期】
1	部分実習指導案の作成(1)教材の選定と計画の基本
2	部分実習指導案の作成(2)ねらいの立て方と導入の検討
3	部分実習指導案の作成(3)指導案の書き方と作成
4	部分実習指導案の作成(4)指導案の添削と模擬保育
5	実習日誌のチェック
6	お礼状の書き方：封書
7	実習経験を振り返り記録する
8	実習日誌（教育実習Ⅰ）の自己評価と振り返り
9	子どもの発達と教材研究<オンデマンド>
10	保育所実習Ⅰの目標作文
11	保育記録の書き方(4)低年齢児の姿
12	保育記録の書き方(5)事例と考察
13	部分実習指導案の作成(5)自作教材を活用した指導案
14	ICTを活用した文書作成：実習生プロフィールと卒業高校へのメッセージ
15	履歴書の書き方

科目名	特別支援と保育Ⅰ	授業コード	YE4851**	科目コード	YE4851
担当教員	下尾 直子・篠沢 薫				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 障害や生育環境等に起因する個別のニーズをもった子どもの発達特性を理解し、発達に応じた支援の方法や配慮について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害」とは何かについて自分の言葉で説明できる。DP①、② ・様々な障害の特性について、簡単に説明できる。DP② ・環境要因も含めた多様な背景を持つ幼児における教育・保育のニーズを理解する教育・保育のニーズを理解する DP②、④ ・これからの特別支援教育／保育はどうあるべきか自分の意見を述べる事ができる。 DP① 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業では、まず現代の「障害」の捉え方と特別支援教育・保育の歴史の変遷を知り、発達と環境の観点からそれらを理解する。次に、軽度障害を含めた様々な障害、生育環境に起因する個別のニーズをもつ子どもについて、身体的心理的特性・心身の発達、生活上学習上の困難についての知識を得る。最後に、家庭・地域・専門機関との連携を含めた環境の整備、適切ななかかわり方の基礎を身につける。全てにおいて、教員から知識を与えるだけにとどまらず、自らがPC・iPad等を活用した情報収集を行うことや、映像や具体物を使った体験的授業によって身につける。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 毎日15分以上は新聞やテレビ、インターネット等の正しい報道に触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。</p> <p>【復習】 毎回の授業後に、テキストの該当箇所やiPad配信を含む参考資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。 想定時間は、毎週各1時間程度である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>定期試験50%、授業内課題の提出状況30%、授業内で行われるグループワークへの参加態度・積極性20%として、これらを合わせて授業内容の理解度および授業への参加状況を総合的に評価する。なお授業への参加状況とは、個人の発言内容やグループワークへの貢献度を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども【第2版】」野田敦史・林恵 編 みらい（2024年）2,860円（税込） ※電子テキスト</p> <p>【参考文献】 「小さいときから考えてきたこと」黒柳徹子 新潮文庫（2004年）649円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>子どもの発達について、他の授業等でこれまでに得た知識や情報を整理して臨むこと。 PC等を毎回持参し、電子テキストの閲覧や配信資料を授業時および予習復習時に活用すること。</p>					

授業計画	
	【後期】
1	「障害」概念の変遷と現代社会（ICF、インクルージョン、合理的配慮、特別支援教育の制度、統合保育）
2	知的障害（知的障害の心身の発達、心理的特性、知的障害児の生活・学習上の困難と支援の方法）、 ダウン症候群の特徴
3	発達障害①（発達障害の概要、自閉スペクトラム症とは、自閉スペクトラム症の特性と支援）
4	発達障害②（ADHDの特性と支援、LDの特性と支援）
5	インクルーシブ保育実践①（特別な支援を必要とする子への支援と配慮、職員間の連携と協働、環境設定など）
6	インクルーシブ保育実践②（インクルーシブ教育と子ども同士の関わり）
7	インクルーシブ保育実践③（家庭及び自治体・関係機関との連携）
8	身体障害①肢体不自由（脳性麻痺の特性と支援、肢体不自由児者を支援する道具など）
9	身体障害②視覚障害（様々な視覚障害、視覚障害の特性と支援）
10	身体障害③聴覚障害（聴覚障害の特性と支援、手話などの言語）
11	言語障害（構音障害の特性と支援）
12	重度重複障害（医療的ケアの必要な子どもの生活と支援、病弱児の支援、重度重複障害の子どもの家族とその支援）
13	てんかんとその支援
14	愛着障害（環境による障害とその理解）
15	特別支援と保育に関する現状と課題（知識の定着、概念の理解、応用力の確認）

科目名	保育原理	授業コード	YK5017**	科目コード	YK5017
担当教員	長島 万里子				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
保育士資格 必修					
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 保育の意義・目的・思想・歴史・制度・方法、保育所と保育者の在り方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の意義及び目的を理解する。 DP①、② ・保育に関する法規と制度を理解する。 DP② ・保育の思想や歴史、子ども観の社会史を知る。DP② ・保育の現状と課題を理解する。 DP①、②、⑥ ・保育所と保育者の役割と責任を理解する。 DP①、②、⑥ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>「保育とは何か？」について授業回ごとに異なる切り口から考察する。理解を深めるために、グループワークやディスカッションも取り入れて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について考え、保育所保育指針が示す内容を理解する。 2. 日本と西洋の保育の歴史や代表的な思想家について学ぶ。 3. 現代の日本の保育政策や保育制度を理解する。 4. 保育の現状と課題を理解し、未来の保育についての考えを深める。 5. 保育所と保育者の役割と責任を理解する。 6. 保育のなかでの安全への対応の必要性和具体的な取り組みについて理解する。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>予習では、授業テーマに相当するテキストのページを事前に読んでおき、テーマについて調べたり、自分の考えを整理したりする。（90分）</p> <p>復習では、授業内容に関連する新聞やインターネット等の報道、図書館の文献を探して読み、用語や考え方について理解を深める。（90分）</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>レポート 50%、授業ごとの課題 40%、授業における発言 10%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業で指示をする。講義内容の視点と絡めて考察しているかどうかを評価する。 ・授業ごとの課題は、授業で配布するプリントに授業内容やコメントを記入して提出する。その内容の充実度を評価する。 ・授業における発言は、授業テーマに関する理解やグループディスカッションでの発言の内容を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「哲学的な考えをいかに新・保育原理」 編著 伊藤潔志 教育情報出版（2024年）2,300円（税込）</p> <p>「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉」 内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>保育の根本となる原理・原則を学ぶ講義である。他講義のすべての内容と関連すると言っても過言ではない。積極的な姿勢で授業や課題に取り組むこと。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	保育とは何か 保育の目的
2	保育思想
3	保育の歴史
4	「共感性をはぐくむ保育」を知る
5	保育所と保育者の役割と責任
6	日本と西洋の子ども観
7	発達と遊び
8	福祉と保育
9	保育の計画
10	保育の内容
11	保育の制度
12	諸外国の保育
13	保育の現代的課題
14	保育における安全の必要性と取り組み
15	未来の保育への展望 学びの振り返り

科目名	教育心理学	授業コード	YK4137**	科目コード	YK4137
担当教員	山本 有紀・岡本 かおり				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 乳幼児期の心身の発達過程と特徴、学びの過程と特性を学ぶ。保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解し、子どもの発達を捉える視点や子どもの実態に即した指導・援助の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・乳幼児期における各時期と各領域での子どもの心身の発達過程についての知識を養う。DP② ・生涯発達の視点から発達過程の特徴と保育実践における留意点を理解する。DP② ・乳幼児の発達、学習と教育に関わる心理学の基礎的知識を習得した上で、保育における援助や指導と結びつけて考えようとする姿勢や態度を身につける。DP①、② ・環境との相互作用の重要性を捉えた上で、養育者や保育者に求められる役割について具体的に述べるができる。DP①、② ・保育現場の動向から、子どもの実態に応じた援助や、子どもの主体性を育むような保育者の適切な働きかけについて理解する。DP②、④</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>・養護と教育が一体となった営みである保育と教育心理学のつながりを理解し、身体・運動、知覚・認知、思考・言語、社会性などの領域での子どもの発達過程について学ぶ。 ・他者との相互的な関わりでの基本的信頼感の獲得、社会的相互作用、生涯発達と初期経験の重要性といった保育実践に関わる心理学の基礎知識を身につけ、その意義を理解する。 ・子どもの主体的な学習行動を支える教育、援助、また、個人差と個性、適応・不適応など心身の発達を踏まえた援助や指導といった、子どもの実態に即した保育援助や学習支援の基礎理論とその実際を学ぶ。 ・幼児教育・保育の動向を学び、保育者に求められる役割について学ぶ。 ・発達や学習、教育についての基礎知識を、保育における援助や指導と結びつけて考えようとする姿勢や態度について身につけるとともに、グループディスカッションやその発表、リアクションシートの提出を通して、保育援助における留意点を自分の言葉で説明できるようにする。 ・授業資料、参考資料、動画リンク等の教材を適宜共有し、予習や復習、調べ学習、グループディスカッション等に活用する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>詳細は授業時に担当教員より指示する。次回の授業内容に関わるテキストの該当章を、授業毎に指示をするので、読んで予習をすること。また、テキストや担当教員が提示した資料を読み返し、授業で出てきたキーワードをテキスト巻末の用語解説を使って調べるなど自分なりに毎回の授業を振り返るとともに、紹介した参考文献から、子どもへの援助や指導についての考えを広げ、自分なりの言葉でまとめるような復習をおこなうこと。予習復習、リアクションシートの提出やグループディスカッションのための文献検索、資料収集と作成に120分を想定する。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業内容の理解度の確認のためのレポート課題60%、リアクションシートなど授業毎の課題の提出状況およびグループディスカッションなどへの取り組み姿勢40%</p> <p>詳細については、授業時に担当教員より指示をする。 指定した授業回に、授業内容の理解の確認のためのレポート課題を課す。 授業毎の課題でのリアクションシートは、授業内容の理解に加え、講義の視点と絡めて考察をしているかどうかを評価する。 グループディスカッションでは、発表を含め、取り組みの姿勢を評価する。 成績は、上記項目を総合的に評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「教育心理学 保育者をめざす人へ」石井正子・松尾直博 編著 樹村房（2004年）2,200円（税込） 詳細は、授業時に担当教員より指示する。</p> <p>【参考文献】 ・「エピソードで学ぶ 乳幼児の発達心理学 関係のなかでそだつ子どもたち」 岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる 著 新曜社（2004年）2,090円（税込） ・「発達がわかれば子どもが見える -0歳から就学までの目からウロコの保育実践-」 田中真介 監修 乳幼児保育研究会 編著 ぎょうせい（2009年）1,781円（税込） ・「実践につながる教育心理学」櫻井茂男 監修 黒田祐二 編著 北樹出版（2018年）2,420円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>将来、保育者や養育者となったとき、大人の関わりが子どもに大きく影響を及ぼすことを意識し、主体的に講義に臨むこと。保育における心理学の基礎的知識を習得することが望まれるため、予習や復習をしっかりと行い、用語や授業内容を身につけること。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション、保育と教育心理学
2	発達と教育①発達理論、外的内的要因の相互作用、初期経験と環境の重要性
3	発達と教育②生涯発達、発達段階、発達課題
4	発達と教育③身体・運動発達
5	発達と教育④知覚・認知発達
6	発達と教育⑤思考・言語発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達①基本的信頼感、愛着
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達②感情と自我
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達③遊びと仲間関係（社会性）
10	学習①学習理論（条件付け、洞察学習、観察学習）
11	学習②主体的な学習活動を支える教育、援助（動機づけ、無力感、集団、学習評価）
12	学習③心身の発達を踏まえた援助や指導（レジリエンス、発達の最近接領域の理論）
13	個人差や個性とその援助 知能、気質・性格
14	適応・不適応とその支援 適応、精神的健康と障害
15	幼児教育の動向、保育者に求められる役割、資質、能力 全授業内容のまとめ、学習内容の理解度の確認および解説

科目名	幼児理解とカウンセリングマインド	授業コード	YK4156**	科目コード	YK4156
担当教員	坪井 葉子・山本 有紀・岡本 かおり				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と個々の理解と援助の方法を学ぶ。					
【到達目標】 ・幼児理解の意義を理解し説明できる。DP② ・幼児理解の原理・方法としての「カウンセリングマインド」「カウンセリング技法の基礎」について説明できる。DP② ・事例に合わせた援助のために「カウンセリングの技法」を選択し活用できる。DP②、④ ・事例に基づき、問題の捉え方と対応を判断できる。DP②、④ ・事例に基づき、幼児への対応、保護者の心情の理解、保護者への対応方法、教職員間の連携、他機関との連携の具体的方法が構想できる。DP②、④、⑤					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と具体的な方法を身につける。 保育者として子どもの心に寄り添い、必要な援助を行うために「カウンセリングの基礎知識」「カウンセリングマインド」を理解する。さらに事例を通して、具体的に子どもの発達や個々の状況を踏まえた適切な援助力、障害や不適応等への対応力を身につけていく。 事例における幼児理解や援助等の検討に際し、意見交換を行い、協同的に保育にあたる態度を身に付けていく。(アクティブラーニング) ICT機器を活用し、子どもの心身の健康に関する知識や子どもの表情や態度の捉え方の知見を深めていく。(ICT機器の活用)					
3. 授業時間外の学習 (予習復習について)					
授業で学んだ内容をテキストやプリントで見直すこと。また次回の内容についてテキストを読んでおくことは毎回丁寧に行っておくこと。加えて指示された復習課題・予習課題を行う。全体で毎回120分程度の授業外学習が必要と想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・授業内の毎回の提出課題 (評価の50%) ・レポート (評価の50%)					
授業内の提出課題は、授業毎の内容の理解および内容の充実度を評価する。 レポートは、授業の内容の全般についての理解および内容の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「スキルアップ保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック」 諸富祥彦・大竹直子 編著 誠信書房 (2020年) 2,090円 (税込) ※電子テキスト					
【参考文献】 「保育現場で使えるカウンセリング・テクニック 子どもの保育・発達支援編」 諸富祥彦・富田久枝 編著 ぎょうせい (2015年) 2,310円 (税込) 「保育現場で使えるカウンセリング・テクニック 保護者支援、先生のチームワーク編」 諸富祥彦・富田久枝 編著 ぎょうせい (2015年) 2,310円 (税込)					
6. 履修条件・クラス分けの方法 (履修者への要望等)					
1年次に履修した心理学関連科目(教育心理学、子どもの理解と援助)を復習しておくこと。					

授業計画	
	【前期】
1	保育現場で求められるカウンセリングの基本的考え
2	保育現場で使えるカウンセリング技法① (ペーシング、うなずき、あいづち、伝え返し、ミラーリング)
3	保育現場で使えるカウンセリング技法② (わたしメッセージ、リフレーミング、勇気づけ)
4	保育現場で使えるカウンセリング技法③ (がんばり見つけ、モデリング、ピアサポート)
5	保育現場で使えるカウンセリング技法④ (アサーション、ソリューション・フォーカスト・アプローチ)
6	事例の検討① かんしゃくがとまらない子、友だちと遊べない子
7	事例の検討② ケンカが絶えない子、保育者になつかない子
8	事例の検討③ 関心をもったり集中したりできない子、嘘をつく子
9	事例の検討④ 暴力をふるう子、よい食習慣がない子
10	事例の検討⑤ まばたき・指しゃぶりが多い子、性に関心のある子
11	事例の検討⑥ 発達に課題のある子、家族が問題を抱えている子
12	保護者とのかかわり方・関係づくり
13	親子の関係性の支援、精神疾患を抱える保護者へかかわり
14	保育者同士のチームワーク、保育者のメンタルヘルス
15	保育者の役割、全体のまとめと復習

科目名	教育課程論	授業コード	YK4186**	科目コード	YK4186
担当教員	高橋 優子・齊藤 加奈				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 保育における計画の意義、編成・作成の方法、計画の評価、カリキュラムマネジメントについて学ぶ。					
【到達目標】 ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育課程、全体的な計画の意義や役割を理解する。DP② ・教育課程編成の方法、全体的な計画と指導計画の作成の方法を理解し、説明することができる。DP② ・「カリキュラムマネジメント」の意義と方法を理解し、説明することができる。DP②、③ ・子どもの育ちに配慮した指導計画を立案できる。DP②、③、④ ・指導計画に基づき実践を行い、振り返りを通して保育の評価ができる。DP②、③、④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷を学び、社会的背景からその意義を理解する。 ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の基本的な考え方の理解を深め、「教育課程」、「全体的な計画」の意義と具体的な内容、編成の方法を学ぶ。 ・「教育課程」、「全体的な計画」と「指導計画」との関係性を学ぶ。 ・「カリキュラムマネジメント」の意義を理解し、具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）にグループディスカッションを適宜取り入れ、学ぶ。 ・「指導計画」については、立案・実践（模擬保育）・評価についてグループワークにて演習的に学ぶ。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
【予習】 ・授業ごとに教示された次回の授業に該当するテキストページや参考文献を読了し、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。 【復習】 ・授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・小テストによる内容の理解（20%） ・指導案等の課題の提出状況及び内容（30%） ・授業への参加姿勢（25%） ・コメントシートの提出状況及び内容（25%）					
小テストは、授業内容の理解度をはかる目的で実施する。実施回については、初回授業にて提示する。 指導案等の課題は、期限内に必ず提出すること。講義内容を踏まえて記入できているか評価する。 授業への参加姿勢は、グループワーク、課題への取り組み、授業態度など総合的に判断する。 コメントシートは、提出状況及び講義内容を踏まえて記入できているか評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 ・「新版 遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院（2009年）3,520円（税込）※電子テキスト その他、必要に応じて資料を配布する。					
【参考文献】 ・「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） ・「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込） ・「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料> https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf ・「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。 各自、ノートやファイルを用意して授業に臨み、授業内で配布される資料、iPad等で配信される資料等はきちんと整理しておくこと。 授業で必須の課題が示された場合は、授業の出欠席に関わらず、提出すること。提出物の期限は守ること。 他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。					

授業計画	
	【前期】
1	保育における計画の意義 -教育課程・全体的な計画の編成-
2	3法令の理解及び教育課程、全体的な計画、指導計画とのつながり 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法
3	幼稚園における生活の計画 短期指導計画の作成①【幼稚園】 -幼児の発達の特徴とねらい・内容の考え方-
4	保育現場における造形遊びの計画と実践
5	短期指導計画の作成②【幼稚園】 -環境構成、予測される子どもの姿、援助・配慮点の考え方-
6	模擬保育と評価①【幼稚園】
7	計画に基づく保育の実際と保育の省察
8	保育における計画の意義の再考（経験を基に理解を深める）
9	保育所の全体的な計画の編成の基本原理と方法
10	短期指導計画の作成③【保育所】 -養護を意識した生活場面の援助-
11	短期指導計画の作成④【保育所】 -子どもの発達に即した活動の研究-
12	模擬保育と評価②（計画）【保育所】
13	模擬保育と評価②（実践と評価）【保育所】
14	子ども理解に基づく保育の循環 -多様な保育計画とカリキュラムマネジメント-
15	まとめ -保育の質の向上に向けた保育計画の考え方-

科目名	保育者論	授業コード	YK4323**	科目コード	YK4323
担当教員	柳井 郁子・尾根 秀樹				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 保育者の仕事は、子どもの気持ちや発達を理解し、子どもの育ちを援助する仕事である。保育者を志す学生として「保育者になる」とはどのようなことか、保育者とはどのような職業であるか、保育者に求められる専門性とは何かを学ぶ。					
【到達目標】 ・保育者としての役割を担うために必要な資質を理解する DP① ・保育者としての役割を担うために必要な考え方を理解する DP① ・保育者としての役割を担うために必要な学びとは何かを理解する DP①、⑤ ・保育者の専門性について理解する DP①、②					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
「保育者の役割」「保育者の仕事」「保育者の専門性」「保育者の協働」「保育者の成長」について、事例を取り上げながら学ぶ。そのうえで、「保育者になる」とはどういうことかを、実際の保育場面と関連づけながら考察していく。授業を通じて、自らがどのような保育者をめざすのか具体的なイメージをもち、それぞれが今後の課題を意識化できるように、ミニレポートやコメントシートを作成し、それを用いたディスカッションの機会を多く設ける。 また、課題や授業内レポートをオンラインで提出する等、授業ではPC等を活用する。PC等を用いたお互いの意見の共有及びディスカッション、保育実践に必要な知識や情報を調べる課題なども予定している。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
次回の授業の予習として、該当箇所を読んでおくこと。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
レポート50%、授業への参加状況30%、個人ワーク20% レポートについては、授業内容全般についての理解度と内容の充実度を評価する。 授業への参加状況は、授業内での発言やグループワークにおける積極性及び内容を評価する。 個人ワークは、考察の深さ等の内容の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 『子どもの未来を拓く 保育者論』名須川知子編著 青踏社（2024年）2,090円（税込）					
【参考文献】 「保育者の地平」津守真 ミネルヴァ書房（1997年）3,300円（税込） 「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省＜電子資料＞ https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省＜電子資料＞ https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省＜電子資料＞ https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。 授業内で行うディスカッションには積極的に参加すること。					

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の受け方、「保育者になる」ということ）
2	保育者とは
3	保育者の一日
4	保育における子ども理解
5	子どもの権利と保育
6	保育者の制度的位置づけ
7	保育者の史的変遷
8	世界の保育者
9	保育者の専門職性
10	養護と教育の一体的展開
11	保育における連携・協働
12	家庭との連携と支援
13	地域社会との連携・協働
14	保育者の専門性の向上
15	保育者のキャリア形成

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)	授業コード	YE4350**	科目コード	YE4350
担当教員	柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 幼稚園教諭・保育士として、免許・資格の取得にふさわしい専門的な知識・技術に加えてふさわしい資質・考え方・態度についての学びを振り返る。そのうえで自己課題を明確にし、グループ学習を通して学びを深め定着を図る。					
【到達目標】 ・保育者に求められる使命感や責任感、教育的愛情について振り返り、実践することができる。DP⑥ ・保育者に求められる社会性や対人関係能力について振り返り、実践することができる。DP⑤ ・保育者に求められる子ども理解やクラス運営の力について振り返り、実践することができる。DP② ・保育者に求められる保育実践と乳幼児の指導援助のための知識や技能について振り返り、実践することができる。DP②					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
(1)「履修カルテ」を活用し、実習や保育・教職専門科目の内容を振り返り自身が習得できた点、課題が残る点を自覚し、知識・技能の定着を図る。 (2)保育職に就くことを前提にグループで1つのテーマを設定し調査研究に取り組むことを通して子ども理解や保育に関する知識を深め、技能の向上を図る。 (3)授業での演習や自己研鑽を通して保育実践力の向上と自己課題の解決を目指す。 (4)保育現場におけるICT活用について理解を深め、実践できるスキルを身に付ける。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
毎回の授業時に教員が示す。予習と復習を合わせて、2時間程度の時間がかかることが想定される。 演習課題の準備は手順と期限を守ること。 欠席回の授業（演習）内容についても把握しておくこと。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・授業内の課題（評価の60%） ・レポート（評価の40%） 授業内の課題は、実習の振り返りや、授業内容に関するものである。内容の充実度を評価する。 レポートは与えられたテーマに関して、講義内容と関連付けて深く考察しているかどうかを評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
テキストは指定しない。必要に応じて、資料を配布する。 【参考文献】 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） ISBN-13 : 978-4805402580					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
保育職に就くことを前提に授業を進めるので、異なる進路を目指す者であっても、保育者としての免許・資格を取得する責任を自覚して本講義に参加することが求められる。					

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス
2	実習の振り返りと学びの共有 学生生活の振り返りと今後に向けて（履修カルテ）
3	研究手法についての理解 研究目的設定の方法
4	テーマ別グループ学習①研究背景の整理、研究目的、研究手法設定
5	テーマ別グループ学習②研究背景の整理、先行文献調査
6	テーマ別グループ学習③課題の共有・中間報告
7	テーマ別グループ学習④調査とまとめ
8	保育現場におけるICT活用
9	テーマ別グループ学習⑤発表準備
10	テーマ別グループ学習⑥発表準備・クラス内発表
11	テーマ別グループ学習⑦クラス内発表・代表グループの選出
12	学びの成果報告①学びの発表
13	学びの成果報告②学びの成果の共有
14	学びの振り返り（履修カルテ）
15	「保育者に求められる専門性とは何か」（まとめ）

科目名	教育実習Ⅰ（事前事後の指導を含む）	授業コード	YE4352**	科目コード	YE4352
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・伊藤 路香・加藤 翼・篠沢 薫				
授業形態	演習及び実習	配当学年	1年	期間	
単位数	3.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	—
1. 主題・到達目標					
<p><実習指導></p> <p>【主題】</p> <p>事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅰの目的と概要を理解できる DP①、② ・教育実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる DP①、② ・実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる DP① ・実習での観察や経験の記録方法を理解できる DP②、③ ・部分的な教育活動の計画を立てることができる DP②、③ ・部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する DP②、③ ・実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる DP②、③ <p><実習></p> <p>【主題】</p> <p>幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園教育における補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態とこれを踏まえた教育活動の特色を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる DP②、③ ・保育者の援助や配慮を観察し、事実即して記録することができる DP②、③ ・実習園の教育理念や方針を理解し、特色ある教育活動を理解することができる DP①、②、③ ・保育者の補助的な役割を担い、幼稚園教諭の役割を理解することができる DP①、②、③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>事前指導では、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。</p> <p>教育実習Ⅰでは、幼稚園における保育に参加し、幼稚園教育の実践について理解する。また原則として部分実習を経験し保育実践の基礎的な技術を習得する。</p> <p>事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。□</p> <p>ノートPC等を活用し、実習指導に必要な資料を格納して適宜参照、書き込みをしながら授業を進める。また、実習手続きに関する書類作成や、報告等、配信される内容はノートPC等で取り組む。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリント、配信させる資料を参照し確認しておくこと。予習復習にかかる時間は、3時間程度を想定している。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合></p> <p>授業への参加状況（15%）・手続き書類（10%）・課題及びレポート（15%）・実習状況（35%）・実習日誌及（15%）</p> <p><評価の基準></p> <p>【事前指導・事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の振り返りフォームの内容の充実度、及びグループワークやディスカッションにおける貢献度を評価する。 ・実習に関する手続き書類の作成と定められた期限を遵守した提出を評価する。 ・授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を遵守して提出し、その内容の充実度を評価する。 <p>【教育実習Ⅰ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況としては、実習園からの評価票をもとに、実習目標の達成度を評価する。 ・実習日誌の内容の充実度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】</p> <p>「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト</p> <p>「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」</p> <p>授業内で配布する資料（ノートPC等格納資料、紙媒体）</p> <p>【参考文献】</p> <p>「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省<電子資料>https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf</p> <p>「指導計画の考え方・立て方 幼稚園・保育所実習 第2版」久富陽子編著 萌文書林（2017年）1,980円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆基礎実習指導の単位を取得していること ◆教育実習Ⅰの参加条件については「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」に基づく ◆教育実習指導Ⅰの単位取得の条件については「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」に基づく 					

授業計画	
	【後期】
1	基礎実習の振り返り
2	教育実習 I の目標の理解
3	実習日誌の書き方(1) 園の概要
4	事前面談（訪問教員との顔合わせ）実習目標の確認
5	実習日誌の書き方(2) 時系列の記録
6	教育実習の進め方
7	直前指導：実習中の対応の理解
8	教育実習 I <10/20（月）～10/31（金）>
9	事後指導(1) 自己評価と手続き
10	事後指導(2) 実習経験を振り返る
11	事後面談（訪問教員との振り返り）実習の振り返りと評価伝達
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習Ⅱ（事前事後の指導を含む）	授業コード	YE4353**	科目コード	YE4353
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子・加藤 翼・尾根 秀樹・齊藤 加奈・飯村 愛				
授業形態	演習及び実習	配当学年	2年	期間	
単位数	3.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	-
1. 主題・到達目標					
<p><実習指導></p> <p>【主題】</p> <p>事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅱの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習Ⅱの目的と概要を理解できる。DP② ・教育実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP② ・実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。DP② ・実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。DP②、③ ・幼稚園教育要領や実習園の教育課程を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。DP② ・責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。DP③ ・実習経験を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP② <p><実習></p> <p>【主題】</p> <p>幼児との関わりを通して実習園の教育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に幼児に関わることができる。DP③ ・保育者の補助的な役割を担うことを通し、幼稚園教諭の役割を理解できる。DP⑤ ・実習園での保育の実態を事実即して記録することができる。DP② ・実習園の教育課程等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。DP②、③ ・指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。DP③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得する。</p> <p>教育実習Ⅱでは、原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園における一日の学級運営の実際や保育記録の取り方、保育を実践するための専門的技術や知識を習得する。</p> <p>事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。またグループディスカッションを活用し、実習経験を多面的にとらえ、幼稚園教諭の役割等を深く理解する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合></p> <p>授業への参加状況（15%）・手続き書類（10%）・課題及びレポート（25%）・実習状況（35%）・実習日誌及び指導案（15%）</p> <p><評価の基準></p> <p>【事前指導・事後指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・講演内容の振り返りフォーム内容の充実度、及びグループワークやディスカッションにおける貢献度を評価する。 ・実習に関する手続き書類の作成と定められた期限を厳守した提出を評価する。 ・授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を厳守して提出し、その内容の充実度を評価する。 <p>【教育実習Ⅱ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習状況としては、実習園からの評価票をもとに、実習目標の達成度を評価する。 ・実習日誌、指導案の内容の充実度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】</p> <p>「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト</p> <p>「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」</p> <p>「授業内で配布する資料」</p> <p>【参考文献】</p> <p>「新版 遊びの指導」幼少年教育研究所 同文書院（2009年）3,520円（税込）</p> <p>「新・基本保育シリーズ 13 教育・保育カリキュラム論」千葉武夫・那須信樹編著 中央法規（2019年）2,200円（税込）</p> <p>「指導計画の考え方・立て方 幼稚園・保育所実習 第2版」久富陽子編著 萌文書林（2017年）1,980円（税込）</p> <p>「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育実習指導Ⅰの単位を取得していること ◆ 幼児音楽Ⅰの単位を取得していること ◆ ピアノⅡ、幼児音楽Ⅱを履修すること ◆ 教育実習Ⅱの参加条件については「2025年度 実習の手引き」に基づく ◆ 教育実習指導Ⅱの単位取得の条件については「2025年度 実習の手引き」に基づく ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること 					

授業計画	
1	教育実習Ⅱの概要の理解
2	実習園の理解とオリエンテーション
3	保育現場における造形遊びの計画と実践<講演>
4	実習日誌の書き方(1)園の概要と園周辺的环境、オリエンテーションの記録
5	実習目標と課題の設定：実習目標作文の作成
6	部分・責任実習の理解と指導計画の立て方<講演>
7	実習日誌の書き方(2)日々の記録、事例と考察の書き方
8	実習における自己課題を考える(個別)
9	事前面談(訪問教員との顔合わせ)実習目標の確認
10	直前指導：実習中の報告と心構え
11	教育実習Ⅱ <5月26日(月)～6月6日(金)> 事後指導(1)実習の報告、自己評価と課題設定
12	事後面談(訪問教員との振り返り)実習の振り返りと評価伝達
13	事後指導(2)実習日誌の振り返りと自己評価
14	
15	

科目名	ピアノⅡ	授業コード	MZ*****	科目コード	YL4436
担当教員	柴田 美奈・岡本 有子・押川 涼子・小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒 ・大澤 美紀・池田 聡子・山本 佳世子・磯矢 玲子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏力を養う。					
【到達目標】 ・ピアノⅠで得た演奏技術をさらに向上させ、難易度の高い曲を演奏できるようになる。DP② ・表現力豊かなピアノ演奏ができるようになる。DP③、④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
ピアノの演奏技術、表現力を高め保育現場で実践、応用できる力につなげる。 ピアノⅠの担当教員による20分間の個人レッスンである。 ピアノⅠⅠの課題の他、実習園での課題曲、就職試験の曲など、その時点で必要となる個別の課題を演習する。					
<実務経験のある教員による授業> 担当教員全員が音楽大学のピアノ専攻修了者である。音楽教室を始め、各方面でピアノ指導の実務経験のある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
ピアノの上達には練習の積み重ねが大切となる。 授業毎の課題の予習、復習には毎日20分以上の練習が必要と想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・実技試験 演奏の完成度を評価する<評価の50%> ・授業への参加状況 授業の参加姿勢及び課題の授業外学習の取り組みの達成度を評価する<評価の50%>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
担当教員と相談のうえ、実力に合うテキストを使用する。 授業計画参照。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
1. 「ピアノⅠ」の単位が修得できていること。 2. 「教育実習ⅠⅠ」を履修する学生は、「ピアノⅠⅠ」を履修しなければならない。 3. 実習のオリエンテーションや就職活動など、学事日程外での欠席は事前に担当教員に報告する。またその他、やむを得ない理由により遅刻、欠席する際は必ず連絡を入れその旨を伝える。 4. 前期 2/3以上、後期2/3以上の出席がない場合は実技試験を受けることができない（欠格条件） 5. 実技試験の服装は、スーツ、スタンダードカラーの白無地ワイシャツ（男性はネクタイ着用）、黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキングとする。 前期実技試験の際のスーツの上着の着用は、自由とする。					

授業計画	
	<p>【前期】 以下のテキストおよび楽曲より、個別の実力に合わせた課題の演習 実技試験は課題より任意の1曲を暗譜で演奏 (繰り返しなし)</p> <p>バイエル 「標準バイエルピアノ教則本」 88番以降106番まで</p> <p>ブルグミュラー 「25の練習曲」 カバレフスキー 「こどものためのピアノ小曲集」 ギロック 「こどものためのアルバム」 シューマン 「ユーゲントアルバム」 湯山昭 「子供の国」※ 湯山昭 「お菓子の世界」 シューマン 「子供の情景」 任意の2曲 「アラベスク」 ショパン 「ワルツ」 「ノクターン」 ※「11ワルツ」「Xジャズ」「X111ゴーカート」 は、繰り返しあり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる ・前期中にピアノクラス内でのおさらい会を実施する
1	個別の学習計画 課題の確認
2	課題曲① 技法の演習
3	課題曲① 技法の演習 曲の分析 (構成、形式)
4	課題曲① 奏法の演習 曲の理解 (作曲家、様式)
5	課題曲① 奏法の演習 表現、音色について
6	課題曲① 奏法の演習 表現の探究
7	課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏
8	課題曲② 技法の演習
9	課題曲② 技法の演習 曲の分析 (構成、形式)
10	課題曲② 奏法の演習 曲の理解 (作曲家、様式)
11	課題曲② 奏法の演習 表現、音色について
12	課題曲② 奏法の演習 表現の探究
13	課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏
14	課題曲② 演奏発表形式での演習
15	前期のまとめ (演奏および講評)

授業計画	
	<p>【後期】</p> <p>A クラシック曲コース B 幼児歌曲コース 担当教員と相談のうえA、Bいずれかのコースを選択</p> <p>A クラシック曲コース ・クラシック自由曲の演習 ・実技試験は任意の1曲を暗譜で演奏（繰り返しなし）</p> <p>B 幼児歌曲コース ・幼児歌曲の演習（ピアノ演奏のみ） ・楽譜は、簡易伴奏譜、オリジナル譜、編曲版等、自由選択 ・実技試験は任意の3曲を演奏（繰り返しなし） 楽譜の使用については自由</p> <p>・曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる ・後期中にピアノクラス内でおさらい会を実施する</p>
1	個別の学習計画 課題の確認
2	A 課題曲① 技法の演習 B 課題曲① 技法の演習
3	A 課題曲① 技法の演習 曲の分析（構成、形式） B 課題曲① 歌詞に合わせた曲の理解
4	A 課題曲① 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式） B 課題曲① 奏法の演習
5	A 課題曲① 奏法の演習 表現、音色について B 課題曲① 表現、伴奏アレンジ
6	A 課題曲① 奏法の演習 表現の探究 B 課題曲② 技法の演習
7	A 課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏 B 課題曲② 歌詞に合わせた曲の理解
8	A 課題曲② 技法の演習 B 課題曲② 奏法の演習
9	A 課題曲② 技法の演習 曲の分析（構成、形式） B 課題曲② 表現、伴奏アレンジ
10	A 課題曲② 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式） B 課題曲③ 技法の演習
11	A 課題曲② 奏法の演習 表現、音色について B 課題曲③ 歌詞に合わせた曲の理解
12	A 課題曲② 奏法の演習 表現の探究 B 課題曲③ 奏法の演習
13	A 課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏 B 課題曲③ 表現、伴奏アレンジ
14	A 課題曲② 演奏発表形式での演習 B 課題曲①②③ 演奏発表形式での演習
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	幼児音楽ⅠⅠ	授業コード	YE4454**	科目コード	YE4454
担当教員	秋山 徹 ・ 飯田 千夏 ・ 神谷 明美				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 幼児教育の現場で音楽活動を展開するために必要な幼児音楽教育の内容を理解し、幼児の発達に応じた音楽指導力を習得することを目指す。以下を身につける事を到達目標とする。					
【到達目標】 ・ 音符や記号、拍子、音階など音楽の基礎的知識を確認し身につける。DP② ・ 幼児歌曲、唱歌、手遊び歌、わらべうたなどのレパートリーを広げる。DP② ・ 保育の現場を想定した正しい発音、発声法を身につける。DP② ・ 様々な楽曲を各自のレベルに合わせ弾き歌いができる。DP② ・ 音楽表現力・技術力を向上する。DP②、③ ・ 幼児歌曲や器楽演奏の指導計画を立て、実践の場で活かすことができる。DP①、②、③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
領域「表現」のねらい及び内容と音楽的な保育実践との関連、ならびに保育の基本的な見方・考え方にふさわしい指導と評価の方法を学ぶ。そして音楽的な保育実践を通して領域「表現」のねらい及び内容が達成されていくための指導者に必要な音楽的な知識や技能の確立を目指す。「幼児音楽Ⅰ」で学んだ内容を基に、多様な音楽活動にも対応出来る、より実践的な音楽的表現力を身につけ、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを念頭においた、子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む指導力と保育を構想する力を身につけることを目指す。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。 想定必要時間は2時間程度となる。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業に対する取り組みを評価する。 ・ 毎回の授業テーマに関する演習内容についての習熟度・達成度を評価する（評価の75%） ・ 弾き歌いによる模擬保育の演習内容についての達成度を評価する（評価の25%）					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「コード伴奏による幼児歌曲100曲集」 秋山 徹 編 カワイ出版（2015年）2,970円（税込）					
【参考文献】 「こどものうた200」小林美実 チャイルド本社（1975年）1,980円（税込） 「続こどものうた200」小林美実 チャイルド本社（1996年）1,980円（税込） 他、授業中に適宜資料を配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
1・休まず受講することが基本である。 2・「教育実習Ⅱ」を履修する学生は、「幼児音楽Ⅱ」を履修しなければならない。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）
2	幼児歌曲弾き歌い演習（1） 模擬保育
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（1）（春の季節・行事の歌、検定レベル11の歌、手遊び歌・わらべ歌）
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（2）（春の季節・行事の歌、検定レベル12の歌、手遊び歌・わらべ歌）
5	幼児器楽演習（1） 指導計画の作成
6	実習直前音楽指導（1） 指導計画の作成と模擬保育
7	実習直前音楽指導（2） 模擬保育と振り返り
8	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（3）（春の季節・行事の歌、検定レベル13の歌、手遊び歌・わらべ歌）
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（4）（夏の季節・行事の歌、検定レベル14の歌、手遊び歌・わらべ歌）
10	歌唱個人指導（1） 指導の実際を想定し留意点を考える
11	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（5）（夏の季節・行事の歌、検定レベル15の歌、手遊び歌・わらべ歌）
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（6）（夏の季節・行事の歌、検定レベル16の歌、手遊び歌・わらべ歌）
13	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ（1） 模擬保育 グループA
14	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ（2） 模擬保育 グループB
15	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	幼児歌曲弾き歌い演習 (2) 模擬保育
2	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (7) (秋の季節・行事の歌、検定レベル17の歌、手遊び歌・わらべ歌)
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (8) (秋の季節・行事の歌、検定レベル18の歌、手遊び歌・わらべ歌)
4	歌唱個人指導 (2) 指導の実際を想定し留意点を考える
5	幼児器楽演習 (2) 指導計画の作成
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (9) (秋の季節・行事の歌、検定レベル19の歌、手遊び歌・わらべ歌)
7	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (10) (冬の季節・行事の歌、検定レベル20の歌、手遊び歌・わらべ歌)
8	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (11) (冬の季節・行事の歌、検定レベル21の歌、手遊び歌・わらべ歌)
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習 (12) (冬の季節・行事の歌、検定レベル22の歌、手遊び歌・わらべ歌)
10	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ (1) 模擬保育 グループA
11	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ (2) 模擬保育 グループB
12	幼児音楽後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
13	幼児音楽Ⅱ演習曲復習 (1) 模擬保育 グループA
14	幼児音楽Ⅱ演習曲復習 (2) 模擬保育 グループB
15	「幼児音楽Ⅱ」総括

科目名	子ども家庭支援の心理学	授業コード	YK4729**	科目コード	YK4729
担当教員	坪井 葉子・岡本 かおり				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 生涯発達、家族関係の発達における発達課題と子どもの精神保健とその課題を理解する</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯発達の観点から各発達段階における発達課題を説明できる (乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期・中年期、高齢期) DP①, ② 家族・家庭・親の機能と育ちについて理解している DP② 子育て家庭の現状と課題を理解している DP④ 子どもの生育環境、心の健康の課題について、保育者としての対応を考えることができる DP④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
生涯発達、家族・家庭・親子、精神保健の観点から、各発達段階や発達の变化の課題を学ぶ。乳幼児の発達と影響し合う生涯発達の過程や家族・家庭・親の発達の变化、精神保健的な課題を知ることで、保育の対象である乳幼児に対する理解を深め、家庭に対する援助の重要性についても理解を深めていく。現代的な課題について知見を深めるためには積極的にICT機器を活用し能動的に学習を進めていく。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習する。（必要想定時間は60分程度） 生涯発達や家庭・家族の問題、精神保健に関する問題について報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。 授業内容について、次の回のテキスト該当箇所を読んで予習をしておく。（必要想定時間は60分程度） 					
4. 成績評価の方法及び基準					
定期試験50%、授業内での提出課題50%（詳細については、第一回授業時に示す。）					
定期試験は、授業の内容の全般についての理解度を評価する。 授業内での提出課題は、授業毎の内容の理解および内容の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「新 基本保育シリーズ9『子ども家庭支援の心理学』」 児童育成協会 監修 白川佳子、福丸由佳 編 中央法規出版（2019年）2,200円（税込）※電子テキスト</p> <p>【参考文献】 「家族の心理― 変わる家族の新しいかたち」小田切紀子他著 金剛出版（2017年）2,860円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
他の心理学科目や家庭支援、子育て支援を学ぶ科目との関連を考えながら受講すること。					

授業計画	
	【後期】
1	乳児期の発達
2	幼児期の発達
3	学童期の発達
4	青年期の発達
5	成人期・中年期の発達
6	高齢期の発達
7	家族・家庭の意義と機能
8	家族関係・親子関係の理解
9	子育ての経験と親としての育ち
10	子育てを取り巻く社会的状況
11	ライフコースと仕事・子育て
12	多様な家庭とその理解
13	特別な配慮を要する家庭
14	子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの心の健康にかかわる問題 まとめと復習

科目名	子どもの健康と安全	授業コード	YE4731**	科目コード	YE4731
担当教員	飯村 愛				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 「子どもの保健」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康を守り高めるために必要な援助の方法や事故防止、安全管理について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ・保育における保健的対応について安全面や衛生面に配慮した準備や方法（衣服の着脱、排泄の援助、身体計測、感染症対策など）、保健的な技術を身につけ実践できる。DP②、④ ・応急処置と救急時の対応方法を学び、乳幼児の心肺蘇生法を習得する。DP②、④ ・子どもの健康観察とバイタルサインの測定方法がわかり、実践できる。DP②、④ ・子どもの健康および安全の管理の実施体制（職員間の連携・協働と組織的取り組み及び家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携）について具体的に説明できる。DP⑤</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>保育者として身に着ける知識及び技術について、実践的演習で授業を展開する。 乳幼児の健康と安全に関する知識を得て、保育者は具体的にどのような支援を行えばよいのか、国のガイドライン等を読み、事例を調べ、考える。 子どもが自らの健康や安全について考えて行動できるようになるために、そしてそのための保護者への働きかけについても考える。 技術については、テキストとデモンストレーションで基本的な理論と手順やポイントを学んだ後、人形や器具・用具を用いながら、実際の場面を想定して練習する。 教材については、PC等を用いて参考資料などを共有し、調べ学習等で活用する。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 幼稚園教諭および看護師としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状、保育士資格および看護師免許もつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<ul style="list-style-type: none"> 授業内容については、毎回、テキストの該当箇所をよく読んで予習・復習を行い、PC等を使用した宿題に取り組む。 （想定必要時間は予習・復習30分、宿題60分程度） PC等を使用し、保健に関する各種ガイドラインなどを検索し、自らも情報収集して様々な方法や考え方を知る。 					
4. 成績評価の方法及び基準					
レポート50%、授業への参加状況20%、演習でのチェックによる評価30%					
<ul style="list-style-type: none"> レポートについては、その内容の充実度や演習内容の視点と絡めて的確にまとめ、深く考察しているかを評価する。詳細については、授業内で説明する。 授業への参加状況は、個人の演習への取り組み姿勢やグループワークにおける貢献度について評価する。 演習でのチェックについては、知識と技術習得の個人の理解度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」改訂二版 鈴木美枝子編著 創成社（2024年）2,750円（税込）</p> <p>【参考文献】（*PC等使用しダウンロード資料） これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの保健」改訂版 鈴木美枝子編著 創成社（2024年）2,640円（税込） *「2018年度改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年度改訂版、厚生労働省） *「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版、厚生労働省） *「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省） 他、授業時に紹介する</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの保健」での学習内容をよく復習しておくこと グループワークでは主体的、積極的に動くこと 2/3以上の出席がない場合は単位取得は認められない <p><準備> ・授業開始前後に手洗いを ・その他、各回に必要な物を準備する（詳細は授業時に説明する）</p>					

授業計画	
	【後期】
1	〈演習〉子どもの健康と保育の環境、手洗いと衛生管理 (保育における保健的観点を踏まえた保育の環境や衛生管理について理解する)
2	〈演習〉子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 (子どもの健康増進、心身の発達を促す個別対応と集団全体の健康について考える。抱っこ、内科健診の援助、歯科検診の援助の方法を習得する)
3	子どもの健康観察と体調不良等に対する適切な対応 バイタルサインと健康観察 (子どものバイタルサインの測定方法、健康観察のポイント、体調不良等に対する適切な対応を習得する)
4	〈演習〉子どもの身体計測 (体重、身長、頭囲、胸囲など身体発育の測定の仕方を習得する)
5	〈演習〉事故防止及び安全対策危機管理と災害への備え (ガイドラインや最新のデータに基づき、事故防止や危機管理と災害への備えについて考える)
6	〈演習〉感染症予防 おむつ交換と衣服の着脱 (適切な衛生管理に配慮した方法を習得する)
7	〈演習〉感染症の集団発生の予防、発生時と罹患後の対応 玩具や設備の消毒、嘔吐物処理 (ガイドラインを踏まえ保育における感染症対策について理解し、その方法を習得する)
8	傷害が発生した場合の対応、応急処置と包帯法 (傷害時の応急処置と包帯法を具体的に学び、その方法を習得する)
9	〈演習〉乳幼児の心肺蘇生法 AED、気道異物除去法 (救急時の対応や乳幼児の心肺蘇生法を習得する)
10	〈演習〉アレルギー性疾患への対応 エピペン使用方法 (アナフィラキシーショックの対応を習得する)
11	慢性疾患や障害など個別的な配慮を要する子どもへの対応 (慢性疾患や障害を持つ子どもの保育や援助方法、対応を理解する)
12	保育における保健的対応 (保育活動における保健的視点と適切な対応を具体的に学ぶ)
13	健康及び安全の実施体制、保健活動と健康教育 (子どもを中心とした家庭、専門機関・地域との連携を理解し、保健活動や健康教育に関する活動を考える)
14	〈演習〉技術の確認 (これまでの演習で学んだ技術の習得を再確認し、正しい技術を身につける)
15	まとめ (これまで学んだ子どもの健康と安全に関する保育者の知識と技術について、全体のまとめ)

科目名	幼児教育の方法と技術	授業コード	YE4772**	科目コード	YE4772
担当教員	<前期>佐野 政基・山下 潤子 <後期>クリス チャベス・山田 宏平・山下 順子				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<前期> 【主題】 子どもの健やかな成長に大きく寄与する児童文化財のうち、与え手にとって演劇的要素の必要な人形劇、パネルシアター、絵本・紙芝居などを体験しながら、基礎的技術の習得を目指す。					
【到達目標】 ・様々な児童文化財の知識を身に付け、それぞれの特色を理解する。DP③、④ ・児童文化財に関する技術を習得し、実践できる。DP③、④ ・児童文化財を通し、保育者としての感性や表現力を豊かにする。DP③、④					
<後期> 【主題】 保育に携わる者自身が豊かな表現力をもって魅力ある文化の与え手となることを目指す。					
【到達目標】 ・保育者にふさわしい基本的な表現技術を身につける。DP② ・個々の表現力の可能性を探る。DP③ ・他者の表現に対する理解を深める。DP③、④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<前期> 演習中心の授業。実際に幼児の前で演じることを想定しながら、人形劇やパネルシアター、紙芝居などを演じ、体験することで、知識や技術を身に付けていく。 基本的には対面での授業になるが、教材についての資料や参考動画などは適宜配信を行う。					
<後期> 表現の基礎として、ダンスや演技を自らの身体で体験し、身に付ける。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<前期> 授業で演習したものは自分のものとして実践の場で活かすことができるよう、何度も繰り返し行う。必要想定時間は1時間である。また、日常的に、幼児のための歌・絵本・童話などを積極的に触れ、表現活動の幅を広げる努力する。必要想定時間は1時間である。					
<後期> ダンス振りつけなどの授業内発表のための課題をだすので、準備してくる。必要想定時間は1時間である。					
4. 成績評価の方法及び基準					
ペーパーテストは実施しない。 授業態度、熱意、発表内容等で評価する。 授業への参加姿勢（評価の70%） 発表の内容など（評価の30%）					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<前期> 【テキスト】 「保育実践に生きる「言語表現」児童文化財活用のエッセンス」馬見塚昭久著 萌文書林（2020年）2,200円（税込） その他必要なものは教員が作成し、配付する。					
【参考文献】 「紙芝居一演じ方のコツと基礎理論のテキスト」子どもの文化研究所編 一声社（2015年）2,200円（税込） 「実習に役立つ パネルシアターハンドブック」古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子・著 萌文社（2009年）1,650円（税込） 「紙とえんぴつでおはなし（紙さえあればいつでも・どこでも楽しめる3）」藤田ひろ子著 一声社（2018年）1,320円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
演劇的な表現の苦手な学生も、将来は幼児の表現力を高める指導の担い手となるのだから、自らがより優れた表現者であろうとする熱意を持って授業を受けること。					
<前期> 第1回授業は、クラスごとにガイダンスを行う。指定された教室に集合すること。 第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。					
<後期> 第1回授業は、ダンスと演技合同でガイダンスを行う。指定された教室に集合すること。 第8回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。 ダンス受講時は、必ず動きやすい服装（トレーニングウェアやTシャツ、スウェットなど）に着替えて集合すること。 ジーンズでの受講は不可。靴は室内用スニーカーやダンスシューズ着用のこと。					
※前期・後期ともに途中で担当教員の交替をする。 ※詳細な日程はガイダンス（第1回授業）で説明をする。					

授業計画	
	【前期】 できるかぎり多くの様々な『児童文化財』を体験し、身につける。途中、教室の変更があるので注意すること。
1	【山下・佐野】ガイダンス～授業の内容と進め方について
2	【山下】表現ワーク ペープサートの特性と制作 【佐野】絵本の特性と読み聞かせについて
3	【山下】ペープサートの操作と演技 身近な材料で人形制作 【佐野】紙芝居の特性と演じ方について
4	【山下】くつしたで人形を作る 【佐野】仕掛けカードの制作
5	【山下】くつした人形の仕上げと操作 【佐野】パネルシアターの特性と制作
6	【山下】いろいろな手遊び お楽しみ会のプログラム作り 【佐野】パネルシアターの演じ方について
7	【山下】発表①手遊びと人形を組み合わせた幼児向けプログラム 【佐野】パネルシアター練習（参加型を意識して）
8	【山下】発表②とまとめ 【佐野】パネルシアター発表 ※ 次週から教室を変更する
9	※ 教室が変更になるので間違えないこと 【佐野】絵本の特性と読み聞かせについて 【山下】表現ワーク ペープサートの特性と制作
10	【佐野】紙芝居の特性と演じ方について 【山下】ペープサートの操作と演技 身近な材料で人形制作
11	【佐野】仕掛けカードの制作 【山下】くつしたで人形を作る
12	【佐野】パネルシアターの特性と制作 【山下】くつした人形の仕上げと操作
13	【佐野】パネルシアターの演じ方について 【山下】いろいろな手遊び お楽しみ会のプログラム作り
14	【佐野】パネルシアター練習（参加型を意識して） 【山下】発表①手遊びと人形を組み合わせた幼児向けプログラム
15	【佐野】パネルシアター発表 【山下】発表②とまとめ

授業計画	
	【後期】 演技とダンス両方の基礎を身につける。演技（山田、山下担当）とダンス（クリス担当）を初回ガイダンスを除く7回ずつで交代。
1	【クリス・山田・山下】各クラスで後期のガイダンス 授業の進め方と内容
2	【山田または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
3	【山田または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
4	【山田または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
5	【山田または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
6	【山田または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
7	【山田または山下】グループごとの発表 ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
8	【山田または山下】演技に関するまとめと復習 【クリス】ダンスのまとめと復習 ※ 次週から教室を変更する
9	【山田または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
10	【山田または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
11	【山田または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
12	【山田または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
13	【山田または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
14	【山田または山下】グループごとの発表 ※内容は変更の可能性あり 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
15	【山田または山下】演技関連および後期授業のまとめ 【クリス】ダンス関連および後期授業のまとめ

科目名	特別支援と保育Ⅱ	授業コード	YE4786**	科目コード	YE4786
担当教員	下尾 直子・伊藤 路香・篠沢 薫				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 「特別支援と保育Ⅰ」で学んださまざまな障害の特性や対応方法に関する基礎知識をもとに、保育者に求められている具体的な指導や支援の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもや生育環境上支援の必要な子どもの特性と発達を適切に評価できる。DP② ・教材・環境の工夫をするなど、発達の見通しをもった適切な援助ができる。DP②、④ ・保護者や家族に対する支援の必要性を説明できる。DP①、④ ・児童発達支援における地域連携の意義を説明できる。DP①、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>まず支援の実際に必要な基礎知識として「特別支援と保育Ⅰ」で学んだ障害特性に関する知識や、他科目で学んだ子どもの発達段階や発達課題に関する知識を確認する。次に、子どもの理解と一人ひとりに合った適切な支援の見通しを持つために、個別の計画・記録・評価、教材・環境への配慮、集団生活への配慮について学ぶ。</p> <p>さらに職員間の連携、保護者や家族への支援の意義と方法を学ぶ。また地域の関連機関について知り、適切な連携の方法を学ぶ。保育職に求められている実践力、対応力を身につけるために、実際の保育現場の映像事例なども活用し、様々な事例について、グループでディスカッションを行い、実際の保育における支援のイメージを持ち、具体的な援助方法や教材研究を行うなど、実践的な経験を積み重ねる。</p> <p>※具体的な教材（授業レジュメ、参考資料、動画リンク等）を共有し、必要に応じて課題提出、予習や復習、調べ学習等活用する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 毎日1日15分以上はテレビやインターネットなどのニュースに触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。想定必要時間数(15分×7日間×15週)は27時間である。</p> <p>【復習】 毎回の授業後に、テキストの該当箇所や資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。想定必要時間数(15分×15回)は3時間45分である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>【レポート50%、提出物の提出状況や内容25%、授業への参加状況25%】 レポート課題は1～3回に分割して課す。レポート課題に取り組む時期は、各担当の教員の指示に従うこと。また、授業内容の理解や授業を受けての感想等をweb上で示すフォームやコメントシート等を使って提出する。レポート課題や提出物は、期限を守って提出すると共に内容の充実度を評価する。授業への参加状況は、授業内で行われるグループワーク等への参加態度や積極性、発言内容を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「特別支援と保育Ⅰ」で使用したテキストを使用する。 「学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども〔第2版〕」 野田 敦史・林 恵 編 みらい（2024年）2,860円（税込）</p> <p>【参考文献】 「自閉症の僕の七転び八起き」 東田直樹 著 KADOKAWA（2015年）660円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>「特別支援と保育Ⅰ」の学習内容を、よく復習しておくこと。 授業や課題には積極的な姿勢で取り組むこと。 授業内で配布される資料や配信される電子資料等は整理しておくこと。 他教科や実習との関連を捉えながら授業に参加すること。 授業で必須の課題が示された場合は、授業の出欠席に関わらず、提出すること。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	1年次「特別支援と保育Ⅰ」の復習 ＜「障害」の捉え方、障害の特性＞
2	特別な支援を必要とする子どもの保育 ＜3法令の記述／統合保育とは（その魅力と課題）＞
3	インクルーシブ保育① 障害のある子どもと共に過ごす生活と遊び
4	インクルーシブ保育② 共に育つ子どもたち
5	インクルーシブ保育③ 保育の現場からみた困難
6	個別の指導計画及び個別の教育支援計画① 作成の意義
7	個別の指導計画及び個別の教育支援計画② 作成の方法 ＜子どもの現状把握／目標／手立ての考え方＞
8	発達評価の実際 ＜「気になる子」の発見と様々な検査、評価することの意味、様々な評価の観点＞
9	児童発達支援センターの実際① ＜統合保育との差異、他専門職との連携、クラスのプログラム作成など＞
10	児童発達支援センターの実際② ＜個別の指導計画に沿ったプログラム＞
11	児童発達支援センターの実際③ ＜「問題行動」への対応と指導＞
12	障害のある子どもの保護者や家族への支援
13	様々な連携の重要性 ＜地域とのつながり、他専門職とのつながり、就学へ向けての連携＞
14	障害のある子どもの育ち 先の人生を見通す支援
15	14 回までの講義全体を通じた知識や概念の理解、実践への応用

科目名	社会福祉	授業コード	YK4795**	科目コード	YK4795
担当教員	下尾 直子・西岡 弥生				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 現代社会の課題を知り、社会福祉の基礎知識を身につけることを主題とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について学び、自分の言葉で説明ができる。DP①、⑥ ・社会福祉の制度や実施体系等について概略を説明できる。DP② ・国内外の社会福祉の動向と課題について理解し、考察することができる。DP②、⑥ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>専門職として、保育者が備えるべき社会福祉の基礎知識について講義を行うとともに、具体的事例をイメージし、身近な社会福祉の課題について自分で考える力を向上できるように、グループワークやディスカッション等を取り入れて学習を進める。新聞記事などの報道資料、映像や写真を使った具体的事例の紹介などにより、現代社会における社会福祉の幅広い対象を理解し、専門職としての保育者となる基礎を築く。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 日頃から社会で起きていることに関心を寄せ、考察を深めておくこと。新聞記事などの資料を読む、報道されたニュースについてまとめるなどの学習に取り組むこと。</p> <p>【復習】 毎回の授業後には、テキストの該当箇所やプリント等を読み直し、授業で扱った専門用語等について繰り返し復習し、正確に記憶できるよう努めること。</p> <p>予習・復習は、各1時間程度になると想定される。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>定期試験による内容の理解度（評価の50%） 授業への参加姿勢・積極性、グループディスカッションへの貢献度（評価の25%） リアクションペーパーの内容充実度（評価の25%）</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「保育と社会福祉 [第4版]」橋本好一・宮田徹 編著 みらい（2024年3月）2,112円（税込）※電子テキスト</p> <p>【参考文献】 「社会福祉小六法2023 [令和5年版]」ミネルヴァ書房編集部 編 ミネルヴァ書房（2023年4月）1,980円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。 ・講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、教科書とともに毎回持参すること。授業内容の筆記を必ず行うこと。 ・PC等を毎回持参し、配信資料を授業時および予習復習時に活用すること。 ・自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行うことを期待する。 ・授業内で回収した課題については、随時授業内で返却、振り返りを行う。 					

授業計画	
	【前期】
1	社会福祉の理念と概念
2	少子高齢化社会における子育て支援
3	社会福祉の歴史の変遷
4	社会福祉制度と実施体系（法体系・制度・行財政・実施機関）
5	諸外国の社会保障制度の動向
6	社会保障及び関連制度 1（社会保険制度）
7	社会保障及び関連制度 2（貧困と生活保護制度）
8	共生社会の実現のための社会モデル
9	共生社会実現と障害者施策
10	超高齢社会における在宅福祉
11	地域福祉の意義と実際
12	社会福祉における相談援助
13	社会福祉施設と専門職（相談援助の過程における連携）
14	社会福祉における利用者保護の仕組み
15	子ども家庭支援と社会福祉

科目名	合唱	授業コード	YE4916**	科目コード	YE4916
担当教員	藤原 規生 <伴奏>柴田 美奈・佐藤 全子				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 人が集い、ともに声をあわせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験することで、将来の幼児教育の実践の場において不可欠な歌の力・音楽の力を実践しながら考察を深めることを主題とし、以下を目標とする。</p> <p>【到達目標】 ・音楽の基礎を確認し、豊かな合唱表現に活かすことができる。DP③ ・クラスで協力して合唱曲の練習に積極的に取り組み、人と人の繋がりの重要性や自分の役割について意識できる。DP①、⑤ ・公演の場で「第九」の合唱を行い、声を合わせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験する。DP③</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>前期は、発声法やソルフェージュなどの歌唱の基本を確認しながら、クラス単位で課題曲に取り組む。 後期は、総合的な演習として、一人一人の力を高めるとともに、合唱の本質的な魅力を味わいながら、年末の「第九」公演のための練習を重ねる。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 音楽大学・高等学校（音楽科）の講師としての実務経験があり、また、合唱指揮者として「第九」を始め、国内外での多数の公演の合唱指揮を務めた教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>合唱は繰り返しの反復学習が大変効果をあげるため、前回の授業で学習した箇所を次の授業までには個人練習を行うなど、必ず予習をすること。子どもの環境に溢れる音楽のあり方についても常に思考をめぐらして探求し、実践の場に役立てられるようにすること。想定時間は90分である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業への参加態度（60％）、演奏会への各リハーサルを含む参加姿勢（40％）</p> <p>授業への参加態度とは、1回1回の授業に対する取り組みそのものに加え、クラス合唱、全体合唱における貢献度を評価する。 参加姿勢とは、毎回、楽譜（教材）をきちんと持参し、楽しみながらも準備や工夫をしているかという観点について評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「実用版 ベートーヴェン 交響曲 第9番 第4楽章」ベートーヴェン 作曲／青島広志 ピアノ伴奏編曲 学研プラス（2020年第1刷）1,320円（税込） 「女声合唱曲集 クラス用「Fairy Chorus（フェアリーコーラス）」教育芸術社（2012年第1刷）1,100円（税込） 「JCDA合唱セレクション①「願い」」小原孝作詞 樹原涼子作曲 日本合唱指揮者協会（2006年第1刷）350円（税込）</p> <p>幼児教育の現場で使用出来そうな実践的教材を副教材として、その都度配布または、購入を指示する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>合唱を通して一つのものを作り上げることの楽しさ、難しさ、尊さを体感する為にも、授業中のマナー、学ぶものとしての姿勢を問い続ける。</p> <p>配布プリントや学習内容を記録したものをファイル、もしくは一冊のノートにまとめること。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	合唱についてと通年授業の展開説明をガイダンスし、簡単な合唱曲を歌いつつパート分けを行い、呼吸・姿勢・基本的発声法を学ぶ。1年間で使用する楽曲についても少しずつ歌いながら、楽しみを共有する。
2	歌うことの楽しさを自らも体験するためにも、ハンド・サイン、カノン、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・音量を意識させ、パート分けを確定させる。洗足学園校歌、翼をください、春らしく爽やかな歌を高らかに歌い、美しい声が広がることを実感し共に歌うことの喜びを感じ合う。
3	ウォーミングアップ、呼吸法、姿勢、楽譜の持ち方、目線。歌う上での大切な要素を常に気を付けることの大切さを学ぶ。また大勢の中での一人一人の役割、パートとしての役割を実践的な合唱曲で深める。ハーモニーの喜びを感じる。また、曲に登場する手拍子やヴォカリーズの演奏効果も大いに楽しみながら学習する。
4	ホールで歌うこと、その美しい響きを感じ、強弱やフレーズへの意識を高める。校歌、第九を重点に置きながらも、使用教材の曲集から取り上げ、積極的に歌うことの喜びを感じさせる。 また、クラス合唱についての考察、選曲などの意識を高め深める。
5	使用教材集の中から馴染み深い素晴らしい楽曲を取り上げ、レパートリーを広げていく楽しみを味わう。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。(4楽章 合唱部分冒頭) ドイツ語の歌詞を発話し、その言葉の力を感じ取る。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
6	使用教材を大いに活用し、曲集に含まれる様々な曲を歌える喜びを感じ合う。指揮やピアニストなど学生の主体的で積極的な参加を促し、ホールの素晴らしいステージでの小アンサンブル、重唱など歌唱の可能性を探る。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。(練習番号M) クラス合唱の取り組みについても、各クラスで練習する時間を設ける。指揮者や伴奏者、選曲。
7	仲間と共に歌えること、毎週繰り返し歌うことで、歌い込んでいくことの素晴らしさを感じ合う。 第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、声を出すことの喜びとともに実感し合う練習を深める。 12月の第九コンサート本番、そのための特別練習についても共有をする。 クラス合唱練習時間を設け、自分たちで音楽する上での工夫を主体的に感じる。
8	毎週の練習の積み重ねが、一人一人の努力の積み重ねが如何に素晴らしいか、歌うことを通して感じ合う。一方で美しいサウンドを構築することの音楽的レベルアップも目指す。 「第九」その名曲に取り組むことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。ドイツ語での発音練習は繰り返し学習することで効果を上げる。 各クラスで選曲した合唱曲を通して、より豊かなサウンドを生き生きと求める。
9	授業クラスでのレパートリー、各クラスでのレパートリーを広げるために使用教材集の中から積極的に選曲をして、それぞれの曲の魅力を感じ、合唱することの喜び、自ら声を出し表現することの喜びを体得する。 第九は12月の演奏会に向けての意識を高めていく。パート練習も取り入れて、難しい⇒やれば出来る、を少しずつでも実感することを目標とする。
10	全体でのウォーミングアップ、発声練習、高らかに歌える曲の練習などなど、学生が主体的にリーダーとし組み立て、実践する。クラス合唱を通して、ハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。各クラスの練習でより良い練習法なども協力して模索していく。
11	第九の前半部分の積極的な歌い込みをし、ハーモニーの広がりを感じ取る。クラス合唱の充実した練習を重ね、より歌うことの喜びを味わう。
12	クラス合唱でのハーモニー作り・より適した発声法を探求し、よりよい音作りを目指す。また指導法・指揮法・伴奏法なども研究しクラス合唱の中での役割を指揮者、ピアニスト、合唱メンバーそれぞれの立場で深める。 第九の練習した部分を復習し歌いこみをしていく。
13	美しい声、心地よいハーモニーを作る上で、歌う姿勢、歌うための心構え、をより理解し、ステップアップする。第九練習、クラス合唱練習を深める。
14	翌週の発表に備え、効果的なりハーサルを主体的に構築し、並びの確認や演奏力UPを目指す。
15	前期のまとめ 各クラス合唱発表、各クラスの演奏を讃え合い、感想をまとめる。

授業計画	
	【後期】
1	12月の「第九」に向けて、前期の総復習。後期に向けての指針を各自認識する。練習スケジュール、体調管理の大切さ、全員で創り上げることの意義を深く意識する。「第九」歌詞の発語、ディクション練習を重ねる。
2	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』 p37：2つのテーマが折り重なる壮大なドッペルファーガ重点的に。
3	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Rを中心に、音色の変化、パートの受け渡しを意識する練習を行う。
4	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Sを中心に。特にテンポが変わる部分を重点的に。1小節ごとのクレッシェンド、音楽的な高みを享受する。
5	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。 後期になりここまで練習、学習してきたところを連結し、曲の構成力を体感し演奏表現を磨く。
6	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』 p55：Prestissimoから エンディング、クライマックスの魅力を味わう。
7	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、構成を考え高らかに歌い合うことの意義を深める。 発声、立ち方、呼吸法、目線、参加意識。自己研鑽を重ね演奏することの尊さを感じ合う。
8	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して繰り返し歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、人前で演奏する責任感と喜びを深める。 歌いこむことの重要性を学び、コンサートを意識して音楽性豊かに歌えるために繰り返し学習する。
9	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。また、演奏会を共に作り上げる存在であるという仲間への感謝を深める。
10	「第九」を中心にした総合演習 前期から高め合ってきた歌の力がハーモニー（調和）への魅力であることを意識し、今一度、基礎を正しく反復練習していく。リズム、発声、ドイツ語の発音、更なる高みを目指していく。
11	「第九」を中心にした総合演習 楽曲を全体を通して感じ、構成力、表現力を一層磨く。 そして、お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義を再認識仕上げとしていく。そのことが一人一人の達成感を一層高めていく。
12	「第九」この名曲を演奏することの尊い意味を感じ取り、豊かな壮大な音楽を探求する。立体的なりハーサルを経験することで、作品の素晴らしさを体感する。
13	「第九」暗譜演習及び本番に向けた総合演習 共演者：ソリスト・演奏者との合わせ
14	「第九」本番 2025年12月2日(火) 前田ホール
15	年間の総まとめ

科目名	演技実習	授業コード	YE4924**	科目コード	YE4924
担当教員	山下 順子・武田 直之				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 演技実習は、授業成果発表の場であるミュージカル公演に向け、演者としてダンス・歌の特化を目的とした授業である。					
【到達目標】 ・ミュージカル公演を成功に導くためには、キャスト全員が一つになり作品を作りあげていかなければならない。まずは、仲間とのコミュニケーション能力の向上を第一義とする。DP⑤、⑥ ・キャストは歌い、踊り、演じる表現者として、観客に喜び悲しみを丁寧に伝えなくてはならない。この授業によって学生一人ひとりの能力は確実にレベルアップする。DP③、⑥ ・限られた時間の中で、それぞれがアイデアを出し合い、創意工夫しながら最善の方法を考える力を養うことができる。DP③、⑥ ・ミュージカルを通じて創造性、協調性、独自性を持った人材の育成を目標とする。DP③、⑤、⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
授業計画に沿って、実習を行う。 前半8回はダンス、後半7回は歌の実習を行う。 なお、公演日は8月11日(月)、会場は洗足学園前田ホールを予定している。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
毎回課題（音とり、暗譜、ダンス振り付け）を与える。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業への参加姿勢（評価の70%） 歌やダンスの内容（評価の30%）					
授業への参加姿勢では、集団表現への各授業回の意欲と貢献度を評価する。 歌やダンスの内容は、個々の課題への取り組みの成果を毎回の授業で発表確認し、評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
その都度配付する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
木曜5限の「ミュージカル（前）」を履修すること。 動きやすい服装を着用すること。 他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。					

授業計画	
	【前期】
1	(ダンス) ガイドダンス ストレッチ 「Hail Holy Queen」前半部分の振り付け 難易度の高い部分の練習
2	(ダンス) ストレッチ 「Hail Holy Queen」後半部分の振り付け 難易度の高い部分の復習、及び前後半の全体練習
3	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」前半部分の振り付け 難易度の高い部分の練習
4	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」後半部分の振り付け 難易度の高い部分の復習、及び前後半の全体練習
5	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」の復習 「Ball of Confusion」前半部分の振り付け
6	(ダンス) ストレッチ 「Joyful Joyful」の復習 「Ball of confusion」後半部分の振り付け、及び前後半の全体練習
7	(ダンス) ストレッチ 「Ball of Confusion」の復習 「The Greatest Melody Ever Told」の振り付け 難易度の高い部分の練習
8	(ダンス) 「Hail Holy Queen」「Joyful Joyful」「Ball of Confusion」 「The Greatest Melody Ever Told」の復習・まとめ
9	(歌) ストレッチ・発声練習 ソプラノ・メゾソプラノ・アルト各声部のパート決定 「祈りの歌」音とり、及び音楽稽古
10	(歌) ストレッチ・発声練習 「祈りの歌」復習 「The Greatest Melody Ever Told」音とり、及び音楽稽古
11	(歌) ストレッチ・発声練習 「The Greatest Melody Ever Told」復習 「Hail Holy Queen」「Ball of Confusion」音とり、及び音楽稽古
12	(歌) ストレッチ・発声練習 「Hail Holy Queen」「Ball of Confusion」復習 「Oh Happy Day」音とり、及び音楽稽古
13	(歌) ストレッチ・発声練習 「Oh Happy Day」復習 「His Eyes on the Sparrow」「Ode to Joy」音とり、音楽稽古
14	(歌) ストレッチ・発声練習 「His Eyes on the Sparrow」「Ode to Joy」復習 「Joyful Joyful」音とり、及び音楽稽古
15	(歌) ストレッチ・発声練習 「祈りの歌」「The Greatest Melody Ever Told」「Hail Holy Queen」 「Ball of Confusion」「Oh Happy Day」「His Eyes on the Sparrow」 「Ode to Joy」「Joyful Joyful」の復習・まとめ

科目名	社会的養護Ⅰ	授業コード	YK5025**	科目コード	YK5025
担当教員	下尾 直子・伊藤 陽一				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 本授業は、社会的養護について体系的に学び、社会的養護における保育士の役割について理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を学び、現状と課題について自分の言葉で説明することができる。DP②、⑥ ・社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、関係する専門職について概略的に説明できる。DP②、④ ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本的理念を自分の言葉で説明できる。DP④、⑥ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業では、社会的養護に関する専門的な知識を深める講義を行うとともに、映像なども紹介して、家庭養護と施設養護に関する具体的な事例を全体で考察する。またグループワークによる情報収集、ディスカッション、ディベート等を行い、社会的養護における保育士の役割について深く考察する機会を設け、社会的養護への理解を促す。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 社会的養護の理解には現代社会の動向や法律制度の改正、政治問題等、様々な視点からの考察が必要である。日頃から関連領域の新聞記事、インターネットの記事などに関心をもち、考え、周囲の人とのディスカッションを深めること。</p> <p>【復習】 毎回の授業後に授業で扱った専門用語等については繰り返し復習し、正確に記憶すること。</p> <p>予習・復習はそれぞれ1時間程度になると想定される。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>3回提示するレポート課題の評価（評価の60％）：講義内容の視点をもって提示されたテーマを考察しているかを評価する 授業参加姿勢（評価の20％）：講義聴講時の受講姿勢、発言や質問などの反応を評価する リアクションペーパー（評価の20％）：提出を求められたリアクションペーパーの提出と内容の充実度を評価する</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅰ・Ⅱ」下尾直子・雨宮由紀枝編著 大学図書出版（2024年）2,750円（税込）</p> <p>【参考文献】 「児童養護施設で暮らすということ」檜原真也著 日本評論社（2021年）1,980円（税込） 「赤ちゃんポストの真実」森本修代著 小学館（2020年）1,650円（税込） 「ジソウのお仕事」青山さくら・川松亮著 フェミックス（2022年）1,980円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉・子ども家庭福祉の単位を修得していることが望ましい。 ・PC等を持参し、配信資料を授業時および予習復習時に活用すること。 ・講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。 ・履修者の積極的な授業参加を期待する。 ・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。 					

授業計画	
	【前期】
1	社会的養護を巡る社会的状況と社会的養護の制度・法体系
2	社会的養護の歴史の変遷と理念
3	社会的養護の仕組みと実施体系（その対象、形態、関わる専門職を含む）
4	社会的養護の原理1～家庭的養護と個別化～
5	社会的養護の原理2～発達保障と自立支援～
6	社会的養護の原理3～回復を目指した支援～
7	社会的養護の原理4～家族との連携・協働～
8	社会的養護の原理5～継続的支援と連携（リービングケアを中心に）～
9	社会的養護の原理6～継続的支援と連携（アフターケアを中心に）～
10	社会的養護の原理7～ライフサイクルを見通した支援～
11	施設養護の課題～施設等の運営管理と被措置児童の虐待防止～
12	家庭養護の実際と課題
13	社会的養護と地域福祉
14	社会的養護における現代的課題と保育士等の倫理、責務
15	子どもの人権擁護と社会的養護

科目名	子どもの食と栄養	授業コード	YE5032**	科目コード	YE5032
担当教員	伊藤 みどり・駒谷 恵理				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 乳幼児期の食生活は子どもの健康を左右するばかりでなく、生涯にわたる食習慣が決まる重要な時期である。この授業では、子どもたちにとってよりよい食生活を実現していくために、健康的な生活の基本としての栄養に関する基本的知識の習得と食育の理解を目指す。</p> <p>【到達目標】 ・栄養に関する基本的知識を身につける。DP①、② ・子どもの発育・発達にともなう食生活の内容と留意点を具体的に述べられる。DP①、② ・食育の基本と内容を理解する。DP② ・保育現場だけでなく地域社会においても食育を自ら実践できるようになる。DP①、⑥ ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について自分の考えを述べられる。DP②、⑥ ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養の特徴を理解し、対処できる。DP②</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>栄養学の基礎知識を身につけ、乳幼児期から思春期、妊娠期といったライフステージごとの栄養摂取と身体発達について学ぶ。さらに乳幼児期の栄養問題（偏食、食物アレルギー、生活習慣病等）を知り、家庭や児童福祉施設における食事への対応について理解を深める。また、子どもを取り巻く社会情勢や食生活の変化を理解し、すべての人々が生涯にわたって健やかに暮らしていくための食育の重要性を考え、保育のなかで子どもたちの「食を営む力」の基礎を培う食育の実践手法を探る。</p> <p>授業の内容についてはコメントシートを活用し、毎回の授業の理解を深めるとともに疑問を解消する。</p> <p>配布資料はGoogleクラスルームの中で共有し、ノートPC等を活用して必要に応じて参照したり書き込むことで確実に知識を自分のものにする。</p> <p>献立作成や食育活動について調べ、実践を試みる活動にもノートPC等を有効に活用する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
提出物は期限を守り、予習、復習時には教科書およびハンドアウトを熟読すること。予習および復習の想定必要時間は2時間となる。					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>定期試験60%、課題提出および授業への参加状況20%、小テストおよびコメントシートの提出状況20%で総合的に判断する。毎回の授業の理解度の確認のためにコメントシートを提出し、その内容を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験を実施し、授業の内容全般についての理解度を評価する。 ・授業への参加状況は、配布プリントへ授業内容の記入、個人やグループへ割り当てられた課題への取り組みを評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「保育の現場で役立つ 子どもの食と栄養」 小野友紀／島本和恵編著 アイ・ケイ・コーポレーション（2023年）2,640円（税込）※電子テキスト</p> <p>【参考文献】 「子どもの食と栄養演習書」第6版 小川雄二編著 建帛社（2022年）3,080円（税込） 授業中に適宜資料を配布する</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>食事や栄養に興味を持ち、積極的に授業に取り組むこと。 遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。 2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。 課題やコメントシートに対するフィードバック：次回授業でコメントを返す。</p>					

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス、子どもの健康と食生活の意義
2	栄養の基礎知識－消化と吸収－
3	栄養の基礎知識－栄養素の種類とはたらき（炭水化物、たんぱく質、脂質）－
4	栄養の基礎知識－栄養素の種類とはたらき（ビタミン、無機質、水分）－
5	食品と栄養素
6	日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド
7	献立作成、調理の基本
8	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活－乳汁栄養－
9	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活－離乳－
10	調乳および市販離乳食を用いた演習
11	幼児期・学童期の心身の発達と食生活
12	生涯発達と食生活
13	食育の基本と実践
14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 講義全体を通じた知識や概念の理解、実践への応用

科目名	乳児保育 I	授業コード	YK5055 **	科目コード	YK5055
担当教員	坪井 葉子・須永 真理				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 3歳未満児の保育の現状や課題を学び、3歳児未満児の発達や特性への理解を深めながら、保育士として必要な3歳未満児の保育の基本的知識や援助の考え方を身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 ・3歳未満児の保育の意義、目的、役割、現状と課題を説明できる。DP① ・3歳未満児の心身の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について説明できる。DP② ・3歳未満児の生活や遊びを保障する環境を構想できる。DP② ・3歳未満児の保育における計画・記録の意義について説明できる。DP② ・3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について知る。DP①、②</p>					
<p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>○ 1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している</p> <p>○ 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している</p> <p>3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている</p> <p>4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている</p> <p>5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる</p> <p>6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している</p>					
2. 授業概要					
<p>・3歳未満児の保育の歴史の変遷や現状と課題を学び、乳児保育の意義と目的について理解していく。 ・3歳未満児の発達を踏まえた保育士としての援助や配慮について、事例や映像を通して具体的に学ぶ。 ・3歳未満児の保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との連携について学ぶ。 ・PCなどの情報機器を活用し、動画等で実際の子どもの様子や遊びを調べ学習する。 また「保育所保育指針解説書」や「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書」を適宜参照する。</p> <p><実務経験のある教員による授業> 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状または保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>3歳未満児の発達に興味を持ち、日々の生活の場所で見かける子どもの行動や親の対応等を観察をする。 自分が住んでいる地域の3歳未満児の政策を理解し、それに基づく3歳未満児の保育の実情を調べる。 授業内で指示された内容について予習し、毎回保育所保育指針や教科書を用いて授業内容の復習を行う。 予習・復習は120分程度が想定される。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>学年末試験（評価の50%） 授業内での課題・レポート（評価の50%） 授業内での課題・レポートについてはその内容の充実度を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「よくわかる保育士エクササイズ5 乳児保育 演習ブック 第2版」松本峰雄監修 ミネルヴァ書房（2019年）2,750円（税込） 「0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」乳幼児の発達と保育研究会著 郁洋舎（2022年）2,420円（税込）</p> <p>「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領〈原本〉」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込）</p> <p>・2年次科目「乳児保育Ⅱ」でも上記テキストを継続使用の予定である。</p> <p>【参考文献】 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省 <電子資料>https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisaku-jouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省 <電子資料>https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaijsetsu.pdf 「動画で保育がわかる！はじめての0・1・2歳児」（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 著 ひかりのくに株式会社（2019年）1,320円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
2/3以上の出席がない場合は、学年末試験を受けることができない。					

授業計画	
	【後期】
1	乳児保育とは何か
2	「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念
3	乳児保育の歴史
4	乳幼児の心の発達理論と3歳未満児の発達の特徴
5	3歳未満児の発達過程と自我の芽生え
6	3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容
7	3歳未満児の保育における配慮事項
8	保育所・認定こども園における環境
9	保育所・認定こども園における生活活動
10	乳児院における3歳未満児の保育
11	家庭的保育事業等における3歳未満児の保育
12	子育て支援と3歳未満児の保育
13	保護者とのパートナーシップ
14	職員間・地域の関係機関との連携
15	3歳未満児の保育の現状と課題 「乳児保育Ⅰ」のまとめ

科目名	乳児保育Ⅰ	授業コード	YE5055**	科目コード	YE5055
担当教員	坪井 葉子・飯村 愛				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 3歳未満児の保育における保育士の役割を理解し、一人ひとりの発達や特性に合った援助や配慮を検討する実践力を養い、計画の作成ができることを目指す。					
【到達目標】 ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を説明できる。DP① ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の遊びや生活、保育の方法及び環境について構想できる。DP① ・3歳未満児の発達・特性を踏まえた具体的な援助や配慮の仕方について構想できる。DP①、② ・3歳未満児の保育における計画について理解し、計画を作成できる。DP①、②					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりを実践的にできるように、事例や映像、赤ちゃん人形などを活用し理解を深める。 ・3歳未満児の生活や遊びと保育の方法や環境について、具体的に検討する。 ・グループワークや発表活動を通して、3歳未満児の保育における配慮の実際、計画の作成、計画的な保育の展開についての様々な見方や考え方、実践の方法を知る。 ・3歳未満児の援助の具体的な方法については、演習を行ったり積極的に画像や動画資料にあたり、習得を目指す。 ・特に生活援助の技術についてPCなどの情報機器による動画視聴を活用し習得を目指す。 <p><実務経験のある教員による授業> 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状または保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
3歳未満児の発達の過程を理解し、一人ひとりの発達に合った遊びが配慮ができるように発達や遊びについて調べてきたり、実践できるように作成、練習してこることが必要となる。 授業内で指示された内容について予習し、毎回保育所保育指針や教科書を用いて授業内容の復習を行う。 予習・復習は120分程度が想定される。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業の理解度の確認のために、毎回の授業でリアクションペーパーを提出し、その内容の充実度を評価する。（評価の50%） 定期試験に代わる課題レポートを3回提出する。与えられた課題について授業での講義内容・演習内容の理解を踏まえて考察しているかを評価する。（評価の50%）					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「よくわかる保育士エクササイズ5 乳児保育 演習ブック 第2版」松本峰雄監修 ミネルヴァ書房（2019年）2,750円（税込） 「0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活」乳幼児の発達と保育研究会著 郁洋舎（2022年）2,420円（税込） 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） ・1年次「乳児保育Ⅰ」テキストを継続して使用する。					
【参考文献】 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
乳児保育Ⅰの単位を取得していること。 2/3以上の出席がない場合は単位取得は認められない。					

授業計画	
	【前期】
1	「乳児保育Ⅱ」で何を学ぶか（子どもの育ちと保育内容・指導の実際、乳児保育Ⅰの復習）
2	6か月未満の子どもの育ちと保育内容1（育ちの過程、乳汁栄養と授乳）
3	6か月未満の子どもの育ちと保育内容2（沐浴、睡眠、排泄、衣服、安全、遊び）
4	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容1（育ちの過程、離乳、衣服）
5	6か月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容2（睡眠、排泄、安全、遊び）
6	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容1（育ちの過程）
7	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容2（生活と遊び）
8	2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容1（育ちの過程）
9	2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容2（生活と遊び）
10	乳児に適した手作りおもちゃ 乳児保育における指導計画
11	観察・記録及び自己評価
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境
13	集団での生活における配慮
14	環境の変化や移行に対する配慮
15	乳児保育Ⅱまとめ（全体の復習と振り返り）

科目名	子ども家庭支援論	授業コード	YK5057**	科目コード	YK5057
担当教員	篠沢 薫・河野 暢明				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 保育の専門性を活かした子育て家庭への支援に関する知識を身につけ、子ども家庭支援の意義・目的・方法を理解する。さらに、子ども家庭支援の多様な展開についても理解する。					
【到達目標】 ・現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況を学び、子ども家庭支援の必要性について自分の言葉で説明ができる。DP②、⑥ ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について学び、その知識を応用して適切な援助方法を提示することができる。DP②、④ ・子育て家庭に対する支援体制について理解し、その現状と課題について具体的に述べるができる。DP② ・地域の子育て家庭への多様な支援や関係機関との連携について学び、適切な援助方法を提示することができる。DP②、④、⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況と、社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解する。また、子どもが健やかに成長するために、そして保護者が子育てに前向きになるような子ども家庭支援について学ぶ。特に保育者に期待されている、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解を深める。iPadを活用した情報収集を行い、事例検討やグループワーク、ディスカッション等を通して具体的に考え、個々の家庭に応じた支援方法を身につける。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
予習・復習は各60分程度で以下の内容を行う。 【予習】テキストの指定された箇所を事前に読んで授業に出席する。また日常的に、新聞やテレビ・インターネット等のニュースなどに目を通し、子育てに関する情報に関心を持つ。 【復習】テキストの該当箇所や参考資料を見直し、授業内容に関する理解を深める。					
4. 成績評価の方法及び基準					
定期試験50%、リアクションペーパーの提出状況および授業への参加状況30%、小テスト20%として、これらを合わせて授業内容の理解度および授業への参加状況を総合的に評価する。 なお授業への参加状況とは、個人の発言内容やグループワークへの貢献度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「子ども家庭支援論 第2版（新・基本保育シリーズ 5）」松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 中央法規出版（2022年12月）2,200円（税込）※電子テキスト					
【参考文献】 「ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック2025」一般社団法人全国保育士養成協議会 監修 宮島 清・山縣文治 編集 中央法規（2024年12月）1,430円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。 ・自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行う。 ・iPadを毎回持参し、電子テキストの閲覧や情報収集等に活用する。 ・授業内で回収した課題は、随時授業内で返却、振り返しを行う。					

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション・子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の目的と機能
3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4	子どもの育ちの喜びの共有
5	子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6	保育士に求められる基本的態度
7	家庭の状況に応じた支援
8	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
9	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10	子育て支援施策・次世代育成新施策の推進
11	子ども家庭支援の内容と対象
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	地域の子育て家庭への支援
14	要保護児童等及びその家庭に対する支援
15	子ども家庭支援に関する現状と課題

科目名	保育所実習Ⅰ	授業コード	YJ5061**	科目コード	YJ5061
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・伊藤 路香・加藤 翼・篠沢 薫				
授業形態	実習	配当学年	1年	期間	
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 乳幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、保育所保育における補助的な役割を担うことを通して、実習園の乳幼児の実態とこれを踏まえた保育の特色を理解する。</p> <p>【到達目標】 ・乳幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる DP③、④ ・乳幼児の実態や保育士の援助や配慮を観察し、事実に基づいて記録することができる DP③ ・実習園の保育理念や方針を理解し、特色ある保育活動を理解することができる DP③ ・保育士等の補助的な役割を担い、保育士の役割を理解することができる DP③、④、⑤</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>保育所実習Ⅰでは、保育所において保育に参画し、乳幼児の生活や遊びの様子を観察し、生活の流れや発達の実態を理解する。実習園の保育課程や指導計画に触れ、計画に基づく保育内容と実践の関係性を把握し、部分指導実習など一部の生活を計画し、実践する経験をする。保育の観察と記録を通して、計画と実践の理解を深め、保育過程を体験的に学ぶ。保育士の姿を通し、専門職としての保育士の業務内容及び職業倫理について学ぶ。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・保育技術・教材等を確認、準備する。想定される予習時間は各回1時間程度である。</p> <p>【復習】 一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定される復習時間は1日につき2時間程度である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合> 実習状況（70%）・実習日誌（30%）</p> <p><評価の基準> ・実習状況としては、実習園からの評価票をもとに、実習目標の達成度を評価する。 ・実習日誌としては、その記載内容の充実度を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込） 「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込） 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」 授業内で配布する資料</p> <p>【参考文献】 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料>https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf「新・たのしい子どものうたあそび」木村鈴代 同文書院（2017年）2,420円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること ◆ 保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく ◆ 保育所実習Ⅰの単位取得の条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく 					

授業計画	
1	保育所実習 I 2026年2月4日（水）～2月18日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育所実習ⅠⅠ	授業コード	YJ5062**	科目コード	YJ5062
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子・加藤 翼・尾根 秀樹・齊藤 加奈・飯村 愛				
授業形態	実習	配当学年	2年	期間	
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 乳幼児との関わりを通して実習園の保育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や保育職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。					
【到達目標】 ・乳幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に乳幼児に関わることができる。DP③、④ ・保育士等の補助的な役割を担うことを通し、子どもの最善の利益に配慮した保育士の役割と責務を理解できる。DP⑤ ・実習園での保育の実態を事実即して記録することができる。DP④ ・実習園の全体的な計画等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。DP③ ・指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。DP③、④ ・保護者支援や地域との連携の実際に触れ、保育所の機能を理解できる。DP⑤					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
保育所実習Ⅱでは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所において保育に参画し、保育の計画から実践、評価改善までを実際に取り組み、保育の過程について理解を深めることができるよう、部分指導実習、責任実習を含む総合的な実習を行う。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
【予習】 実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。					
【復習】 一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は1日につき2時間程度である。					
4. 成績評価の方法及び基準					
<評価の方法と割合> 実習状況（70%）・実習日誌（30%）					
<評価の基準> ・実習園からの評価票をもとに、実習目標の達成度を評価する。 ・実習日誌、指導案の内容の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」					
【参考文献】 「指導計画の考え方・立て方 幼稚園・保育所実習 第2版」久富陽子編著 萌文書林（2017年）1,980円（税込） 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料> https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidokateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること ◆ 保育実習指導Ⅱ（保育所）を履修すること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「2025年度実習の手引」に基づく ◆ 保育所実習Ⅱの単位取得の条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく ◆ 卒業必修科目（専門）について10科目以上の単位を取得していること					

授業計画	
1	保育所実習Ⅱ 9月4日（木）～9月18日（木）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）	授業コード	YE5068**	科目コード	YE5068
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・伊藤 路香・加藤 翼・篠沢 薫				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技術について理解する。</p> <p>【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所実習Ⅰの目的と概要を理解できる DP①、② ・保育所実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる DP①、② ・実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる DP① ・実習での観察や経験の記録方法を理解できる DP②、③ ・部分的な保育活動の計画を立てることができる DP②、③ ・部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する DP②、③ ・実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる DP②、③ </p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、観察や記録の取り方を学び、保育所実習Ⅰを円滑に進めていくための知識・技術を習得する。 実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。 事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。 またグループディスカッションを活用し、実習経験を多面的にとらえ、保育士の役割等を深く理解する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。予習復習に、3時間程度を想定している。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合> 授業への参加状況（30%）・手続き書類（20%）・課題及びレポート（50%）</p> <p><評価の基準> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・講演内容の振り返りのフォーム内容の充実度、及びグループワークにおける貢献度を評価する。 ・実習に関する手続き書類の作成と定められた期限を遵守した提出を評価する。 ・授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を遵守して提出し、その内容の充実度を評価する。 </p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」</p> <p>【参考文献】 「令和5年度最新版 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2024年）880円（税込） 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料>https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf 「新・たのしい子どものうたあそび 現場で活かせる保育実践」木村鈴代編著 同文書院（2017年）2,420円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく ◆ 保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得の条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく 					

授業計画	
1	保育所実習 I の概要
2	保育所における保育の実際<講演>
3	実習日誌の書き方 園の概要
4	オリエンテーションの理解
5	保育士資格取得のための実習の理解
6	保育所における実践：模擬保育
7	事前面談（訪問教員との顔合わせ）実習目標の確認
8	保育所実習の進め方
9	直前指導：実習中の手続きの理解
10	事後指導：自己評価と手続き
11	事後面談（訪問教員との面談）実習の振り返りと評価伝達
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導ⅠⅠ（保育所）		授業コード	YE5069**	科目コード	YE5069
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子・加藤 翼・尾根 秀樹・齊藤 加奈・飯村 愛					
授業形態	演習	配当学年	2年		期間	
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標						
<p>【主題】 事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅱの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。</p> <p>【到達目標】 ・保育所実習Ⅱの目的と概要を理解できる。DP② ・保育所実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP①、② ・実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。DP①、⑥ ・実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。DP② ・保育所保育指針や実習園の全体的な計画等を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。DP② ・責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。DP② ・実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP①</p>						
【ディプロマポリシーとの関連】						
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している					
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している					
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている					
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている					
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる					
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している					
2. 授業概要						
<p>事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、保育所実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。 実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。 事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。またグループディスカッションを活用し、実習経験を多面的にとらえ、保育士の役割等を深く理解する。</p>						
3. 授業時間外の学習（予習復習について）						
<p>授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。3時間程度を想定している。</p>						
4. 成績評価の方法及び基準						
<p><評価の方法と割合> 授業への参加状況（30%）・手続き書類（20%）・課題及びレポート（50%）</p> <p><評価の基準> ・講義・講演内容の振り返りフォームの内容の充実度、及びグループディスカッションにおける貢献度を評価する。 ・実習に関する手続き書類の作成及び提出状況を評価する。 ・授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を厳守して提出すること及びその内容の充実度を評価する。</p>						
5. 授業で使用するテキスト・参考文献						
<p>【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」 「授業内で配布する資料」</p> <p>【参考文献】 「教育・保育カリキュラム論」公益財団法人児童育成協会監修／千葉武夫、那須信樹編 中央法規出版（2019年）2,200円（税込） 「指導計画の考え方・立て方 幼稚園・保育所実習 第2版」久富陽子編著 萌文書林（2017年）1,980円（税込） 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） 「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省<電子資料>https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省<電子資料> https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf</p>						
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）						
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育所実習Ⅰ及び保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を取得していること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「2025年度 実習の手引き」に基づく ◆ 保育所実習指導Ⅱの単位取得の条件は、「2025年度 実習の手引き」に基づく 						

授業計画	
1	これからの保育・福祉を考える<講演>
2	保育所実習Ⅱの概要の理解
3	実習日誌の書き方：園の概要と園周辺の環境
4	オリエンテーションの理解
5	保育所における部分実習・責任実習
6	事前面談（訪問教員との顔合わせ）実習目標の確認
7	直前指導：実習の手続き・報告の理解
8	事後指導(1) 実習の報告、自己評価と課題設定
9	事後面談（訪問教員との面談）実習の振り返りと評価伝達
10	個人を尊重しつつ「つながり」を育む保育の役割<講演>
11	事後指導(2) 2年間の実習のまとめ
12	
13	
14	
15	

科目名	児童福祉施設実習Ⅰ	授業コード	YJ5071**	科目コード	YJ5071
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子・加藤 翼・尾根 秀樹・齊藤 加奈・飯村 愛・瀧尾 陽太				
授業形態	実習	配当学年	2年	期間	
単位数	2.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障がい者施設にて実習を実施し、実習先施設の機能、施設保育士の役割について理解を深め、児童・利用者への援助について実践を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や児童・利用者とのかかわりを通して、児童・利用者の実態やニーズを理解できる。DP④、⑤ ・児童福祉施設等の生活に参画し、職員の役割や施設の機能を理解できる。DP⑤ ・実習施設での支援の実態を事実即して記録することができる。DP④ ・施設職員の補助的な役割を担うことを通して、施設保育士の業務内容や職業倫理を理解できる。DP⑥ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>児童福祉施設等における原則10日間以上の実習。</p> <p>【主な実習先施設】 児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・障害者支援施設・障害福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援・就労移行支援）・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター・児童心理治療施設・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】 実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。</p> <p>【復習】 一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は各回1時間程度である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合> 実習状況（70%）・実習日誌（30%）</p> <p><評価の基準></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設からの評価票をもとに、実習目標の達成度を評価する。 ・実習日誌、指導案の内容の充実度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト 「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」 「授業内で配布する資料」</p> <p>【参考資料】 配属された種別に応じて、授業内で指定する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育所実習Ⅰ及び保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を取得していること ◆ 保育実習指導Ⅰ（施設）を履修すること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 児童福祉施設実習Ⅰの参加条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく ◆ 児童福祉施設実習Ⅰの単位取得の条件は、「2025年度実習の手引き」に基づく 					

授業計画	
1	2年次「児童福祉施設実習Ⅰ」を実施する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）	授業コード	YE5073**	科目コード	YE5073
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・長島 万里子・高橋 優子・加藤 翼・尾根 秀樹・齊藤 加奈・飯村 愛・瀧尾 陽太				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】</p> <p>事前指導では、実習生として児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障害者施設にて実習を実施するために必要な知識の習得をめざすとともに、施設における生活や活動に参画する意欲を高める。事後指導では、実習で得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童福祉施設実習の目的と意義を理解できる。DP② 児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。DP② 実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。DP⑥ 実習施設における支援の実際を適切に記録する方法を理解できる。DP② 実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。DP④ 					
<p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している</p> <p>○ 2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している</p> <p>3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている</p> <p>○ 4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている</p> <p>5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる</p> <p>○ 6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している</p>					
2. 授業概要					
<p>事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、福祉施設における実習の意義・目的・内容・方法を理解する。特に配属された種別の特性や機能、利用児・者の理解を深めるために、施設保育士等の外部講師による講義を聴講し、現場の実態や具体的な事例に触れ、施設における保育士の役割について考察する。</p> <p>実習中の巡回訪問指導では、実習施設の実習指導担当者との連携のもと、実習中の課題を整理する。</p> <p>事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、児童福祉施設実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。またグループディスカッションを活用し、実習経験を多面的にとらえ、福祉に関わる保育士をはじめとする専門職者の役割について議論する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】</p> <p>児童福祉施設または障害者施設の機能・役割、施設で働く保育士の児童・利用者への支援のありかたについて、「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「特別支援と保育Ⅰ」で学んだことと関連付けながら整理する。想定必要時間は各回1時間程度である。</p> <p>【復習】</p> <p>授業内で理解した内容を踏まえ、テキストを活用し、実習準備に取り組みながら授業の内容を振り返る。想定必要時間は各回1時間程度である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合></p> <p>授業への参加状況（40%）・手続き書類（20%）・課題及びレポート（40%）</p> <p><評価の基準></p> <ul style="list-style-type: none"> 講義・講演内容の振り返りフォームの内容の充実度、及びグループディスカッションにおける貢献度、プレゼンテーションにおける発表内容やオンデマンド課題の充実度を評価する。 実習に関する手続き書類の作成及び提出状況を評価する。 授業において示された課題及びレポートに取り組み、期限を厳守して提出すること及びその内容の充実度を評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】</p> <p>「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著 中央法規（2020年）1,980円（税込）※電子テキスト</p> <p>「洗足こども短期大学 2025年度実習の手引き」</p> <p>「授業内で配布する資料」</p> <p>【参考文献】</p> <p>配属された種別に応じて、授業内で指定する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育所実習Ⅰ及び保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を取得していること ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること ◆ 児童福祉施設実習Ⅰの参加条件は、「2025年度 実習の手引き」に基づく ◆ 保育実習指導Ⅰ（施設）の単位取得条件は、「2025年度 実習の手引き」に基づく 					

授業計画	
	【通年】
1	施設実習の概要と目的
2	配属施設の種別の理解(1)施設の機能と役割<グループ学習>
3	配属施設の種別の理解(2)施設の機能と役割<プレゼンテーション準備>
4	他種別の理解：施設の機能と役割<プレゼンテーション>
5	オリエンテーションの理解と目標
6	実習内容を踏まえた自己課題の設定<オンデマンド>
7	配属施設における実習の実際(1)施設長による講演
8	配属施設における実習の実際(2)実習生の体験から考える
9	事前面談（訪問教員との顔合わせ）実習目標の確認
10	直前指導(1)：実習中の手続きと対応の理解
11	直前指導(2)：種別における実習中の心構え・実習目標作文の作成
12	事後指導(1)：実習の自己評価と手続き
13	事後指導(2)：配属種別における学びを振り返る
14	事後面談（訪問教員との面談）：実習の振り返りと評価伝達
15	

科目名	社会的養護Ⅱ	授業コード	YE5081**	科目コード	YE5081
担当教員	下尾 直子・伊藤 陽一				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
【主題】 社会的養護における保育士の支援の実際について、事例をもとに実践的に学ぶ。					
【到達目標】 ・社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、施設養護・家庭養護における個々の事例について考察することができる。DP②、④ ・社会的養護における計画から自己評価、相談援助の技術などを理解し、社会的養護の流れを自分の言葉で説明できる。DP② ・社会的養護における子ども虐待やDVについて理解し、防止と家庭支援への自分なりの意見をもつことができる。DP②、⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
社会的養護に関わる様々な事例を分析することを通して、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術などについて考察・ディスカッションする。また、施設実習の実体験を通して学んだことを発表資料にまとめて発表し、その体験をクラスで共有する。発表によって、現代の社会的養護の背景や課題を、自らの施設実習の体験と重ねて考察を深めていく。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
①児童福祉施設実習で経験したことを、自身の知的財産として整理・記録し、授業内で発表できるように準備すること。想定必要時間は、5時間である。					
②毎日、1日15分以上は新聞テレビやインターネットのニュースに触れ、社会的養護の必要な子どもたちとその周辺の社会問題、施設や制度についての報道にアンテナを張ること。想定必要時間数（15分×7日間×15週）は27時間である。					
4. 成績評価の方法及び基準					
年2回課す課題の締め切りを守った提出と内容充実度（評価の60%） 講義聴講時の受講姿勢、発言や質問などの反応を評価する「授業参加姿勢」（評価の20%） 提出を求められたリアクションペーパーの提出と内容の充実度を評価する（評価の20%）					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】社会的養護Ⅰ・Ⅱは共通テキストです 「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅰ・Ⅱ」下尾直子・雨宮由紀枝編著 大学図書出版（2024年）2,750円（税込）					
【参考文献】 「身の回りから人権を考える」武部康広著 解放出版（2020年）1,760円（税込） 「愛着障害は何歳からでも必ず修復できる」米澤好史著 合同出版（2022年）1,870円（税込）					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・前期科目「社会的養護Ⅰ」の内容を十分に理解していること。 ・テキストは毎回の授業時に持参すること。 ・あらかじめ定められた発表日には必ず出席すること（病欠等の場合は証明になるものを要す）。					

授業計画	
	【後期】
1	社会的養護の実際と課題
2	子ども理解のためのアセスメントと個別支援計画
3	子ども理解のための記録と自己評価
4	日常生活支援に関する事例分析
5	治療的支援に関する事例分析
6	自立支援に関する事例分析
7	家庭養護に関する事例分析
8	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践
9	事例研究① 乳児院
10	事例研究② 児童養護施設
11	事例研究③ 母子生活支援施設
12	事例研究⑥ 障害児者入所施設
13	事例研究⑦ 児童発達支援センターと障害福祉サービス事業所
14	事例研究⑧ 重症心身障害児者施設
15	社会的養護における家族支援

科目名	子育て支援	授業コード	YE5082**	科目コード	YE5082
担当教員	篠沢 薫・齊藤 加奈				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	保育士資格 必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 子どもや子育て家庭を取り巻く環境が多様化する現代において、保護者に対する子育て支援は、保育士の業務として非常に重要である。日々子どもや保護者と接する保育士ならではの専門性を活かした保護者支援について学び、具体的な方法や技術を理解し実践できるようになることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 ・保育士の行う子育て支援の特性について学び、子育て支援の必要性について、自分の言葉で説明ができる。DP⑥ ・保育士の行う子育て支援の展開過程について学び、その知識を応用して使うことができる。DP④、⑤ ・保育士の行う子育て支援の実際と内容について学び、具体的な方法と技術を身につけ、自らの実践に適用することができる。DP④、⑤、⑥</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>保護者に対する子育て支援の特性について学び、保育士の行う保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の保育の専門性を活かした支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育所を利用する子どもの保護者、地域の子育て家庭、保育所以外の児童福祉施設における相談支援など、多様な機会における保育士が行う子育て支援について理解を深める。iPad等を活用した情報収集を行い、事例検討やグループワーク等を通して具体的に考え、個々の家庭に応じた援助方法を理解し習得する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>予習・復習は、各60分程度となる。 【予習】テキストは指定された箇所を事前に読んで授業に出席すること。また日常的に新聞やテレビ・インターネット等のニュース等を目を通し、子育て支援の実際や子育て家庭を取り巻く環境に関する情報に関心を持つ。 【復習】毎回の授業後には、テキストの該当箇所や授業内での配布資料およびClassroom等での配信を含む参考資料を見直し、授業内容について理解を深める。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>レポート50%、授業ごとの課題40%、授業における発言内容10%、とする。</p> <p>レポートや授業ごとの課題では、授業内容の理解度を評価する。また授業における発言内容では、個人の発言内容やグループワークへの貢献度を評価する。以上を合わせて授業内容全般の理解度を総合的に評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「新・基本保育シリーズ⑩ 子育て支援」西村重稀・青井夕貴編著 中央法規出版（2019年2月）2,200円（税込）※電子テキスト</p> <p>【参考文献】 「気づく かかわる つなげる-保育者のための子どもと保護者の育ちを支えるガイドブック」子どもと保護者の支援ガイドブック作成検討委員会 編 全国社会福祉協議会（2017年3月）880円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可能とする。 自分の意見の発表や質問、グループワークやディスカッション、グループ発表への参加を積極的に行う。 iPadを毎回持参し、授業時に情報収集をしたり予習復習時に活用したりする。 授業内で回収した課題については、随時授業内で振り返りや返却を行う。 					

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション・子どもの保育とともに行う保護者の支援
2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
4	子どもおよび保護者が多様な他者と関わる機会や場の理解
5	子どもおよび保護者の状況・状態の把握
6	子育て支援の計画と環境の構成
7	子育て支援の実践・記録・評価・カンファレンス
8	職員間の連携・協働
9	社会資源の活用と関係機関や専門職との連携・協働
10	保育所等における支援
11	地域の子育て家庭に対する支援
12	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援
13	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援
14	子ども虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援
15	まとめ：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解と支援

科目名	情報機器の操作	授業コード	YE0386**	科目コード	YE0386
担当教員	林 洋子・亀井 博史				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 在学中に利用できる学内IT環境及びPC等の基本操作方法を理解し、Windowsの基本操作や代表的なアプリケーション・ソフトウェアを利用できるようにする。情報倫理・モラルの基本を理解し、Web検索とビジネスメールの基本マナーを習得して、幼稚園・保育園で必要な文書等を作成できるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windowsの基本操作を習得する。DP④ ・Microsoft Word/Excelを使用し社会人として必要な文書作成ができる。DP③、④ ・タッチタイピングの基本を習得する。DP④ ・情報倫理・モラルの基本を理解する。DP①、④ ・Microsoft PowerPointでアニメーションを含むファイルを作成ができる。DP③、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>情報機器の操作として、Windowsのコンピューターを利用して毎回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Windows OSの基本操作を習得する。 ・Microsoft Word、Excel、PowerPointの文書を作成、編集する。 ・保育者に必要な情報倫理、著作権、モラルの理解を実例を踏まえて身に着ける。 ・P検準2級程度のタッチタイピングを習得する。 ・学内ネットワークを理解し、メールの送受信やプリントアウトの方法を習得する。 ・ICTを利活用できるようにする。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>配布資料には予め目を通し、必要に応じてプリントアウト、あるいはメモ書きを加筆できるよう準備しておくこと。想定時間30分ほど。 （初回授業にて方法を説明をする） 授業取り組んだ課題を再度各自で行い、コンピューターの操作を確認し習得すること。想定時間は60分ほど。 タイピング練習は、授業時間外でも行うこと。想定時間30分ほど。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>タイピング練習の進捗と正解率（評価の10%） 授業への参加姿勢（評価の30%） 授業で作成するファイルの完成度（評価の30%） 課題の完成度（評価の30%）</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 授業中に、適宜、資料を配布する</p> <p>【参考文献】 Microsoft Officeの操作に苦手意識を持っている学生や自習により更に理解度を深めたい学生など、自身で必要だと思う場合は下記の参考文献を購入すると良い。 「保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版」 阿部正平・阿部和子・二宮祐子著 萌文書林（2018年）2,200円（税込）</p> <p>【参考サイト】 コンピューターのタイピングに苦手意識のある学生は、日頃よりタイピング練習サイトなどで練習をする事を推奨する。 以下は参考サイトなので、似たようなタイピング練習サイトを利用してもよい。</p> <p>寿司打 https://sushida.net</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>コンピューターログインのパスワードがわかる状態で授業に臨むこと。 SENZOKUポータル、SENZOKUメールのパスワードを持つてくること。 コンピューターログインのパスワードがわかる状態で授業に臨むこと。 必ず自分で操作すること。 欠席により受講できなかった回については、classroomに配布済みの資料を確認し、わからないことは質問するなど次回授業前に各自で補填しておくこと。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 幼稚園・保育所でのメディア活用 SENZOKUメールについて タイピングについて
2	WindowsとMicrosoftOfficeについての導入 情報倫理 著作権について
3	Microsoft Wordの基本操作① 保護者への文書の作成
4	Microsoft Wordの基本操作② 表や画像を組み込んだ文書の作成
5	Microsoft Wordの試験と解説
6	Microsoft Excelの基本操作① 表と文字のレイアウト
7	Microsoft Excelの基本操作② スケジュール表の作成
8	Microsoft Excelの基本操作③ クラス名簿の作成／関数の利用とデータベース管理
9	Microsoft Excelの基本操作④ グラフの作成
10	Microsoft Excelの試験と解説
11	Microsoft PowerPointの導入
12	Microsoft PowerPointの基本操作 アニメーションを使用したプレゼンテーション資料の作成
13	Microsoft PowerPointを使用したプレゼンの台本制作
14	学期末課題実施
15	学期末課題実施／総括

科目名	英語(外国語コミュニケーション)	授業コード	YE2121**	科目コード	YE2121
担当教員	伊藤 満里				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 今日、日本では幼児期からの英語教育が盛んになってきている。本授業では、保育の場で特に必要と思われる内容を中心に「使える英語」を実践的に学び、英語が使える保育者育成を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所に在園している外国人の子どもに対し、保育活動上必要な指示を英語で与えることができる。DP④ ・在園している外国人の子どもと、英語を使って連絡をとることができる。DP⑤ ・在園している子どもに対し、簡単な英単語や英語の歌を教えることができる。DP③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>保育者に必要な英語表現を身に付けるため、テキストに基づいたことばの4技能（読む、書く、聞く、話す）を、プレゼンテーションと英語の歌を通じてトレーニングする。また保育者にふさわしい教養とスキルを身に付けるため、適宜保育に関連した課題に取り組む。</p> <p>全15回をオンデマンド授業とする。 授業で使用する関連資料やプリントはGoogle Classroomを通じて掲示・配信する。また、各種アプリを活用して課題の提出や授業内のアクティビティを行う。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>【予習】単語、熟語は、予め辞書で意味とその具体的な用法について調べ、テキストの内容に関しても不明な点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。</p> <p>【復習】授業内で実施される確認テスト、確認Quiz等に備え、テキストの復習をしっかりと行うこと。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)</p> <p>【プレゼン発表】授業時間外に1時間以上の準備と練習を行うこと。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>確認Quiz13回（評価の50%） 確認テスト2回（評価の15%×2回、評価の30%） プレゼン発表1回（評価の20%）</p> <p>確認Quiz：毎回授業動画を閲覧し、学習した後、毎回「確認Quiz」を実施し、授業内容の理解度を評価する。 確認テスト：授業内容の理解度と学習到達度を評価する。 プレゼン発表：Show and Tell形式で行う「英語で自己紹介」自撮り動画を、発表の長さ、暗記、文章（基本文+オリジナル文の作成）、グッズ提示の有無の観点から評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「保育の英会話 第2版」 赤松直子・久富陽子著 萌文書林（2014年）2,200円（税込）</p> <p>【参考文献】 資料を配信する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業には、毎回PC等を活用すること。 ・課題に対するフィードバックは、授業で解説、コメントを行う。 ・履修者の積極的な授業参加を期待する。 					

授業計画	
1	<p>・授業の進め方についての説明</p> <p>Unit 1: First step to Childcare English <保育の英会話への第一歩> "What's your name?" (お名前を教えてください。)</p> <p>・自己紹介や簡単な質問と答えを練習する。 ・保育園の様々な場所を示す語句を学ぶ。</p>
2	<p>Unit 2: Welcome to Minato Nursery School <みなと保育園ようこそ!> "It's nice to meet you." (お会いできて嬉しいです。)</p> <p>・初対面の人と出会ったときのあいさつを学ぶ。 ・家庭調査票や保育室の中にある様々な物に関する語句を学ぶ。</p>
3	<p>Unit 3: Time and Numbers <時間と数> "Please come to school at 8:00." (保育園に8時に来て下さい。)</p> <p>・時間や数を表す表現を学ぶ。 ・保育園に入園するときに保護者に用意してもらった所持品に関する語句を学ぶ。</p>
4	<p>Unit 4: Directions <地図と道案内> "Places around Minato Nursery School" (みなと保育園の周辺の場所)</p> <p>・様々な場所の名称や方向を示す語句を学ぶ。 ・前置詞を使って場所や道順を説明する表現を学ぶ。</p>
5	<p>Unit 5: Davy Meets His classmate Takashi <クラスメイトとの出会い> "Let's play with blocks." (一緒に積み木で遊ぼう。)</p> <p>・他者を紹介するときの表現を学ぶ。 ・子どもの遊びや園庭の遊具を表す語句を学ぶ。</p>
6	<p>Unit 6: Dropping Davy off and Picking him up <デイヴィーの登園と降園> "How was Davy today?" (デイヴィーの今日の様子はどうか。)</p> <p>・子どもの感情や状態を表す表現を学ぶ。</p>
7	<p>Unit 7: Jobs at Nursery School <保育者の仕事> "What does Yoshio-Sensei do in the toddler's class?" (よしお先生の乳児クラスの仕事)</p> <p>・1歳児担当のよしお先生の仕事を例に、年齢による保育者の仕事の違いを比べる。</p>
8	<p>第1回～第7回のおまとめ (学習到達度の確認テスト) ・絵本 The very hungry caterpillar を読む。</p>
9	<p>Unit 8: Lunchtime <昼食> "Lunch menu" (昼食の献立)</p> <p>・食品や野菜の名前、分量や好き嫌いを表す表現を学ぶ。</p>
10	<p>Unit 9: Toilet Dialog <排泄に関する会話> "Does anyone need to go potty?" (トイレに行きたい人はいませんか。)</p> <p>・子どもが言う排泄に関する表現を学ぶ。 ・連絡帳のやりとりを学ぶ。</p>
11	<p>Unit 10: Fighting <けんか> "Takashi hit my head." (たかしがぼくの頭をたたいたよ。)</p> <p>・けんかや物の取り合いをしている子どもたちへの保育者の言葉かけの表現を学ぶ。 ・身体の部位に関する単語や文房具に関する単語を学ぶ。</p>
12	<p>Unit 11: Injuries and Illnesses <けがと病気> "Common childhood injuries, illnesses and symptoms" (一般的な子どものけがや病気)</p> <p>・けがや病気に関する表現を学ぶ。 ・世界のクリスマスを学ぶ。</p>
13	<p>Unit 14: Baby Care <赤ちゃんのケア> "What do babies do? How do children grow?" (赤ちゃんはどのように成長するの?)</p> <p>・育児用品の語句を学ぶ。 ・赤ちゃんの成長・発達を表す表現を学ぶ。</p>
14	<p>早期英語教育を学ぶ ・絵本 Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? を読む。</p>
15	<p>第8回～第14回のおまとめ (英語が使える保育士に向けて、テキストと各「確認Quiz」を復習し、半期授業を総括する。)</p>

科目名	健康・スポーツ	授業コード	YJ3124**	科目コード	YJ3124
担当教員	ジャズダンス：林 七重・田之上 もも・藤森 瑞生 バレエ：若生 加世子・草間 華奈・奥田 さやか ストリートダンス：Yuuki・ERIKA				
授業形態	実技	配当学年	2年	期間	半期
単位数	1.0単位	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生自らが健康とスポーツに興味を持ち、知識と理解を深め、自分自身の体力向上に努めることを目指す。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場において、身体を動かす楽しさを子どもたちに伝えることが出来るよう、指導法についても習得する。DP①、②、③ ・ダンスにおける身体の正しい使い方を学び、子どもの見本として動けるようになる。DP①、②、③ ・バランス感覚とリズム感覚を養い、保育者としての表現力の幅を広げる。DP①、②、③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>身体を動かして表現することの充実感を味わい、ダンスを通じて豊かな人間関係を構築する。 リズム運動の基礎となる基本のステップ、リズムを学び、幼児の指導に必要な身体表現方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ボディーワークを基礎としたエクササイズ・ストレッチ・ステップ・コンビネーション。 ●身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方。 ●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。 ●音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ。 ●コミュニケーションと心の考え方。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>日常生活において、習慣的に階段を用いたり長い距離を歩く、ストレッチを行なう等、90分を目標にして身体をこまめに動かすこと。 規則正しい生活習慣を身につけ、日頃から健康管理に留意すること。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業への姿勢・態度（評価の70%） ・基礎ステップ理解度（評価の20%） ・表現力（評価の10%） <p>を総合的に評価する。</p> <p>「基準」は「真摯に学ぶ姿勢が見られること」「学んだ基礎的な動きの理解ができていないこと」「動きの内容を理解し、さらに自ら考え表現をすること」を評価する。 第1回目の授業時に説明するルールを厳守して受講すること。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>「楽曲、資料は必要に応じて伝える」</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ジャズダンス・ブック』ベースボール・マガジン社 1996年 p.129～133 「ここが知りたかった、ジャズ・ダンス」 ・『世界のダンス-民族の踊り、その歴史と文化』ジェラルド・ジョナス著 大修館書店 2000年 8,360円（税込） ・『楽しいジャズダンス』カーリン・シャーベルト／著 佐藤彰／訳 ベースボール・マガジン社 1984年 →p.10～13 「ジャズ・ダンスの歴史とその他のダンスとの関連について」の項に記載あり。 					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>半期（前期・後期のいずれでも）授業時数の3分の2以上出席しなければ、単位が認定されない。</p> <p>※毎回必ずしっかり講師が出欠を確認する。 ※出席していても講師の出欠確認で返事が認められない場合は欠席とする。</p> <p>動きやすい服装で、室内履きのシューズを着用すること。 （ジャズダンスシューズやバレエシューズを用意するのが望ましい。） 汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲物を持参。授業開始時刻には着替えを済ませて入室する様に。</p>					

授業計画	
	【半期】
1	<ストリートダンス>ウォームアップ、ストレッチ、筋トレ
2	<ストリートダンス>柔軟性とアイソレーションの意識
3	<ストリートダンス>基礎ステップ（ハウス）
4	<ストリートダンス>ステップとコンビネーション
5	<ストリートダンス>ストリートダンス発表、まとめ
6	<バレエ>ストレッチ、筋力トレーニング
7	<バレエ>ストレッチ、パーレッシン
8	<バレエ>ストレッチ、パーレッシン基礎、フロアーレッシン
9	<バレエ>パーレッシン基礎、センターレッシン
10	<バレエ>仕上げレッシンおよび発表、まとめ
11	<ジャズダンス>骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
12	<ジャズダンス>コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
13	<ジャズダンス>身体各部の重さ、床と接触面への意識を高める
14	<ジャズダンス>保育にも活かせるダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
15	<ジャズダンス>ジャズダンス発表、まとめ

科目名	保健体育	授業コード	YK3125**	科目コード	YK3125
担当教員	石濱 加奈子				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
保育士資格					
必修					
1. 主題・到達目標					
【主題】 現代の豊かな日本社会において若い時には健康の重要性に気づきにくい。社会人になるにあたり、今後の人生の目的を果たす手段として健康について改めて振り返り、自らの健康を維持増進する必要性を認識する。					
【到達目標】 ・自分の心身の現状について健康の観点から客観的に評価できる。DP① ・現状の問題と改善点を把握した上で、自分の日常で実践する方法を見つけて実践できる。DP① ・今後の人生において年齢と共に心身が変化することを踏まえ、現状からできる備えや注意点がわかる。DP① ・妊娠や出産についての心身の状態に対して、現状からできる備えや注意点がわかる。DP⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
○	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
予防医学の観点からよりよく生きるために必要な知識を得る。現在の自分自身の心身の状態や生活習慣を振り返り、問題点を見つけ改善策を考えて日常生活で実践する。また加齢や性、生殖に関する内容について具体的に学び、今後の自らの人生に役立てるとともに保育者として活用できるようにする。					
全15回をオンデマンドによる授業とする。 毎回、動画と資料を配信する。 動画を視聴しながら、資料にメモをとり、自らが理解できる資料を作成する。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
・授業内容について、毎回復習し、宿題・課題は期日までに必ず取り組む（必要想定時間は復習30分、宿題・課題60分程度）。 ・配信資料については、空欄のないように各自で完成させる。 ・日常生活のなかでの調査や課題に取り組む。 ・授業で学んだ知識を日常生活で実践して望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康を得る。					
4. 成績評価の方法及び基準					
定期試験（評価の50%） 毎回の提出課題（評価の50%）					
・定期試験期間に定期試験（筆記試験）を実施する。 ・毎回の提出課題は、授業の理解度の確認のために、各自作成する資料を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【参考文献】 「母子手帳から始める若い女性の健康学」 井上栄 著 大修館書店（2012年）990円（税込） 「病気になる本-予防医学へのいざない-」 江藤敏治 著 大学教育出版（2005年）1,320円（税込） 「世界中の女子が読んだ！からだ性と性の教科書」 エレン・ストックケン・ダール／ニナ・ブロックマン著 NHK出版（2019年）2,420円（税込） 「思春期女子のからだ心 Q&A」 八田真理子 著 株式会社労働教育センター（2020年）1,980円（税込） 「HUMAN+ 女と男のディクショナリー（改定第二版）」 公益社団法人 日本産婦人科学会（2018年）（jsog.or.jp） 他、授業時にも紹介する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・前回までの授業動画は視聴しておく。 ・配信資料と課題は各自で管理し、期限厳守で提出する。					

授業計画	
1	ガイドランス・ヒトについて (これまでの保健体育で学んだ内容を振り返り、ヒトと健康について確認する)
2	予防医学と健康 (健康に影響を及ぼす要因を知り、自らのヘルスプロモーションを考える)
3	生活習慣・体格の評価 (自らの生活習慣と体格を正しく評価し、維持・改善する方法を知る)
4	運動と健康 (運動不足が心身に及ぼす影響、および日常生活に運動を取り入れる方法と効果を知る)
5	栄養・食と健康 (心身の健康に必要な栄養について理解し、自らの食生活の現状と課題に対する改善策を考える)
6	疲労・休養と健康 (心身の疲労、および休養を理解し、自らの生活の中で実践する方法を考える)
7	依存症と健康 (喫煙・飲酒・薬物など様々な依存症について正しく知り、予防について考える)
8	心の健康とストレスコーピング (ストレスについて知り、自身に合ったコーピングを考える)
9	性の発達と健康 (性別の発達の特徴と違いを正しく認識し、性への理解を深める)
10	性特有の病気と健康 (性特有の病気について予防と検診の重要性を理解する)
11	性行動および感染症と健康 (ヒトとしての性行動と状況に応じた正しい行動を理解する)
12	妊娠・出産 (生命が誕生する過程を正しく理解する)
13	避妊・人工妊娠中絶 (避妊と人工妊娠中絶を正しく理解する)
14	加齢と健康 (加齢に伴う心身の変化と、その変化に対応する方法を知る)
15	まとめ (よりよく生きるため、自らの現状と今後について考える)

科目名	法学（日本国憲法）	授業コード	YK0216**	科目コード	YK0216
担当教員	上岡 敦・外塚 果林				
授業形態	講義	配当学年	1年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	必修 保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 「法」と「日本国憲法」に関する基本的知識を学び、社会で必要とされる能力を身につける。					
【到達目標】 ・社会における法の役割、法と生活の関わりなど、社会生活を送る上で身につけておくべき法の基本的知識を習得する。DP①、⑤、⑥ ・日本国憲法を学ぶことを通じて、法的思考を様々な問題に応用できるようになる。DP①、⑤、⑥ ・幼稚園教諭が備えるべき素養としての日本国憲法に関する基本的事項、主要な学説、判例について理解する。DP①、⑥ ・日本国憲法の定める人権保障および統治機構の仕組みについて自らの言葉で説明できるようになる。DP①、⑤、⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
法は日常生活を送る上で意識しづらいものであるが、私たちの家族や職場などあらゆる場面に関わりを持っており、我々は法と無関係に生きていくことはできない。本科目は、憲法を理解するための前提知識である基礎法学の内容と、日本国憲法の基本的知識および解釈について判例・通説を基に講義を行う。受講生は、日本国憲法の条文解釈等の学習を通して、社会における法の果たす役割を理解するとともに、法的思考能力を身につけてもらいたい。					
原則としてオンデマンド形式での授業とするが、必要に応じて対面授業を行う。対面授業の実施等に合わせてオンデマンド授業で取り扱う内容が前後する可能性があるものの、すべての授業回を通じてシラバス記載のテーマは取り扱う予定である。 ※定期試験は対面による筆記試験で実施する。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
【予習】その回の教科書の該当ページに目を通し、各回の内容を簡単に把握するとともに疑問点を明確化しノートに列記しておく。そして授業では疑問点の解消に努めること（予習の想定必要時間は毎回2時間程度）。					
【復習】配付された資料等を用いて授業内容をノートに整理し、授業の論点が何であったのかについて考えること（復習の想定必要時間は毎回各2時間程度）。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・定期試験期間に実施する筆記試験（評価の75%）。 ・授業内容を復習するために実施する小テストやレポートなどの内容（評価の15%）。 ・課題の提出状況やコメント状況など授業への参加姿勢（評価の10%）。					
定期試験は、法の基本的知識、日本国憲法の基本的知識を授業内容を踏まえて正しく理解できているかを評価する。 小テストは、実施日までに授業で取り扱った内容を、理解しているかを評価する。 レポートは、授業内容を正しく理解しているか、自分の意見や考えなど、自分なりの学習成果が見られるかどうかを中心に評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 『憲法入門講義』東裕 編著 一藝社（2021年）2,700円（税込）					
【参考文献】 『プレステップ憲法〈第4版〉』駒村圭吾 編著（2024年）2,200円（税込） その他、授業内で適宜紹介する。					
※授業は、法をめぐる実際の問題や、法に対する問題意識を深めるといった点を重視して行う。したがって、教科書全ての章や内容をまんべんなく取り上げる事は避け、重点をおいた項目、補足しておくべき項目について取り扱いたい。受講生は、授業と教科書の双方を活用して、法や日本国憲法に対する理解を深めてほしい。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
・新聞などに目を通し、社会問題に対して関心や問題意識を持った上で授業に臨むことが望ましい。 ・成績評価の対象となるためには2/3以上の出席を必要とする。 ・本科目は、その内容から履修者にとって負担の大きいものになることが予測されるため、毎回の授業に際しては、十分な予習・復習のうえ、真剣に取り組むことが重要になる。 ・授業で取り上げるテーマ、事例は受講者の関心に合わせて柔軟に対応する予定であるため、社会的状況、受講者の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。					

授業計画	
	【前期】
1	<p>ガイダンス・法とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実施方法、成績評価方法等の説明 ・「法」とは何か「憲法」とは何か ・「法」の基礎の解説（社会秩序と法・法と道徳等）
2	<p>法と裁判</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判規範としての法と法の解釈・適用 ・日本の裁判制度 ・民事裁判と刑事裁判
3	<p>日常生活における法律問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSに関連した犯罪 ・消費者保護と法 ・アルバイトと法
4	<p>国民主権・天皇・平和主義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権の意義 ・天皇の地位と権能 ・平和主義と9条の解釈
5	<p>人権総論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権とは何か ・人権の歴史・種類・享有主体 ・人権保障の限界と公共の福祉
6	<p>幸福追求権・法の下での平等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重と幸福追求権 ・新しい人権 ・平等とは何か
7	<p>思想・良心の自由・信教の自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思想・良心の自由と内心の自由 ・信教の自由と保障の限界 ・政教分離原則
8	<p>表現の自由・学問の自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の自由の意義 ・表現の自由に対する制限の議論 ・学問の自由の保障と限界
9	<p>経済的自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神的自由と経済的自由 ・職業選択・職業遂行の自由と規制 ・財産権の意義と制限
10	<p>人身の自由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正手続の保障と罪刑法定主義 ・被疑者・被告人の権利 ・奴隷的拘束の禁止・残虐な刑罰の禁止
11	<p>社会権・参政権</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生存権の保障 ・勤労の権利と義務 ・教育を受ける権利 ・参政権と選挙制度
12	<p>立法権（国会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会の制度 ・国会議員の地位と特権 ・衆議院と参議院
13	<p>行政権（内閣）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣と行政組織 ・内閣の組織と構成員 ・内閣総理大臣と國務大臣の権能
14	<p>司法権（裁判所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司法権の役割 ・違憲審査制とその仕組み ・裁判員制度
15	<p>財政・地方自治・憲法改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の予算と税金 ・地方自治の本旨 ・憲法改正の手続きと憲法改正議論

科目名	ビジネス講座(秘書検定対策)	授業コード	YK026700	科目コード	YK0267
担当教員	稲又 可奈				
授業形態	講義	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	-
1. 主題・到達目標					
【主題】 メール、日程管理、電話のかけ方など社会で必要とされる“実学としてのマナー”を学び、良好な人間関係について考える。また、マナーやルールがなぜ必要なのか、社会活動をする上で自分を守るために知っておきたい知識についても学ぶ。					
【到達目標】 ・日常生活で感じの良いコミュニケーションを自らとることができるようになる。DP⑤、⑥ ・「報告・連絡・相談」を実際に自分から発信できるようになるなど、「分かる」から「出来る」を最重点とする。DP①、⑤					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
☐	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
全15回をオンデマンド授業とする。					
この授業のベースであるマナーに関しては、授業名となっている秘書検定の内容から伝統的な慣習を理解し、時代に即した新しいマナーを令和のマナー検定のテキストを用いて学ぶものとする。 これらの内容はビジネスの場面だけでなく学生生活でもすぐに活かせる内容で、実習期間にも役立つやりとりが多数出てくる。授業では実際の場面をイメージできるよう展開していくので、積極的に取り入れてチャレンジする姿勢を重視する。実践できたかどうかについては、各回のコメントペーパーに記述欄を設け、評価する。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
検定受験者は過去問題に繰り返し取り組むことが必要である。 秘書検定：2級の試験時間は2時間であるため、1時間程度でひと通り解き終わり、落ち着いて見直しができるよう意識しよう。過去問題集は各自で購入すること。 令和のマナー検定：テキストに掲載されている章末問題のほか、模擬問題に取り組む必要がある。試験時間は50分であるため、焦らずにすべての問題を解き、見直しにあてる時間が確保できるようにしよう。 コミュニケーションスキルや知識の習得は反復練習が欠かせないため、授業のコメントペーパーにて日常での気付きや授業内容について教員とやりとりしながら、マナーに意識を向けた日常生活を目指す。授業で扱ったテキスト内容を理解度チェック問題として出題するほか、テキストは実際に使える事例などが載っているので、授業内で扱ったものを日常の中で活用し、感想や気付いたことを自分なりにまとめること。想定必要時間は2時間程度。					
4. 成績評価の方法及び基準					
・授業への参加姿勢・態度：評価30% コメントペーパーにて視聴状況や内容の理解を確認し、授業への取組姿勢や積極性を評価する。検定受験者はその結果も考慮する。 具体的な記述がないもの、確認で防げるイージーミス、教員の指示を無視したもの（例：文字数や諸注意）は出席とみなされない場合がある。 ・課題への取り組み：評価20% 授業内容の理解度チェック問題によって、復習状況を評価する。 ・定期試験期間に定期試験(筆記試験)を実施する。評価50% 授業の理解度を評価するために、授業で扱った内容から問題を選定し、出題する。 上記を総合的に判断し、成績評価を行う。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
【テキスト】 カデナクリエイティブ『公式テキスト 令和のマナー検定〔第2版〕』株式会社オデッセイコミュニケーションズ、2024年 価格1,650円(税込) 個人で購入する場合：アオテストアURL https://aoten.jp/store/detail.html?no=a1500i_m230308 ※講義中の「テキスト」という表現は、このテキストを指します。					
【参考文献】 公益財団法人 実務技能検定協会『秘書検定2級 実問題集 2025年度版』早稲田教育出版 価格1,650円(税込) ※秘書検定受験希望者					
【推薦図書】 中央大学法学部『高校生からの法学入門』中央大学出版部、2016年 価格990円(税込) 遠藤研一郎『僕らが生きているよのなかのしくみは「法」でわかる 13歳からの法学入門』大和書房、2019年 価格1,650円(税込) ※中高生向けの題名だが、大学生や社会人にとっても非常に有益な内容である。公共図書館で借りるなどして読むことで、授業の理解度も高まり、日常の疑問解消にも役立つ。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎する。 授業ではビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求める。 2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない(欠格条件)。 課題に対するフィードバック：授業の中で時間を設け、コメントする。 具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明する。					

授業計画	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 授業の進め方 履修における注意点 概要説明 ・実践すぐに使えるビジネスマナー 基本姿勢（立ち方、座り方、お辞儀）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れから見る、ベーシック・ビジネスマナー① あいさつ、自己紹介、来客 ・日常の中のルール① ルールは何のためにあるのか ・カンタンなようで奥が深い、お金の「大基本」① お金の付き合い上手はバランストキ
3	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れから見る、ベーシック・ビジネスマナー② 訪問、名刺交換、退社 ・日常の中のルール② 「全体の利益」を配慮するということ ・カンタンなようで奥が深い、お金の「大基本」② 学生の暮らしにかかるお金 ・実践すぐに使えるビジネスマナー 自己紹介②
4	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前前に身に付けたい、ビジネスパーソンの基本所作① 身だしなみ ・日常の中のルール③ 自由と規則のバランス ・身近なブラックワーク 自分も周囲も巻き込まれないためにできること ・実践すぐに使えるビジネスマナー 基本姿勢と自己紹介の復習
5	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れから見る、ベーシック・ビジネスマナー③ 会議・ミーティング、リモートワーク ・当たり前前に身に付けたい、ビジネスパーソンの基本所作② 敬語、電話の基本 ・日常の中のルール④ 自転車も「車両」 知っておきたい道交法 ・実践すぐに使えるビジネスマナー オンラインのマナー、ビジネスや目上の人とのメール実践知識
6	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前前に身に付けたい、ビジネスパーソンの基本所作② 間違えやすい敬語、電話の応用、メール・チャット ・仕事と法① 「人間らしい仕事」とはどういうことか ・人生100年時代のお金について学ぶ① 漠然とした不安を「見える化」する ・実践すぐに使えるビジネスマナー オンラインのマナー、メールについて復習
7	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前前に身に付けたい、ビジネスパーソンの基本所作③ ビジネス文書、席次 ・ビジネスパーソンの必須項目、スタンダード仕事術① スケジュール管理（スケジュールを組む際の留意点、予定の変更への対応と調整） ・仕事と法② 「自分らしく働く」とはどういうことか ・人生100年時代のお金について学ぶ② 「貯まる仕組み」を作る
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンの必須項目、スタンダード仕事術② 仕事の進め方、整理整頓 ・大人として外せない、プラスアルファの知識とマナー① SNSとの上手な付き合い方 ・お互いの大切なものを守る法① 「プライバシー」と「当座」
9	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れから見る、ベーシック・ビジネスマナー③ 会話、休憩時間 ・お互いの大切なものを守る法② 他人の悪口を言うことは自由なのか ・人生100年時代のお金について学ぶ④ 資産形成の基本となる考え方
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパーソンの必須項目、スタンダード仕事術③ アクシデント、クレーム対応 ・人生100年時代のお金について学ぶ⑤ 未来を自分で切り開く
11	<ul style="list-style-type: none"> ・大人として外せない、プラスアルファの知識とマナー② 組織、ハラスメント ・”いじめ”はれっきとした犯罪にあたる 犯罪は暴力や物を壊す行為だけではない ・実践すぐに使えるビジネスマナー メール実践①

1 2	<ul style="list-style-type: none">・大人として外せない、プラスアルファの知識とマナー③ ”秘” 扱い情報の取り扱い、会食・接待、冠婚葬祭・実践すぐに使えるビジネスマナー メール実践②振り返り
1 3	<ul style="list-style-type: none">・まとめの実践① あいさつと立ち居振る舞いのケーススタディ 活動やお金の波を知って行動する
1 4	<ul style="list-style-type: none">・まとめの実践② 社会や環境に配慮した行動
1 5	<ul style="list-style-type: none">授業内容の総まとめ 実践問題を使った授業内容の復習

科目名	ウィンド・バンド1	授業コード	YE041000	科目コード	YE0410
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 この授業において吹奏楽の合奏、発表を通して音楽をする心を豊かにし、アンサンブルをする力、また表現力を高め、演奏団体として音楽の楽しさを伝えられる事を主題とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い楽曲を通じて音楽表現の多様性を学ぶ。DP③ ・専門家の指導を受ける事で、よりコアで高度な音楽、合奏技術を習得する。DP③ ・演奏会を作り上げる経験を通して、保育現場で活かせる行事等の実施プロセスを学ぶ。DP④ ・ウィンド・バンドのメンバーとしての自覚を持ち、バンドの運営にも積極的に参加する。DP⑤ ・団体行動を通じて個々の役割を認識し、合奏に不可欠なコミュニケーション力を高める。DP⑤ <p>(注) 具体的には 木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット） 金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ） 打楽器によって構成される合奏形態である</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。 内容はコーラル練習、リズム練習等の基礎合奏、演奏会に向けての楽曲練習が主となる。 8月にはオープンキャンパスの体験授業、12月1日(月)のウィンド・バンド演奏会、1月にはファミリーコンサートへの出演が予定されている。また短期大学の式典での演奏を担当する場合もある。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
参考音源や資料を活用し、取り組んでいる楽曲の予習、または担当楽器の技術向上のための研究をすること。想定必要時間は2時間程度になる。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業への参加姿勢（評価の90%） 演奏及び運営の貢献度（評価の10%）					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業、演奏会に対する積極性、アンサンブルに対する協調性、等について評価する。 ・独奏、合奏における音楽性、正確性→演奏への貢献度 運営、演奏のための係（インスペクター、コンサートマスター等）に携わり授業内でのリーダーシップを取る→運営の貢献度 <p>以上を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。 楽譜に関してはその都度こちらから配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。 また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。					

授業計画	
	【前期】様々なジャンルの曲を練習、学習する。オープンキャンパス体験授業で使用する曲も練習する。
1	ガイダンス
2	基礎合奏 和音について
3	基礎合奏 ダイナミクスについて
4	基礎合奏 アーティキュレーション
5	2025 課題曲 譜読み
6	2025課題曲 構成の理解
7	2025課題曲 まとめ
8	ポップス曲 譜読み
9	ポップス曲 ニュアンス
10	ポップス曲 イントネーション
11	12月コンサートの曲配布、譜読み
12	12月コンサートの曲（前半）構成
13	12月コンサートの曲（前半）和音
14	オープンキャンパスの練習
15	オープンキャンパス実施

授業計画	
	【後期】12月のウインド・バンド演奏会に向けての楽曲、ファミリーコンサートで演奏する曲の練習が主となる。
1	12月コンサートの曲 セクション中心
2	12月コンサートの曲 和音進行
3	12月コンサートの曲のリズムに重点
4	12月コンサートの曲 表現の工夫
5	12月コンサートの曲 立体感を形成
6	12月コンサートの曲 完成度を高める
7	本番に向けての合奏
8	本番に向けての合奏 細部のチェック
9	本番に向けての合奏 まとめ
10	ウインド・バンド演奏会
11	ファミリーコンサートの練習 譜読み
12	12月コンサートの練習 楽曲の理解
13	12月コンサートの練習 演出等の確認
14	ファミリーコンサート ゲネプロ
15	ファミリーコンサート リハーサル及び本番

科目名	ウィンド・バンド2	授業コード	YE041100	科目コード	YE0411
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 この授業において吹奏楽の合奏、発表を通して音楽をする心を豊かにし、アンサンブルをする力、また表現力を高め、演奏団体として音楽の楽しさを伝えられる事を主題とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い楽曲を通じて音楽表現の多様性を学ぶ。DP③ ・専門家の指導を受ける事で、よりコアで高度な音楽、合奏技術を習得する。DP③ ・演奏会を作り上げる経験を通して、保育現場で活かせる行事等の実施プロセスを学ぶ。DP④ ・ウィンド・バンドのメンバーとしての自覚を持ち、バンドの運営にも積極的に参加する。DP⑤ ・団体行動を通じて個々の役割を認識し、合奏に不可欠なコミュニケーション力を高める。DP⑤ <p>(注) 具体的には 木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット） 金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ） 打楽器によって構成される合奏形態である</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。 内容はコーラル練習、リズム練習等の基礎合奏、演奏会に向けての楽曲練習が主となる。 8月にはオープンキャンパスの体験授業、12月1日(月)のウィンド・バンド演奏会、1月にはファミリーコンサートへの出演が予定されている。また短期大学の式典での演奏を担当する場合もある。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>参考音源や資料を活用し、取り組んでいる楽曲の予習、または担当楽器の技術向上のための研究をすること。想定必要時間は2時間程度になる。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業への参加姿勢（評価の90%） 演奏及び運営の貢献度（評価の10%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、演奏会に対する積極性、アンサンブルに対する協調性、等について評価する。 ・独奏、合奏における音楽性、正確性→演奏への貢献度 運営、演奏のための係（インスペクター、コンサートマスター等）に携わり授業内でのリーダーシップを取る→運営の貢献度 <p>以上を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。 楽譜に関してはその都度こちらから配布する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。 また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。</p>					

授業計画	
	【前期】様々なジャンルの曲を練習、学習する。オープンキャンパス体験授業で使用する曲も練習する。
1	ガイダンス
2	基礎合奏 和音について
3	基礎合奏 ダイナミクスについて
4	基礎合奏 アーティキュレーション
5	2025 課題曲 譜読み
6	2025課題曲 構成の理解
7	2025課題曲 まとめ
8	ポップス曲 譜読み
9	ポップス曲 ニュアンス
10	ポップス曲 イントネーション
11	12月コンサートの曲配布、譜読み
12	12月コンサートの曲（前半）構成
13	12月コンサートの曲（前半）和音
14	オープンキャンパスの練習
15	オープンキャンパス実施

授業計画	
	【後期】12月のウインド・バンド演奏会に向けての楽曲、ファミリーコンサートで演奏する曲の練習が主となる。
1	12月コンサートの曲 セクション中心
2	12月コンサートの曲 和音進行
3	12月コンサートの曲のリズムに重点
4	12月コンサートの曲 表現の工夫
5	12月コンサートの曲 立体感を形成
6	12月コンサートの曲 完成度を高める
7	本番に向けての合奏
8	本番に向けての合奏 細部のチェック
9	本番に向けての合奏 まとめ
10	ウインド・バンド演奏会
11	ファミリーコンサートの練習 譜読み
12	12月コンサートの練習 楽曲の理解
13	12月コンサートの練習 演出等の確認
14	ファミリーコンサート ゲネプロ
15	ファミリーコンサート リハーサル及び本番

科目名	ミュージカル	授業コード	YE041200	科目コード	YE0412
担当教員	山下 順子・武田 直之・細田 瞳・星野 苗緒・稲葉 裕美				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	半期
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 ミュージカルは演技・ダンス・歌を融合させた総合芸術である。 授業成果発表ミュージカルの上演ならびに上演へのプロセスを体験し、理解する。 ミュージカルは演技・ダンス・歌を融合させた総合表現であることを体得する。</p> <p>【到達目標】 ・授業成果発表の場を成功に導くためには、キャスト、アートスタッフ全員が一つになり作品を作りあげていかなければならない。まずは、仲間とのコミュニケーション能力の向上を第一義とする。DP⑤、⑥ ・キャストは歌い、踊り、演じる表現者として、またアートスタッフは舞台美術や衣装・メイクを生み出すクリエイターとして自覚することにより、学生一人ひとりの能力は確実にレベルアップする。DP③、⑥ ・限られた時間・予算の中で、それぞれがアイデアを出し合い、創意工夫しながら最善の方法を考える力を養うことができる。DP③、⑥ ・ミュージカルを通じて創造性、協調性、独自性を持った人材の育成を目標とする。DP③、⑤、⑥</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業計画に沿って、ミュージカル実習を行う。 なお、公演日は8月11日、会場は洗足学園前田ホールを予定している。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>キャストは、メロディや歌詞、台詞、ダンス振り付けなどを確認・練習し、次回の授業までに習得しておくこと。 アートスタッフは、大道具、小道具、衣装などのアイデアを考えておくこと。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業への参加姿勢（評価の70%） 作品での演技・歌・ダンスのパフォーマンス（評価の30%）</p> <p>授業への参加姿勢は、毎回の授業での発表内容における課題の修得レベルを評価する。 作品での演技・歌・ダンスのパフォーマンスは、主に上演での修得レベル並びに観客への貢献度を評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
その都度、配付する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
キャスト希望者は、水曜1限「演技実習（前）」の授業を履修すること。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス。上演作品の紹介、授業の進めかたについて。
2	キャスト、アートスタッフ希望者確定。配役オーディションの音楽稽古、ダンス振り付け。
3	キャスト希望者/オーディションのための音楽稽古、台本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ希望者/アートプランについてのガイダンス。
4	キャストオーディションの実施。
5	キャスト配役発表。 キャスト/音楽稽古、台本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ/アートプランミーティング。
6	Aキャスト/第1場~3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Bキャスト稽古見学。 アートスタッフ/大・小道具・衣装材料収集作業、リスト作成。
7	Bキャスト/第1場~3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Aキャスト稽古見学、ノーツだし。 アートスタッフ/大・小道具・衣装素材作成作業。
8	Aキャスト/第4場~6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Bキャスト稽古見学、ノーツだし。 アートスタッフ/大・小道具・衣装加工作業。
9	Bキャスト/第4場~6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Aキャスト稽古見学、ノーツだし。 アートスタッフ/大・小道具・衣装デコレーション素材作成作業。
10	Aキャスト/第7場~10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Bキャスト稽古見学、ノーツだし。 アートスタッフ/大・小道具・衣装デコレーション加工作業。
11	Bキャスト/第7場~10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振付。 Aキャスト稽古見学、ノーツだし。 アートスタッフ/大・小道具・衣装調整作業。
12	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#1 アートスタッフ/衣装完成、及び衣装合わせ。
13	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#2 アートスタッフ/大・小道具作成作業。衣装直し。
14	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#3 アートスタッフ/大・小道具完成。衣装直し。
15	キャスト、アートスタッフ全員でリハーサル、及び最終チェック。

科目名	特別研究（ゼミ） 秋山	授業コード	YE0413F1	科目コード	YE0413
担当教員	秋山 徹				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 美しく魅力ある「声」を研究しよう！“声を磨き、音楽技能や音楽表現力を高めるゼミ”</p> <p>【到達目標】 保育者にとって、美しい声で話すことや歌うことは大切な要素である。 美しい声と言っても、どのような声が良いと言われる声なのか。どのようにしたら魅力ある声を出すことができるのかを、ソロ、デュエット、アンサンブル曲などを演習しながら研究を重ね、以下を身につける事を到達目標とする。 ・歌唱技術を向上させて、自身の声を活かした理想的な声が出せるようになる。DP①・②・③ ・声と歌唱に自信を持ち、歌がますます好きになる。DP①・②・③</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>活動予定内容□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソロやアンサンブルによる演奏実習 ・乳幼児向けコンサートの企画、ならびに出張演奏実習 ・個人ならびにグループによる希望者音楽レッスン ・その他のコンサート企画、ならびに演奏実習 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>積極的に実習作品の演習や作品研究に取り組むこと。 想定必要時間は2時間程度となる。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>毎回の授業テーマに関する演習内容（評価の50%） 作品研究と演奏実習（評価の50%） 上記実践内容の達成度、作品研究や演奏実習への参加姿勢等を総合的に評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 研究作品の楽譜資料を適宜配布する。</p> <p>【参考文献】 「コード伴奏による幼児歌曲100曲集」 秋山 徹 編 カワイ出版（2015年）2,970円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
休まず受講することが基本である。					

授業計画	
	【前期】指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	ガイダンス
2	前期実習計画案作成
3	前期研究作品演習（邦楽・ソロ）
4	前期研究作品演習（邦楽・二部アンサンブル）
5	前期研究作品演習（邦楽・三部アンサンブル）
6	前期研究作品試演会（邦楽作品）
7	前期研究作品演習（洋楽・ソロ）
8	前期研究作品演習（洋楽・二部アンサンブル）
9	前期研究作品演習（洋楽・三部アンサンブル）
10	前期研究作品試演会（洋楽作品）
11	前期演奏実習作品演習（乳児対象）
12	前期演奏実習作品演習（幼児対象）
13	前期演奏実習作品演習（乳幼児対象）
14	前期演奏実習作品試演会
15	前期演習曲まとめ

授業計画	
	【後期】指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	後期実習計画案作成
2	後期演奏実習作品演習（乳児対象）
3	後期演奏実習作品演習（幼児対象）
4	後期演奏実習作品演習（乳幼児対象）
5	演奏実習作品実習
6	演奏実習事後研究
7	音楽劇作品研究（台本）
8	音楽劇作品研究（演技）
9	音楽劇作品研究（音楽）
10	音楽劇作品実習
11	音楽劇作品事後研究
12	演習・作品研究まとめ（ソロ）
13	演習・作品研究まとめ（二部アンサンブル）
14	演習・作品研究まとめ（三部アンサンブル）
15	総括

科目名	特別研究（ゼミ） 瀧尾	授業コード	YE0413F2	科目コード	YE0413
担当教員	瀧尾 陽太				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 皆さんは音や声がない無音空間の中で、身体表現や表情（ノンバーバル）だけで、どこまで気持ちを伝えられますか？ この授業では、「手話」を通して聞こえない人（ろう者）の文化や言語を体系的に学び、多様性と異文化を尊重できる保育の実践家を目指します。また、簡単な手話で会話することを目標に、進行やグループワークは無音空間（手話、筆談、ジェスチャー、スライドなどを活用）で行います。視覚情報を駆使して、身体表現力を養っていきましょう。</p> <p>【到達目標】 ・ろう者、手話の文化的側面を理解し、医学モデル（聴覚障害、治す対象）との違いを理解し、説明できる。DP⑥ ・音声のない空間で、自分の気持ちや簡単な会話を、手話や筆談などを用いて交わすことができる。DP⑤ ・手話使う人々の存在を知り、実際に出会った時の対応を想定し、実践できる。DP④、⑥</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>体験：無音空間に身を置きながら、手話や筆談を用いて気持ちを通わせることに慣れる。 知識・理解：また、ろう者の生活や言語について学び、障害者への視点を、治す対象（医学モデル）だけでなく、文化や言語を尊重する視点（文化言語モデル）を持つ。 実技：覚えた手話を実際に使い、普段と異なる言語が伝わる楽しさ、手話の重要性を理解する。 グループワーク例：手話だけの環境に身を置きながら、ゲームやクイズを通して、手話を使ってみる。 フィールドワーク例：手話の子どもたちが集まる施設や、ろう者が働く店舗を見学し、生き方の多様性を知る。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<ul style="list-style-type: none"> ・ポータル等で事前に配信した動画および資料の事前読了を求める。 ・授業毎に紹介する参考文献および動画資料を次回授業までに閲覧（所要時間は30分程度）すること。 ・授業時に示されるキーワードを調べ、自分なりの考えをまとめた上で受講すること。想定必要時間は1時間程度になる。 ・毎回の授業の初めに前回授業までの内容を含む振り返りも兼ねた確認テストを行うので復習（30分程度の復習時間を想定）しておくこと。 <p>※確認テスト：無音状態でコミュニケーションを落ち着いて取れるか、習った表現や手段を応用できているかどうかを評価する</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>《割合について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する取り組み（授業内での発言、授業への参加状況、態度）40% ・定期試験に代わるレポート50% ・実技試験 10% <p>《評価基準について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無音状態で実践した様々なコミュニケーション手段（手話、筆談、身体表現、ジェスチャーなど）で、グループワークに参加している様子を評価する。 ・レポート課題を講義内容の視点と絡めて、丁寧に調べ、深く考察しているかどうかを評価する。 ・授業で扱った知見や技能を応用して実技試験に臨んでいる。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
必要に応じて授業内で、適宜、資料を配布する					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業で示す書籍および動画を閲覧しておくこと。 ・遅刻回は欠席回数として扱う。ただし授業には途中から参加可とする。 ・課題に対するフィードバックは、次回授業でコメントを返す。 ・言語学習なので、授業内での単語を全て覚え、完璧に話せることは目標としていません。何度もインプットを繰り返して、徐々に定着を目指しながら、異言語や異文化に触れる体験とそこから得る学びを重要視します。 					

授業計画	
	前期のテーマ：無音空間に慣れながら、コミュニケーション手段を知る
1	無音空間に身を置く① 「手話、筆談、身体表現の基本を体験する」
2	無音空間に身を置く② 「手話で自分の名前や趣味を表現する」
3	無音空間に身を置く③ 「手話やジェスチャーを使った遊びを知る」
4	無音空間に身を置く④ 「相手の言いたいことを想像する力を養う」
5	手話を中心とした交流（グループワーク）「当事者の話をきいてみる」
6	手話を中心とした交流（グループワーク）「無音空間で味わう楽しさ・寂しさを体験する」
7	手話を取り巻く社会「出産～乳幼児」
8	手話を取り巻く社会「幼児期」
9	手話を取り巻く社会「学童期」
10	手話を取り巻く社会「青年期」
11	手話を取り巻く社会「就職」
12	手話を取り巻く社会「仕事」
13	フィールドワーク「Sign with Me」お店の特徴や開店背景を知る
14	フィールドワーク「ろう者と話す」
15	まとめ（手話の基本、手話を取り巻く社会について）

授業計画	
	後期のテーマ：手話で生きる当事者（ろう者）の生活を知る
1	無音空間でできるコミュニケーションの多様性（手話、筆談、表情、ジェスチャー、イラスト等）
2	情報保障とは何か（手話通訳、PCテイク、要約筆記など）
3	手話の文法「Nmm（非手指動作）」
4	手話の文法「CL」
5	手話の文法「ロールシフト」
6	手話を中心とした交流（グループワーク）③ 当事者の話を聞く
7	動画鑑賞「聞こえないことは可哀想？」
8	動画鑑賞「どうして声を出さないの？」
9	フィールドワーク「あ〜とん塾」① 施設の特徴、開所背景を知る
10	フィールドワーク「あ〜とん塾」② 手話の子どもたちと会話してみる
11	手話でいきる子どもたちの実態① あ〜とん塾での交流を振り返って
12	手話でいきる子どもたちの実態② ろう者が本当に求める人物像とは
13	手話の子どもたちと一緒に遊ぶ、会話する実践的な方法
14	総復習（手話、手話を取り巻く社会、ろう者の生活など）
15	総まとめ（実技テスト「伝わる手話で伝える」）

科目名	特別研究（ゼミ） 石濱・下尾	授業コード	YE0413M1	科目コード	YE0413
担当教員	石濱 加奈子・下尾 直子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 幅広い遊びの体験を通じ、保育者として子どもの気持ちに寄り添った遊び、遊びを創造することを学ぶ。					
【到達目標】 ・運動遊びや表現遊びの実践を通して、遊びを伝承する技能を向上させる。DP②、③ ・現代の子どもに伝えたい遊びを創造・計画し、状況に応じて柔軟に実行する力を身に付ける。DP④					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
遊びの計画と実践を通して以下のことを学ぶ。 ●様々な遊びを通じて、遊びの楽しさを実感する。 ●保育者として子どもの気持ちを受け入れながら、遊びを広げていく方法を知る。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
以下の2点を予習・復習とし、想定必要時間は毎日30分程度（歩行などを含めた運動と調整のための時間）とする。 ●日ごろから、遊びに関する情報を収集すること。 ●授業内でおこなった遊びを実践すること。					
4. 成績評価の方法及び基準					
小レポート 30% 授業への参加姿勢 70%					
レポートは、遊びの計画・実践状況や、遊び用具の作成・計画状況を総合的に評価する。 授業全体における積極的な参加姿勢を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
必要に応じてプリントや資料を配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
体調を整え、毎回の授業に全力で楽しむこと。 各授業内容に応じた服装・靴を準備すること。					

授業計画	
	【前期】
1	授業の進め方 自己紹介ゲーム
2	カードゲームの実践
3	ミニ運動会
4	感触遊び
5	砂遊び（1）型抜き
6	砂遊び（2）形を作る
7	街の遊び場探検
8	ボードゲームの実践
9	スポーツ大会
10	パーティー遊び（1）【夏祭り】計画・準備
11	パーティー遊び（1）【夏祭り】
12	子どもの遊び場見学（1）屋外を中心に
13	子どもの遊び場見学（1）の振り返り
14	水遊び（1）水に慣れ親しむ遊び
15	水遊び（2）作戦をたてて行う遊び

授業計画	
	【後期】
1	砂遊び（3）砂浜での造形
2	洗足学園フェスティバルの計画・準備（1）看板等の作成
3	洗足学園フェスティバルの計画・準備（2）サンドアート作品の計画
4	洗足学園フェスティバルの振り返り
5	球技大会
6	運動会の計画・準備
7	運動会
8	子どもの遊び場見学（2）屋内を中心に
9	子どもの遊び場見学（2）の振り返り
10	コミュニケーションゲーム
11	パーティー遊び（2）【クリスマス】計画・準備
12	パーティー遊び（2）【クリスマス】
13	子どもの遊び場のイベントに参加する
14	遊び場イベントの振り返り
15	授業全体のまとめ

科目名	特別研究（ゼミ） 亀井	授業コード	YE0413M2	科目コード	YE0413
担当教員	亀井 博史				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 本ゼミでは、デジタルコンテンツの制作と発信を通じて、創造力と実践的なスキルを身につけることを目的とします。デジタルイラスト、動画編集、音楽制作、電子出版などの技術を学びながら、SNSやYouTubeを活用した発信力も養います。企画から制作、発信までの一連のプロセスをグループワークで体験し、実社会で応用できるスキルを習得することを目指します。					
【到達目標】 ・デジタルコンテンツの制作を通じて、保育活動を豊かに展開する力を養い、表現の幅を広げる。DP③ ・グループワークを通じて他者と協力しながら企画・制作・発表を行い、保育者として必要な協働力を養う。DP⑤ ・著作権や発信における倫理・マナーを学び、適切なコンテンツ制作・運営を行う。DP⑥					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
本ゼミでは、デジタルコンテンツの制作と発信を実践的に学びます。デジタルイラスト、動画編集、音楽制作を基礎から習得し、SNS運営やYouTube投稿、Kindle出版、LINEスタンプ制作などの発信手法を学びます。さらに、著作権やSNSの倫理について理解を深め、適切な発信スキルを身につけます。授業では2～3名のグループで企画を立案・制作し、実践プロジェクトを通じてコンテンツ制作の流れを体験。最終的には成果物を発表し、実際の公開・発信を目指します。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
授業で学んだデジタルイラスト、動画編集、音楽制作の技術を自主的に復習し、実際にツールを使って作品を制作する。特に課題で出された制作物を仕上げ、クオリティを高めることが望ましい。（60分程度）					
授業で制作したコンテンツをInstagramやYouTubeなどに投稿し、反応を分析する。どのような要素が視聴者に受け入れられているのかを考え、次回の投稿や制作に活かす。（60分程度）					
各回の授業に向けて、成功しているYouTuberやInstagramの投稿、デジタル絵本、LINEスタンプなどの事例を調査し、自分の企画や制作に活かせる要素を見つける。（60分程度）					
4. 成績評価の方法及び基準					
制作物の完成度（30%） デジタルイラスト、動画、音楽、絵本などの作品のクオリティと独創性を評価します。					
発信活動の実践（20%） SNS投稿やYouTube・Kindle出版の取り組み度合い、発信の工夫を評価します。					
グループワークへの貢献（20%） 企画立案や制作、発表における積極的な参加と協力姿勢を評価します。					
中間・最終発表（20%） 発表時のプレゼンテーション力、作品の魅力、フィードバックへの対応を評価します。					
授業態度・積極性（10%） 出席状況、ディスカッションへの参加、意欲的な取り組み姿勢を評価します。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
必要に応じて、授業内やクラスルームにて資料を配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
①望ましいスキル・知識 デジタルイラスト、動画編集、音楽制作の経験は不問ですが、基本的なPC・タブレット操作ができることが望ましいです。SNSを活用した発信に興味がある学生を歓迎します。					
②授業参加のルール ゼミ形式のため、積極的なグループ活動への参加が必須です。著しく協力姿勢を欠いた場合は単位認定の対象外となることがあります。					
③単位認定の対象外 期日までに制作物を提出しない場合、または発表やグループワークに無断で参加しなかった場合は単位取得が困難になります。評価基準の各項目で最低基準を満たさない場合も単位は認定されません。					
④その他の注意事項 各自のPC・タブレットを持参することが推奨されますが、本ゼミで準備する機材も使用可能です。授業外での自主制作や発信活動にも積極的に取り組むことを期待します。					

授業計画	
	デジタルコンテンツ制作の基礎を学びながら、発信の実践も行います。デジタルイラスト、動画編集、音楽制作の技術を習得し、ショート動画やSNS投稿を通じて発信力を高めます。成功するクリエイターの分析や著作権・モラルの理解を深め、グループでの企画制作を進めながら、中間発表で成果を共有します。
1	ガイダンス ゼミ概要と目標設定
2	デジタルイラストの基本技術①（レイヤーとブラシ）
3	デジタルイラストの基本技術②（色塗りと加工）
4	成功するYouTuber・Instagramerの特徴分析
5	SNSの著作権と倫理（モラルとマナー）
6	動画制作の基礎①（ショート動画）と企画書制作
7	Youtubeショート動画の撮影と編集
8	中間発表とフィードバック
9	写真や短い動画の編集・投稿（Instagram編）
10	写真や短い動画の編集・投稿（Tiktok編）
11	デジタル音楽の打ち込み①（メロディーとピアノ）
12	デジタル音楽の打ち込み②（編曲テクニックとミキシング）
13	動画制作の基礎②（長尺動画）と企画書制作
14	長尺動画の撮影と編集
15	前期の制作発表とフィードバック

授業計画	
	前期の学びを活かし、長尺動画やLINEスタンプ、デジタル絵本の制作・発信を实践します。SNSやKindleでの発信を強化し、グループごとの実践プロジェクトに取り組みます。最終発表では、制作したコンテンツを発表し、今後の活動につなげます。
1	デジタルイラストのアニメーション作成
2	オリジナルLINEスタンプの企画立案
3	オリジナルLINEスタンプの制作から申請
4	デジタル塗り絵の制作
5	塗り絵のKindle出版
6	デジタル絵本の台本制作
7	デジタル絵本のイラスト制作
8	デジタル絵本の文字入力
9	デジタル絵本のKindle出版
10	実践プロジェクト①：テーマ決定と計画
11	実践プロジェクト②：制作開始
12	実践プロジェクト③：中間チェック
13	実践プロジェクト④：完成
14	制作作品 最終発表会①
15	1年間の総括 これまでの投稿の経過

科目名	特別研究（ゼミ） 田口・Salia	授業コード	YE0413M3	科目コード	YE0413
担当教員	田口 宏子・Salia				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 短期大学生向けに行う授業。 「声」の世界を学び、実際に実演をしてみることで「声色」に秘められた無限の可能性を体感してみよう。</p> <p>【到達目標】 ・「演技(ナレーション・アニメ等)」と「歌唱(アニメソング等)」についての基礎知識を対面形式で学び、その知識を活用しながら実技実習を行うことで、自分らしい声色や特性を把握し、表現方法を磨いていく。DP③ ・「洗足学園フェスティバル」ではエンターテインメント性のあるパフォーマンスを発表する。DP⑤ ・学期末に向けては、さらなる自己表現の可能性を模索し、表現のスキルアップを目指す。DP④</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>授業は対面形式で行う。 授業の内容によって小体育館と、声優アニメソングコース専用録音スタジオ教室を使い分ける。</p> <p>演技・歌唱ともに、各専門教員により年間スケジュールに沿って指導する。 「演技」と「歌唱」の2つの分野を同時進行で講義・実演を行い、またコラボレーションすることで、表現の幅の広さや可能性を模索する。 時にはグループワーク等を交えて演習を行う。</p> <p>各分野ともに「基礎」「発表」「スキルアップ」の流れで授業を行うが、進行度合いによってはシラバスの項目が前後したり、授業内容が更新される場合もある。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>当日の実演授業を円滑に行うために、各自で事前の原稿の読み込みや譜読みをするなどの予習が必要になる。(約60分程度) また、日頃からの体調管理も大切です。 表現に必要な情報を収集するためにも日頃から様々な表現方法に関心を持ったり、作品に好奇心を持つよう心がける。 事前に資料が配付される場合と、「初見」と言われる突発的な対応を求められることがある。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業への参加姿勢等（評価の70%） 発表やそれに付随するリハーサル等の参加姿勢等（30%）</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>授業内で使用するテキストなどは必要に応じて配布される。 また、自らの必要に応じて適宜用意をお願いする場合もある。</p> <p>※授業内で配布されるテキストなどは著作権などに関わるものもあるため、取り扱いに配慮を必要とすることがある。</p> <p>参考文献 ・『「医師」と「声楽家」が導く人生最高の声を手に入れる6つのステップ』萩野仁志・後野仁彦著 音楽之友社（2017年）2,640円（税込）など</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>○録音スタジオで使用するマイクは雑音を拾いやすい機材のため、録音実習をする際はマイクに雑音・ノイズ（アクセサリーなど金属製の音が鳴りやすいものや、布擦れのノイズが出やすい素材など）が乗りにくくなるような格好を心がけてください。 ※詳細は授業内で講義あり。</p> <p>○歌唱の授業では、歌う際にリズムを取ったり、ステップ、簡単な振付など学んだりすることがあるため、動くことが必要な授業内容の日には動きやすい服装をお願いする場合がある。</p> <p>○履修者の状況に応じて授業内容を検討する場合もある。</p>					

授業計画	
	【前期】 「演技・ナレーション」と「歌唱」、それぞれの分野の基礎をベースに授業を実施。
1	【ガイダンス】指導者：田口&Salia 授業概要説明、前期目標到達点の確認
2	演技授業 ①表現の方法や種類、基礎知識について ～相手に届くような発声方法とは～
3	演技授業 ②表現の方法や種類、基礎知識の応用 ～練習台本を用いて発声・滑舌のトレーニング～
4	歌唱授業① 「声の出るしくみ」共鳴器官、必要な筋肉の使い方、歌唱のための基本スタンス、発声、姿勢とウォーミングアップを学ぶ
5	歌唱授業② アニソンを歌唱する為の基本的な歌唱法、体を使ったリズムトレーニング、身体全体を使って表現していく。
6	演技授業 ③表現の方法について ～感情の表現方法を考える～
7	演技授業 ④表現の方法について ～距離感の表現方法を考える～
8	歌唱授業③ 「自分に合った曲」を選択し自由曲歌唱 前編 / (他人の歌を聴く)
9	歌唱授業④ 「自分に合った曲」を選択し自由曲歌唱 後編 / (自分を客観的に判断する、ディスカッション)
10	演技授業 ⑤表現の方法について ～登場人物を考える～
11	演技授業 ⑥表現の方法について ～物語を考察する～
12	歌唱授業⑤ 課題曲を用いての演習① ～導入、演習～
13	歌唱授業⑥ 課題曲を用いての演習② ～仕上げ、発表～
14	演技授業 ⑦表現の方法について ～マイク前での動きを考える～
15	演技授業 ⑧表現の方法について ～マイク前での実技～

授業計画	
	【後期】 前期で得た知識を元に、秋に予定されている「洗足学園フェスティバル」に出演。 エンターテインメント性のあるパフォーマンスを目標に授業を行う。 また、学期末に向けてさらなる自己表現の可能性を模索し、表現のスキルアップを目指した授業を実施。
1	【ガイダンス】指導者：田口&Salia 前期授業の振り返り 「洗足学園フェスティバル」のステージに向けた概要説明と目標到達点の確認
2	歌唱授業⑦ 成果発表ステージに向け構成、構築していく
3	歌唱授業⑧ マイクワークやステージングを学ぶ
4	「洗足学園フェスティバル」の成果発表ステージに向けて合同演習①
5	「洗足学園フェスティバル」の成果発表ステージに向けて合同演習②
6	「洗足学園フェスティバル」の成果発表ステージに向けて合同演習③
7	演技授業 ⑨表現方法のスキルアップ ～マイク前の実技・応用～
8	演技授業 ⑩表現方法のスキルアップ ～マイクワーク&実習～
9	歌唱授業⑨ 「アニメソング」の歴史を学び、更なる表現に繋げていく
10	歌唱授業⑩ 懐かしのアニメソングを課題曲とし、歌唱表現、身体表現、技術の向上を図る
11	演技授業 ⑪表現方法のスキルアップ ～自分で選んだ原稿を読む・音声収録を目指す①～
12	演技授業 ⑫表現方法のスキルアップ ～自分で選んだ原稿を読む・音声収録を目指す②～
13	歌唱授業⑪ アニメ作品とテーマソングとの関係についての研究① / グループに分かれて作品決め 研究、ディスカッション
14	歌唱授業⑫ アニメ作品とテーマソングとの関係についての研究② / グループに分かれて作品決め 研究発表、歌唱
15	【年間成果の発表 / 学年末統括】

科目名	特別研究（ゼミ） 谷上	授業コード	YE0413T1	科目コード	YE0413
担当教員	谷上 公子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 この授業では幼児の音楽教育法として幅広く用いられている「リトミック」を学びます。音楽の知識や技術を教え込むというのではなく「感覚的に感じた音楽を身体表現すること」や「自発的な活動」を大切に、子どもも大人も自然に愉しく深く音楽を学びます。スイスの音楽家ダルクローズが考案したこの教育法（メソッド）は音楽感覚とともに心身の発達・調和、集中力、協調性などを養い、表現欲求を生み出すこと・生きる力を養うことも目的とされています。</p> <p>【到達目標】 ・保育現場でのリトミック活動を知り、自ら実践できるようになる。DP②、③、④ ・ダルクローズメソッドで音楽表現を学ぶ。DP②、③ ・さまざまなアンサンブル活動を体験し、創作する。DP②、③、④</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>①保育現場のリトミック活動を知る。 ・前期は年齢別リトミック活動を学び実践します。 ・後期は音楽ゲームを考案・実践・考察します。</p> <p>②ダルクローズメソッドで音楽表現を学ぶ。 ・年間を通してダルクローズ・リトミックで楽しく動き音楽感覚を向上させます。 ・保育者として幅広い音楽的表現力を身に付けます。</p> <p>③アンサンブルを体験し創作する。 ・トーンチャイム、連弾、など仲間とアンサンブル演奏を体験します。 ・保育現場の合奏を体験創作します。 ・身体表現による音楽創作（プラスチック・アニメ）を体験します。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>①レパートリー課題の練習 ②音楽ゲームの準備 ③日常のなかで聴こえてくるリズムやメロディを動く、声にする、楽器で音にする、など「さまざまな音楽表現」の仕方を試してください。</p> <p>上記3点での、授業外の学習（練習）には、2時間程度が必要となります。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>①授業への参加姿勢 50% ②課題実習 50%</p> <p>・年齢別レパートリー・音楽ゲームの実演、考察 ・アンサンブル、創作課題への取り組み</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 授業にて毎回配布（楽譜・指導案・資料）</p> <p>【参考文献】 「リトミック百科-年齢別の基本レッスンから発表会まで」石丸由理／著 ひかりのくに(株)（2003年）1,980円（税込） https://www.hikarinokuni.co.jp/publications/978-4-564-60244-3</p> <p>「年齢別行事ことばかけハンドブック」兵頭 恵子/監修 世界文化社（2019年） 1,430円（税込） https://www.sekaibunka.com/book/exec/cs/19731.html</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>音楽が好きで、みんなで楽しく学びたい人やリトミックを知りたい人、音楽的な楽しい保育を取り入れたい人を募集します。 ピアノや楽譜を読むことが苦手でも心配りません。 実習や就職試験への対策に応じますので、積極的に相談してください。</p>					

授業計画	
	【前期】リトミック基本 年齢別音楽的発達を知りレパートリーを学びます。ダルクローズメソッドで自分自身のリズム感を養います。
1	ガイダンス リトミックについて
2	幼児リトミック① 3歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
3	幼児リトミック② 4歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
4	幼児リトミック③ 5歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
5	幼児リトミック④ 絵本をつかった音楽活動
6	幼児リトミックまとめ
7	リトミックⅠ 「音楽の国へ出発」 こどもの「拍感」・「テンポ感」「強弱」の関わりを知る。
8	リトミックⅡ 「音楽のマーク」
9	リトミックⅢ 「ことばのリズム遊び」
10	乳幼児リトミック① 0歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
11	乳幼児リトミック② 1歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
12	乳幼児リトミック③ 2歳児 発達と音楽の関連 レパートリー
13	リトミックⅣ 「音楽でおしゃべり」
14	前期まとめ① 幼児・乳幼児レパートリー総復習
15	前期まとめ② リトミック（実技・レポート記述）

授業計画	
	【後期】リトミック応用 現場への指導プランを考案・実践・考察します。合奏や創作活動へ発展します。
1	子どものリトミック① 「音楽のゲームを考えよう」
2	子どものリトミック②音楽ゲームの実践
3	子どものリトミック③音楽ゲームの実践と考察
4	リトミックⅤ 「音楽 音のないところ」
5	リトミックⅥ 「音楽 2の国3の国」
6	子どもと楽器①0,1,2歳児 楽器の与え方 3歳児 楽器導入の仕方
7	子どもと楽器②4,5歳児 選曲ポイント、適切なテンポ、リズムパターン。 合奏体験。
8	アンサンブルⅠ「トーンチャイムアンサンブル」
9	アンサンブルⅡ「連弾」
10	アンサンブルⅢ「プラスチック・アニメ」 音楽を視覚化する試み。身体表現による創作。
11	アンサンブルまとめ
12	音楽教育①「保育者に大切な音楽性・音楽力について」 演習 グループディスカッション
13	音楽教育②「保育で大切な音楽指導について」 演習 グループディスカッション
14	後期まとめ①リトミック総復習
15	後期まとめ②実演および指導・アンサンブル発表

科目名	特別研究（ゼミ） 井上・加藤	授業コード	YE0413T2	科目コード	YE0413
担当教員	井上 真理子・加藤 翼				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 保育の質向上を目指す現場の実態から、これからの保育のあり方を考える。特に、子どもの主体性を育む保育を展開する幼稚園、保育所、児童福祉施設等を訪問し、その実態を体感する。保育者としての資質や専門性、環境のデザイン、協同性のもとに実践する保育を観察し、現場の保育者、管理職とのディスカッションを通して、現場で活躍するための自己の課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】 ・保育の質向上に取り組む保育現場を体験し、実態を理解できる DP② ・自らが目指す保育の方向性やそのために必要な保育者の資質・能力を理解できる DP② ・他者と協同し、活動を計画し、実践、展開する力を備えることができる DP⑤ ・社会における教育・保育・福祉の意義を考え、適切な表現で他者に伝えることができる DP⑥</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
○	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
専門科目や実習を通して捉えた子どもの主体性についてディスカッションを通して理解を深める。子どもの主体性を尊重した保育を実践している幼稚園・保育所・児童福祉施設等を見学し、その実際を理解する。子どもの生活や遊びが発展するための環境デザインについて、理論を学ぶとともに、幼稚園や保育所の見学でその実際を理解する。保育者や管理職と共に、保育の実際についてディスカッションする。気づいたことや学んだことを整理し、プレゼンテーションすることを通して、他者に伝える力を養う。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
授業で取り上げたテーマについて、文献や資料を検索し理解を深め、次の授業での話し合いの内容を整理する。想定時間は各授業につき、120分程度である。					
4. 成績評価の方法及び基準					
<評価の方法と割合> 授業への参加状況（60%）、課題やレポート（40%）					
<評価の基準> ・保育現場における観察姿勢や質疑応答における発言の状況や内容を評価する。 ・授業におけるグループディスカッションへ貢献度、プレゼンテーションの内容の充実度を評価する。 ・課題やレポートは、与えられたテーマについて、講義や現場体験の内容を踏まえ、適宜、参考文献等を活用して自己の見解を深めることができているかを評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
授業中に、適宜、資料を配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
子どもの主体的な育ちを支える保育に関心を持ち、学生自身もまた主体的に保育実践をより深く理解したいと授業に参加できる積極性のある姿勢を求めます。 テキストや講義内容と共に、実際の保育実践や保育者の語りに触れ、自己の保育観や保育者像を見つめ、参加者同士による語り合いや見解の共有から多面的に保育を捉えようとする態度で参加してください。					

授業計画	
1	オリエンテーション：これからの保育のあり方を考える
2	子どもの主体性を尊重する保育を考える
3	実践①かほる保育園の見学(1)子どもに着目して
4	実践①かほる保育園の見学(2)保育環境に着目して
5	研究①かほる保育園から考える保育の質
6	討議①子どもの主体性を保障する保育環境
7	実践②宮前幼稚園・宮前おひさまこども園の見学(1)自然環境に着目して
8	実践②宮前幼稚園の見学(2)遊びの環境に着目して
9	研究②宮前幼稚園から考える保育の質
10	討議②自然と文化が子どもに与える影響
11	実践③世田谷代田仁慈保育園の見学(1)：地域とつながる保育に着目して
12	実践③世田谷代田仁慈保育園の見学(2)：子どもの創造性を育てる保育に着目して
13	研究③世田谷代田仁慈保育園から考える保育の質
14	討議③地域とつながる保育の可能性
15	多様な保育実践を理解する(1)幼稚園<公開ゼミ>

授業計画	
1	多様な保育実践を理解する(2) 保育所<公開ゼミ>
2	実践④カミヤト凸凹保育園の見学
3	実践⑤おおわだ保育園世田谷豪徳寺の見学
4	研究④カミヤト凸凹保育園・おおわだ保育園世田谷豪徳寺から考える保育の質
5	討議④子どもにとっての経験の意味を考える
6	楽しさを生み出す経験を計画する(1) 秋の遠足
7	秋の遠足(1) 自然に触れる
8	秋の遠足(2) 戸外における遊びの研究
9	楽しさを生み出す経験を計画する(2) 縁日
10	子どもと共に遊びを楽しむ：縁日
11	仲間との協働により実現する実践を経験する
12	多様な保育実践を振り返る
13	保育者のキャリアを考える
14	子どもの主体性を尊重する保育実践を叶える保育者の専門性
15	まとめ：保育者としての自らの成長と展望

科目名	特別研究（ゼミ） 稲葉	授業コード	YE0413T4	科目コード	YE0413
担当教員	稲葉 裕美				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 1年次の造形表現（表現）で培った応用展開力の理解をより広げていく。子どもにとって、身の回りにあるものは遊びの材料の一つとしてなり得る。まずは学生自身が、身の回りのものを造形活動の援助者として生かしていく知識を身につける。 さらに、子どもの心身の発達や現代の取り巻く環境等を踏まえて、子どもが意欲的に造形活動を楽しむ技能を高める。保育者・社会人として、まずは創り出すことを楽しむ。 実際に造形活動を通して子どもと関わる機会も設けて、実践としての技術も身につける。</p> <p>【到達目標】 ・1年次に習った造形表現（表現）の「おもちゃ作り」「簡単工作による演じ物作り」のノウハウを踏まえ、それを継続演習していく事で現場で自在に造形表現を展開していける応用力を身に付ける。DP②、③、④ ・素材や材料に関する知識や造形表現力を養い、今後の保育現場を見据えて子どもと共に表現、制作できるようになる。DP②、③、④</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
○	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
1年次に学んだ手作りおもちゃのレベルアップ、応用展開したおもちゃ、また身の回りの物を使って作る演じ物も季節に合わせていくつも提案する。また2年次で扱わない材料や素材も用いての工作もレパートリーを増やしていくために取り入れていく。 また、保育現場で取り上げられている多くの造形遊びも取り入れて、学生自身がさまざまなあそびの体験を積み重ねていく。 完成を急かさず時間をかけていい物を作り上げる事で造形を楽しむ気持ちを育て、現場での造形活動への自信に繋げていく。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
作る回数が増えるほど手際も良くなり、子ども達のいる現場で自在に活用できるので復習は重要である。そのための材料提供は可。 予習・復習合わせて2時間程度を想定している。 洗足学園フェスティバルなどの期間は準備段階もあるので、授業時間外で活動することも想定している。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業への参加姿勢（評価の50%） 作品充実度（評価の50%）					
授業への参加姿勢は、工作を積極的に楽しむ授業態度が評価基準となる。授業と同じ意欲で臨むこと。 作品充実度は、製作物の出来不出来ではなく、製作体験をして造形を楽しむ気持ちを育むことが何より重要である。 応用力の発揮はもちろん、授業時間内で見本を忠実に真似て作ることも同等に重視し、作品の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
特になし					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
工作道具は一年時の造形表現（表現）で指定した物を毎回持参することが望ましい。 半期（前期・後期のいずれでも）授業時数の3分の2以上出席しなければ、単位が認定されない。					

授業計画	
	【前期】 工作は時代の流行に即して新しいものを取り入れ今の子供たちに提供して行くことが望ましい。一応のプログラムはあるが流行り物、新しく考案したおもちゃや演目、造形あそびなども随時取り入れていく。参加学生の興味や要望、製作のスピードなども考慮し、順番や回数は変わっていく。
1	オリエンテーション、ビニール袋工作(ビニール袋での立体おもちゃ)
2	はじめまして(紙皿で作る自己紹介用の演目)
3	粘土に触れる(現場でよく扱う粘土遊び)
4	おもちゃコンテストに向けての計画立て、制作
5	花玉(ペーパークラフトの季節のくす玉)
6	粉からつくる粘土体験(小麦粉、米粉、小麦粉など)
7	おたまなんのこ(身の回りのものを使った演目)
8	魔法のステッキ(アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用小道具)
9	クレパスあそび(ステンシルなど)
10	色水遊び(身近な材料を用いて)
11	寒天あそび体験
12	たのしいおたんじょうび(紙コップで作る誕生日会の演目)
13	版画体験(現場でも扱いやすい版画体験)
14	張り子作り体験
15	マーブリング体験(技法に触れて実践に生かす)

授業計画	
	【後期】 前期と同様
1	ペーパーヨーヨー（伝承遊び）
2	洗足学園フェスティバルについての計画立て、制作、準備
3	食材での染め物体験
4	スタンドグラスづくり
5	洗足学園フェスティバル準備・計画
6	洗足学園フェスティバル振り返り
7	マジックハンド（紙パックで作る遊具）
8	毛糸玉あやつり（毛糸玉で作るあやつり人形）
9	パクパク人形（スポンジで作る口を開く人形）
10	キットパス体験
11	キャラ弁づくり（身近な素材を活かす体験）
12	モビール工作（バランス）
13	シャボン玉研究
14	スライム体験
15	びっくり箱（パネを使わないびっくりおもちゃ）

科目名	特別研究（ゼミ） 菊本	授業コード	YE0413T5	科目コード	YE0413
担当教員	菊本 香代				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 「影絵」を通して豊かな感性を学び、想像を創造に変えていく力を高める。 洗足学園フェスティバルでオリジナルの「影絵劇」をみんなで一からつくり発表することで、人に伝えることの楽しさや難しさを体験する。</p> <p>【到達目標】 ・日本の伝統的な影絵遊びを伝承する技術を身につける。DP③ ・他者と協力し一から創造する力、コミュニケーション能力を向上させる。DP⑤ ・演習の発表から子どもとの触れ合い方を学ぶ。保育者としてではない立場で子どもたちと接することで新たな発見をし、その経験をもとに展開していく力を向上させる。DP①、③</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・手影絵の手法を学び実践、グループ発表する。 ・様々な影絵人形を製作し操演、グループ発表する。 ・洗足学園フェスティバルでオリジナルの影絵劇を企画・実習発表する。 ・保育の現場で活かせる影絵遊びを企画・実践する。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>授業で取り上げた影絵について復習し身につけること。必要想定時間は30分程度になる。 グループ発表及び実習発表の演習に向けて取り組むこと。必要想定時間は1時間程度になる。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p><評価の方法と割合> 授業に対する姿勢、取り組み（評価の50%） グループ発表・実習発表への姿勢、取り組み（評価の50%）</p> <p><評価の基準> グループ発表・実習発表への姿勢・取り組みは、自分の意見を伝えるなどの積極性、メンバーとの円滑なコミュニケーションの配慮、製作物の作業工程、予習・復習の度合いなどを総合的に評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 「手で遊ぶ おもしろ影絵ブック」 後藤圭 著 PHP研究所（2005年） 1,210円（税込）A5判・79頁 ISBN：978-4-569-64200-0 https://kakashiza.thebase.in/items/14125121</p> <p>【参考文献】 参考動画、資料については適宜紹介する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>汚れても良い動きやすい服装（半袖もしくは袖を捲れる服）・靴を準備してください（スカート不可）。 授業に使用するものの準備、片づけを積極的に協力して行なってください。 参加者同士関心や思いやりの心を持って参加するよう求めます。 夏休み期間中も数回開講予定です。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション 影絵の仕組みと影遊び
2	手影絵基礎
3	ハンカチ人形・手影絵
4	玉人形・手影絵
5	ハンカチ人形と玉人形でお話作り
6	全身影絵・マスク人形
7	十時人形・手影絵
8	背景をつくる（工作）
9	背景をつくる（デジタル）
10	影絵人形基礎
11	影絵人形応用
12	手影絵と影絵人形でお話作り
13	洗足学園フェスティバルの企画・準備
14	洗足学園フェスティバルの準備①（台本・コンテ・人形作成）
15	洗足学園フェスティバルの準備②（人形・背景作成）

授業計画	
	【後期】
1	洗足学園フェスティバルの準備③（人形・背景作成、段取り稽古）
2	洗足学園フェスティバルの準備④（段取り稽古）
3	洗足学園フェスティバルの準備⑤（練習、舞台道具作成）
4	洗足学園フェスティバルの準備⑥（練習、舞台道具作成）
5	洗足学園フェスティバルの準備⑦（練習、体験ワークショップ稽古）
6	洗足学園フェスティバルの準備⑧（リハーサル）
7	洗足学園フェスティバル発表
8	洗足学園フェスティバルの振り返り
9	世界の影絵・日本の影絵
10	保育現場での影絵劇①（企画）
11	保育現場での影絵劇②（台本・コンテ作成）
12	保育現場での影絵劇③（スクリーン・人形作成）
13	保育現場での影絵劇④（練習）
14	保育現場での影絵劇⑤（発表・振り返り）
15	まとめ

科目名	特別研究（ゼミ） クリス	授業コード	YE0413W1	科目コード	YE0413
担当教員	クリス チャベス				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 ” Let's Dance!!”（クリスと一緒に踊りましょう！！）</p> <p>【到達目標】 ・基本的なジャズダンスのテクニックを学ぶ。DP② ・完成されたパフォーマンスを発表会等で披露する。DP③、⑤</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
○	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>基本的なジャズダンスのウォーミング・アップ、ステップ、ターンなどのテクニックを習得する。 特にミュージカルを意識しながら、テーマパークダンスとジャズダンスも様々なスタイルの振り付けを習得する。 学生のオリジナルの振り付けによるダンスを創作・披露する。 ゼミ発表会の開催はもちろん、洗足学園フェスティバル（SGF）にも出演し、日頃の成果を披露する。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>自主練習（ストレッチ、体の動きの復習、イメージトレーニング）を行なうことは当然です。 ダンスの映像や音楽を日頃から視聴し、ダンスに親しみましょう。 振り付けも考案しましょう。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業に対する取り組み（評価の70%） ダンスの振り付け・表現力のパフォーマンス（評価の30%）</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>テキストは使用しない。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>最後の授業まで出席できる学生を希望します。（年度の途中で出席しなくなる学生は履修しないでください） 踊りやすい服装、ダンスシューズ（またはスニーカー）を着用すること。休み時間中に着替えを済ませ、授業開始時には、踊れる体勢を整えてください。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 1年間のゼミの内容説明 ウォーミングアップ
2	・呼吸法からストレッチ ・自分の姿勢を認識・修正 ・姿勢づくりのトレーニング ・クロスフロア（ジャズダンスの基本的なステップ）
3	・ストレッチからクロスフロア ・筋力トレーニング ・クロスフロアなどで基本的なステップを使い、音と体をなじませる
4	・ストレッチからクロスフロア ・簡単なダンスのステップ（キックや上半身のダイナミックな動き）
5	・ストレッチからクロスフロア ・音楽に合わせた振付を覚える。またそれを通して多様な体づかひの認識
6	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・振付に加えフォーメーションを作り舞台上での感覚を養う
7	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア
8	・パフォーマンスの映像の視聴とそれについてのディスカッション ・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
9	・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
10	・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
11	・発表会等でのパフォーマンスをさらに高めるためのクロスフロア
12	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア
13	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備①（ディスカッション）
14	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備②（ステップ確認、選曲）
15	・前期のステップの復習、パフォーマンスのおさらい

授業計画	
	【後期】
1	・前期のステップの復習、確認 ・ステップのグレードアップ
2	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための選曲 ・ステップ練習
3	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習①
4	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習②
5	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習③
6	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習④
7	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習⑤
8	・後期パフォーマンス発表（SGFにむけて、ゼミ発表会）のための練習⑥
9	・発表用パフォーマンスの総仕上げ①
10	・発表用パフォーマンスの総仕上げ②
11	・発表用パフォーマンスの総仕上げ③ ・映像のチェック、ステップ等のパフォーマンスの修正①
12	・発表用パフォーマンスの修正②
13	・発表会パフォーマンスの最終チェック
14	・後期パフォーマンスの映像視聴 ・反省会および評価ディスカッション
15	・最終パフォーマンス（総仕上げおよび踊り納め） ・ゼミの総まとめ

科目名	特別研究（ゼミ） 飯田	授業コード	YE0413W2	科目コード	YE0413
担当教員	飯田 千夏				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 おんがくアンサンブル アンサンブルを通して豊かな感性と表現する力を養い、創造性を育む</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱技術、歌唱表現のスキルアップ。DP②、③ ・楽器（主に伴奏としてのピアノ）の演奏技術、表現のスキルアップ。DP②、③ ・音楽の表現方法の研究と実践を通じて感性を養う。DP①、③ ・音楽の楽しさや深さを知ることによってその本質にせまる。DP①、②、③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>主たる活動は歌うこととなるが、声を合わせる「声楽アンサンブル」を通して音楽の表現方法の研究と実践を積み重ねていく。また楽器（主にピアノ）を演奏することが得意な者は、歌のピアノ伴奏における表現方法の研究と実践を積み重ね「歌とピアノのアンサンブル」を充実させていく。その他の楽器（主に打楽器）を演奏することが得意な者は、「歌とピアノのアンサンブル」に打楽器を取り入れ、楽曲のアレンジを通して音楽の表現方法の研究と実践を積み重ねていく。</p> <p>前期は主に幼児教育現場で取り扱われる楽曲、後期は音楽ジャンルの幅を広げ、クラシック、ミュージカル、映画音楽などの楽曲を用いていく。</p> <p>子どもへ向けての発表を想定して、曲の選定から練習を積み重ね、発表を見据えた企画、構成を考えていく。保育現場や学内でのミニコンサート、また学外への演奏参加についても積極的に行っていきたい。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>演習する楽曲について内容の理解を深め、自身が納得できる演奏になるように練習を積み重ねること。 想定時間は週120分程度。20分程度でよいので毎日練習することが望ましい。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業内での演習曲への取り組み（70%） 発表の成果（30%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的、意欲的に演奏し、アンサンブルにおける貢献度を評価する。 ・個々が担当する演奏内容について評価する。 					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 授業内で適宜配布</p> <p>【参考文献】 「日本童謡名曲集」長田暁二編著 全音楽譜出版社（2018年）4,290円（税込） 「世界名歌110曲集1」全音楽譜出版社（1955年）2,530円（税込） 「世界名歌110曲集2」全音楽譜出版社（1958年）2,640円（税込） 「こどもと歌おう」カワイ出版（1973年）2,640円（税込）</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>歌うことが得意、好き、もっと自信を持ちたいなど自身の音楽能力を高めたい、伸ばしたいと思う積極性のある姿勢を求めます。また歌に限らず、ピアノが得意、好きなど自身の演奏能力や表現力を高めたい、伸ばしたいと思う学生の参加も大いに必要です。一人では成し得ないのが音楽の協働作業「アンサンブル」です。音楽に関心を持ち、主体的に実践し積極性のある姿勢と仲間と協働しあう姿勢を求めます。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	前期オリエンテーション
2	演習曲ジャンルの紹介 こどものうた・童謡・外国民謡・わらべうた
3	演習曲の選定と考察 こどものうた・童謡から
4	演習曲の実践活動① こどものうた・童謡
5	演習曲の選定と考察 外国民謡から
6	演習曲の実践活動② 外国民謡
7	演習曲の選定と考察 わらべうたから
8	演習曲の実践活動③ わらべうた
9	子どもへ向けての発表を想定した演奏会の企画・構成を考える
10	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動①の復習 こどものうた・童謡
11	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動②の復習 外国民謡
12	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動③の復習 わらべ歌
13	演奏会へ向けての準備とまとめ リハーサル
14	演奏会へ向けてのまとめ リハーサルの振り返りと改善点の修正
15	演奏会 子どもへ向けての発表を想定した演奏会

授業計画	
	【後期】
1	後期オリエンテーション
2	演習曲ジャンルの紹介 クラシック・ミュージカル・映画音楽
3	演習曲の選定と考察 クラシック曲から
4	演習曲の実践活動① クラシック曲
5	演習曲の選定と考察 ミュージカル（サウンドオブミュージック）から
6	演習曲の実践活動② ミュージカル（サウンドオブミュージック）
7	演習曲の選定と考察 映画音楽（ジブリ・ディズニー）から
8	演習曲の実践活動③ 映画音楽（ジブリ・ディズニー）
9	子どもへ向けての発表を想定した演奏会の企画・構成を考える
10	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動①の復習 クラシック
11	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動②の復習 ミュージカル
12	演奏会へ向けての準備 演習曲の実践活動③の復習 映画音楽
13	演奏会へ向けての準備とまとめ リハーサル
14	演奏会へ向けてのまとめ リハーサルの振り返りと改善点の修正
15	演奏会 子どもへ向けての発表を想定した演奏会

科目名	特別研究（ゼミ） 尾根	授業コード	YE0413W3	科目コード	YE0413
担当教員	尾根 秀樹				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	保育士資格 選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 本授業では、幼児教育の中で領域「表現」における基礎的な知識及び技能について理解する。 そして、学んだ技能をもとに、保育者として実践するための方法や技術、援助方法を体感的に学んでいく。 シアターとドラマを学ぶことで、保育者としての表現力・実践力・協働力を培う。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「表現」のねらいと内容を理解し、保育実践として行うための基礎的な知識と技術を習得する。DP② ・こどもの表現活動の実技演習を通して、領域「表現」の視点から「遊びを通しての総合的な指導」を学び、実践力を高める。DP③、④ ・保育者が行う劇活動やグループワーク、演習を通して、保育者として必要な表現力・コミュニケーション力・協働力・創造力を培う。DP③、④ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
☐	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
☐	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の中で領域「表現」における基礎的な知識及び技能について理解を深め、乳幼児期に育むべき表現について知る。そして、学んだ技能をもとに、保育者として実践するための方法や技術、援助方法を習得する（ごっこあそび、表現あそび、劇あそび、劇等）。 ・表現活動におけるシアターとドラマを体感し、「遊びを通しての総合的な指導」を学ぶ。 ・保育者が行う劇活動やグループワーク、演習を通して、保育者として必要な表現力・コミュニケーション力・協働力・創造力を培う。 					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<ul style="list-style-type: none"> ・各授業ごとに提示されるテーマについて、配布資料や関連する文献、資料から理解を深める。（予習と復習で、合計120分程度の所要時間が想定される。） ・こどもの表現活動について、調べ学習を行う。 					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>【授業に対する取り組み 60%、課題の提出状況や内容 40%】 授業における参加姿勢や、グループワークでの積極性や主体性、協働性を評価する。 また、課題においては、表現活動の指導計画の内容、また、自己の見解を深めることができているかを評価する。</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>【テキスト】 授業中に適宜、資料を配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉」内閣府 文部科学省 厚生労働省・チャイルド社（2017年）550円（税込） ・「幼稚園教育要領解説」平成30年2月 文部科学省〈電子資料〉 https://www.koseikan.co.jp/revise/up_img/1551661301-662781.pdf ・「保育所保育指針解説」平成30年2月 厚生労働省〈電子資料〉https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/000202211.pdf ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省〈電子資料〉 https://www8.cao.go.jp/shoushi/kodomoen/pdf/youryou_kaisetsu.pdf ・「子どもの未来を拓く保育内容表現」花輪充 編著 青踏社（2024年）2,090円（税込） ・「【オンデマンド版】子どもの表現活動」岡田陽 玉川大学出版部（2008年）1,980円（税込） 					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの表現活動に興味関心を持ち、意欲的に学ぶ姿勢を求めます。グループワークや劇あそび・劇づくりなど、履修生同士での意見交換を活発に行い、互いに学び、育ち合えるよう取り組んでください。 					

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション：領域「表現」とは（理論編）
2	領域「表現」とは（実践編）
3	シアターとドラマについて
4	ストーリー・ドラマ/お話劇と基礎的な知識・技能の習得Ⅰ「ごっこあそびと表現あそび」
5	ストーリー・ドラマ/お話劇と基礎的な知識・技能の習得Ⅱ「劇あそびとは」
6	ストーリー・ドラマ/お話劇と基礎的な知識・技能の習得Ⅲ「劇あそびの実践」
7	インプロヴィゼーション/即興劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅰ「保育者の即興力」
8	インプロヴィゼーション/即興劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅱ「保育におけるインプロヴィゼーション」
9	リーダース・シアター/朗読劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅰ「朗読劇とは」
10	リーダース・シアター/朗読劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅱ「朗読劇の実践」
11	パペット・シアター/朗読劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅰ「保育における人形を扱うことの意義」
12	パペット・シアター/朗読劇の基礎的な知識・技能の習得Ⅱ「人形を活用した実践」
13	保育者が演じてみせる劇の実践Ⅰ「脚本の読み合わせ」
14	保育者が演じてみせる劇の実践Ⅱ「脚本を使つての実演」
15	まとめ（授業内容の復習）

授業計画	
	【後期】
1	シアターの探究と実践Ⅰ「保育者が演じてみせる劇の脚本作り」
2	シアターの探究と実践Ⅱ「朗読劇の脚本づくり」
3	シアターの探究と実践Ⅲ「保育者が演じてみせる劇と朗読劇の実演」
4	子どもたちに向けた保育実践Ⅰ（親子対象）「洗足学園フェスティバルでの実践：保育者が演じてみせる劇」
5	子どもたちに向けた保育実践Ⅱ（親子対象）「洗足学園フェスティバルでの実践：朗読劇」
6	実践からの学び/振り返り
7	ドラマの探究と実践Ⅰ「劇あそびの探究」
8	ドラマの探究と実践Ⅱ「模擬保育：劇あそび」
9	保育現場の表現活動を見学Ⅰ「表現あそびの実践」
10	保育現場の表現活動を見学Ⅱ「劇あそびの実践」
11	保育現場の表現活動についての振り返り
12	表現活動を通して育まれる協働性
13	保育における表現活動の意義
14	子ども主体の表現活動と保育者の役割
15	まとめ：領域「表現」から読み解く「目指すべき保育実践」を考える

科目名	特別研究（ゼミ） 山田	授業コード	YE0413W4	科目コード	YE0413
担当教員	山田 州子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】管打楽器+ピアノで、アンサンブルのコンサートの企画と実施する。 アンサンブル力、表現力などを研究し、コンサートを通じて音楽の楽しさを伝えられる事を主題とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、子どもが楽しく取り組める企画（コンサート）を研究する。DP① ・様々な楽器でのアンサンブルを行い、より綿密な音楽、技術を習得する。DP③ ・イベント企画の担当作業を協力して行うことにより、コミュニケーション力を高める。DP⑤ <p>履修者は、 木管楽器、金管楽器、打楽器の経験者及び、 それらの楽器経験者でない場合は、ピアノ（連弾や伴奏など）で参加できます。</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
☐	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
☐	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
☐	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>7月、1月に学内でのコンサート、洗足学園フェスティバルへの参加、 その他、近隣幼稚園、保育園での出張コンサートを予定しています。</p> <p>コンサートの企画書、実施計画書、チラシ、プログラム、司会台本などの作成 コンサートの演奏アンサンブルのレッスンを行います。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
各自、自分の係の準備及び演奏曲の練習を行うこと。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業内での演習（評価の50%） コンサート出演、係の仕事（評価の50%）					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
その都度、図書館等で楽譜を準備し、配布する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
履修者の楽器によって、アンサンブルを組みます。 ピアノ参加の学生は、楽器アンサンブルの伴奏か、 ピアノ連弾などグループにも分けます。					

授業計画	
	【前期】コンサート企画に必要なことなどを考え、学内コンサートの準備を行います。 また、学外でのコンサートの企画書を作成し、実施園にプレゼンテーションを行います。 グループ毎にレッスンをを行います。
1	自己紹介 コンサートの企画相談
2	コンサート企画書作成 各担当決め 曲目考案
3	コンサート企画書作成（継続） 曲目決定
4	各担当の課題実施 楽譜準備
5	各担当の課題実施 楽譜読み込み アンサンブルレッスン1
6	各担当の課題実施 楽譜読み込み アンサンブルレッスン2
7	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン3
8	各担当の課題中間発表 アンサンブルレッスン4
9	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン4
10	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン5
11	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン6
12	各担当の課題まとめ アンサンブルレッスン7
13	コンサートリハーサル準備 アンサンブルレッスン8
14	コンサートリハーサル
15	コンサート実施

授業計画	
	【後期】前期同様、学内コンサートの企画。 また、学外コンサートを実施します。
1	コンサート企画書作成 各担当決め
2	コンサート企画書作成（継続） 曲目考案
3	各担当の課題実施 曲目決定 楽譜準備
4	各担当の課題実施 楽譜読み込み アンサンブルレッスン1
5	各担当の課題実施 楽譜読み込み アンサンブルレッスン2
6	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン3
7	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン4
8	各担当の課題中間発表 アンサンブルレッスン5
9	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン6
10	各担当の課題実施 アンサンブルレッスン7
11	各担当の課題まとめ アンサンブルレッスン7
12	コンサートリハーサル準備 アンサンブルレッスン8
13	コンサートリハーサル
14	コンサート実施
15	1年の振り返り

科目名	特別研究（ゼミ） 坪井・岡本	授業コード	YE0413W7	科目コード	YE0413
担当教員	坪井 葉子・岡本 かおり				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 近隣の保育施設等での読み聞かせ実践にふれることを通して、子ども理解・読み聞かせ教材への理解を深め、保育に必要な読み聞かせの技術・方法を身につける</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居を理解し、保育場面において活用できる。DP②,③ ・導入と展開を考え、読み聞かせを自ら実践できるようになる。DP③ ・読み聞かせを通して子どもと関わることができる。DP②,③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
○	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
読み聞かせの基礎的知識を身に付け、子どもとふれあいながら読み聞かせの実践力の向上を目指す。					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居は日頃から読み進めていくこと。 ・指示された復習課題・予習課題を行う。全体で毎回120分程度の授業外学習が必要と想定される。 					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業回ごとの課題 100% 授業で提示した課題への取り組み姿勢・内容の充実度を評価する。					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
必要に応じて資料の配布・紹介をする。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
1年次に学んだ手遊びを復習して実践できるようにしておくこと。 * 受講生の要望、学外保育施設の状況によって、スケジュールは柔軟に調整をしていく場合があります。その場合は事前に相談・お知らせいたします。					

授業計画	
	【前期】
1	授業の進め方等のオリエンテーション
2	高津図書館おはなし会の見学
3	読み聞かせの実践と見学（附属幼稚園）：第1グループ(実践), 第2・3グループ(見学)
4	読み聞かせの実践と見学（附属幼稚園）：第2グループ(実践), 第1・3グループ(見学)
5	読み聞かせの実践と見学（附属幼稚園）：第3グループ(実践), 第1・2グループ(見学)
6	読み聞かせの導入
7	導入から読み聞かせ(授業内発表)
8	絵本POPの作成
9	1対1の読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園または保育所）：第1グループ, 第2・3グループは集団に対する読み聞かせの実践準備
10	1対1の読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園または保育所）：第2グループ, 第1・3グループは集団に対する読み聞かせの実践準備
11	1対1の読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園または保育所）：第3グループ, 第1・2グループは集団に対する読み聞かせの実践準備
12	集団に対する読み聞かせの実践(川崎市内の幼稚園や保育所または図書館)：第1グループ, 第2・3グループは見学
13	集団に対する読み聞かせ実践(川崎市内の幼稚園や保育所または図書館)：第2グループ, 第1・3グループは見学
14	集団に対する読み聞かせ実践(川崎市内の幼稚園や保育所または図書館)：第3グループ, 第1・2グループは見学
15	ふり返りと全体のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	絵本の研究
2	紙芝居の研究
3	子育て広場における読み聞かせの計画
4	子育て広場における1対1の読み聞かせの実践（学園祭または川崎市内の子育て広場など）
5	子育て広場における集団への読み聞かせの実践（学園祭または川崎市内の子育て広場など）
6	子どもの年齢と読み聞かせの教材研究
7	0-1歳児への読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園や保育所または図書館）
8	2歳児への読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園や保育所または図書館）
9	3歳児への読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園や保育所または図書館）
10	4歳児への読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園や保育所または図書館）
11	5歳児への読み聞かせの実践（川崎市内の幼稚園や保育所または図書館）
12	読み聞かせの実践のまとめ
13	読み聞かせの自己評価
14	読み聞かせの今後の課題
15	ふり返りと全体のまとめ

科目名	パイプオルガン1	授業コード	YE0414M1	科目コード	YE0414
担当教員	萩野 由美子・川越 聡子				
授業形態	演習	配当学年	1年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
<p>【主題】 洗足学園の校名の由来である「互いに足を洗う」は、キリスト教の聖書の一節である。本講座では、ヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器、パイプオルガンを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オルガンを通じて宗教音楽に触れ、キリスト教の世界を体感し知識を広げる。DP③ ・オルガンでピアノとは異なる鍵盤へのアプローチを経験し、正しいオルガン奏法を身につける。DP③ ・オルガン曲という未知の楽曲の演習を通し、読譜力を向上する。DP③ ・発表の機会を通じて、発信力と表現力を磨く。DP③ 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
<p>個人の希望やピアノ演奏のレベルに合わせて楽曲を選択し、オルガン奏法を基礎から学んでいく。基本的に5人ずつのクラス授業なので、他の学生の演奏も聴講しながら、総合的に知識や技術を身につける。 また学年末には動画を作成・配信し、学びの成果を発信する。動画作成のための撮影・編集、動画アップなどの作業を通して、ICT活用を経験する。 学期末には、授業内で各自発表を行う。</p>					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
<p>与えられた課題を練習してから臨むこと。 授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。想定される時間は90分程度である。</p>					
4. 成績評価の方法及び基準					
<p>授業に対する取り組み(70%) 授業内での演奏の完成度(30%)</p>					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
<p>讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）や、パッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲を含む独自の教材集を使用する。授業開始時にデータで送付し、各々の希望とレベルに合わせて選曲する。</p>					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
<p>ピアノ学習の経験があり、J. S. バッハの「インヴェンション」、または同程度のクラヴィーア作品を勉強したことがあること。 1回目の授業で、バッハのクラヴィーア作品より任意の1曲を演奏すること。 基本的に5人ずつのグループレッスンの形態を取るが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。</p>					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎 1 (タッチ)
3	奏法の基礎 2 (ペダル奏法)
4	奏法の基礎 3 (レジストレーション)
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲 (1) 時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲 (2) 和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲 (3) レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲 (4) 表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲 (5) 仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲 (1) 時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲 (2) 和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲 (3) レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲 (4) 表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲 (5) 仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある

授業計画	
	【後期】
1	ツイボリの楽曲（1）形式、和声法を中心に
2	ツイボリの楽曲（2）奏法を中心に
3	スタンリーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
4	スタンリーの楽曲（2）奏法を中心に
5	フィッシャーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
6	フィッシャーの楽曲（2）奏法を中心に
7	パッヘルベルの楽曲（1）形式、和声法を中心に
8	パッヘルベルの楽曲（2）奏法を中心に
9	J. S. バッハの楽曲（1）形式、和声法を中心に
10	J. S. バッハの楽曲（2）奏法を中心に
11	クリスマスコンサートの準備（1）プログラミング
12	クリスマスコンサートの準備（2）全体の流れの確認
13	フランクの楽曲（1）形式、和声法を中心に
14	フランクの楽曲（2）奏法を中心に
15	1年間の仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある

科目名	パイプオルガン2	授業コード	SZ*****	科目コード	YL0415
担当教員	萩野 由美子・川越 聡子				
授業形態	演習	配当学年	2年	期間	通年
単位数	2.0単位	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択
1. 主題・到達目標					
【主題】 洗足学園の校名の由来である「互いに足を洗う」は、キリスト教の聖書の一節である。本講座では、ヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器、パイプオルガンを学ぶ。					
【到達目標】 ・オルガンを通じて宗教音楽に触れ、キリスト教の世界を体感し知識を広げる。DP③ ・オルガンでピアノとは異なる鍵盤へのアプローチを経験し、正しいオルガン奏法を身につける。DP③ ・オルガン曲という未知の楽曲の演習を通し、読譜力を向上する。DP③ ・発表の機会を通じて、発信力と表現力を磨く。DP③					
【ディプロマポリシーとの関連】					
	1、豊かな人間性を備え、保育者としての自覚と責任を有している				
	2、幼児教育保育に関する専門的知識と技術を修得している				
○	3、創造的な表現力を身につけ、保育活動を豊かに展開する力をそなえている				
	4、幼児教育保育の多様なニーズに対応できる実践力をそなえている				
	5、社会人および保育者としての必要なコミュニケーション力を有し、他者と協力して仕事を遂行することができる				
	6、高い倫理観に基づき、自身の専門性を活かし地域社会に貢献しようとする意欲を有している				
2. 授業概要					
20分ずつの個人レッスン形式で行う。各々の希望やピアノ演奏のレベルに合わせて楽曲を選択し、更に高度なオルガン奏法を学んでいく。学期末には、授業内で各自発表を行う。 またオーディションで選抜された学生は、1月の幼児教育保育科コンサートで前田ホールオルガンを演奏することができる					
3. 授業時間外の学習（予習復習について）					
与えられた課題を練習してから臨むこと。 授業後は指摘された点を復習し、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。想定される時間は90分程度である。					
4. 成績評価の方法及び基準					
授業に対する取り組み(70%) 授業内での演奏の完成度(30%)					
5. 授業で使用するテキスト・参考文献					
讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）や、パッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲を含む独自の教材集を使用する。授業開始時にデータで送付し、各々の希望とレベルに合わせて選曲する。					
6. 履修条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）					
ピアノ学習の経験があり、J. S. バッハの「インヴェンション」、または同程度のクラヴィーア作品を勉強したことがあること。 「パイプオルガン1」を履修していない学生は、1回目の授業でバッハのクラヴィーア作品より任意の1曲を演奏すること。 日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。					

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎 1 (タッチ)
3	奏法の基礎 2 (ペダル奏法)
4	奏法の基礎 3 (レジストレーション)
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲 (1) 時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲 (2) 和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲 (3) レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲 (4) 表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲 (5) 仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲 (1) 時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲 (2) 和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲 (3) レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲 (4) 表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲 (5) 仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある

授業計画	
	【後期】
1	ツイボリの楽曲（1）形式、和声法を中心に
2	ツイボリの楽曲（2）奏法を中心に
3	スタンリーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
4	スタンリーの楽曲（2）奏法を中心に
5	フィッシャーの楽曲（1）形式、和声法を中心に
6	フィッシャーの楽曲（2）奏法を中心に
7	パッヘルベルの楽曲（1）形式、和声法を中心に
8	パッヘルベルの楽曲（2）奏法を中心に
9	J. S. バッハの楽曲（1）形式、和声法を中心に
10	J. S. バッハの楽曲（2）奏法を中心に
11	クリスマスコンサートの準備（1）プログラミング
12	クリスマスコンサートの準備（2）全体の流れの確認
13	フランクの楽曲（1）形式、和声法を中心に
14	フランクの楽曲（2）奏法を中心に
15	1年間の仕上げとまとめ * 上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ * 各回の授業内容は、進度により変更することがある